

---

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

---

# 紀要

## 2020



2021年10月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

---



〔西 紀〕〔酒〕酒造士錫  
鹿田遺跡第12・27次調査

〔東 夷 紀〕東三河島錫  
鹿田遺跡第24次調査

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要

2020

2021年10月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



## 序

岡山大学津島キャンパスには津島岡大遺跡、鹿田キャンパスには鹿田遺跡、三朝地区には福呂遺跡があります。津島岡大遺跡は縄文時代から近現代にいたる遺構と遺物があり、とくに弥生時代水田遺構の存在で知られています。鹿田遺跡は摂関家の荘園である鹿田荘に関する資料で全国的に知られています。福呂遺跡では貴重な縄文時代早期の資料が著名です。埋蔵文化財調査研究センターは、これらの遺跡の調査・研究・保護と資料の公開ならびに活用事業に従事しています。

2020年度はコロナウイルス感染症流行に伴い、感染防止に努めながら事業を進めました。すべての人にとって初めての経験でしたが、感染者を出さずに事業を推進できたことは幸いでした。そのような状況の中でも津島岡大遺跡第38次・第39次調査をはじめとして各種の調査を実施しております。津島岡大遺跡第39次調査はライフライン再生にともなう検水槽・中継井などの設置にともなう調査でした。調査範囲はそれぞれ大きくはありませんでしたが、縄文時代後期の遺構・遺物を検出するなど多大な成果を挙げております。こうした小規模な調査も積み上げて参りますと、津島岡大遺跡における土地利用の全体像が判明しますし、実際にそのような研究を進めているところです。小規模な調査もおおそかにせずに、丁寧な対応をすることが必要であることが再認識される調査でした。

報告書刊行業務も予定通り進め、発掘した資料の報告も順調に進みました。資料の公開普及活動は疫禍のため、縮小して実施するところもあった一方で、本学文学部考古学研究室・倉敷考古館との共催で展示を行うという初の試みもしているところです。

このように疫禍に悩まされながらも、例年と同様に充実した事業展開をすることができました。これも関係諸機関・学内外の多くの人から協力をいただいた結果であると認識しております。ここに感謝申し上げ、引き続きご支援を賜りますようお願いするものです。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

センター長 袖山 禎之  
副センター長 清家 章



# 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2020

## 目 次

### 第 I 部 2020年度岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの諸活動・業務報告

#### 第 1 章 構内遺跡の調査研究

##### 第 1 節 発掘調査の概要

1. 津島岡大遺跡第39次調査……………(野崎貴博・南健太郎) 1

##### 第 2 節 立会調査の概要

1. 調査の実施状況……………(山口雄治) 11
2. 異分野研究所新営雨水・汚水排水管工事……………(山口) 11
3. 基幹・環境整備共同溝取設工事……………(岩崎志保) 12
4. ライフライン再生(津島南)排水管・橋工事……………(山口) 13
5. ライフライン再生(津島北)排水管工事……………(山口) 15
6. ライフライン再生(津島北)排水管・橋工事……………(山口) 16

##### 第 3 節 構内遺跡に関する研究

1. 津島岡大遺跡第 6 次調査SP9 出土桃核の年代測定……………(パレオ・ラボAMS年代測定グループ) 22
2. 岡山大学構内遺跡出土古代・中世の墨書土器……………(南) 24
3. 岡山県岡山市鹿田遺跡第25次調査出土石鍋の分析……………(白石純・南) 32

#### 第 2 章 調査資料の整理および公開・活用

##### 第 1 節 調査資料の整理・保存処理

1. 調査資料の整理……………(南) 35
2. 調査資料の保存処理……………(南) 35

##### 第 2 節 調査成果の公開・活用

1. 公開・展示
  - a. 第20回キャンパス発掘成果展「岡山大学への道－近世・近代の津島－」……………(山口) 35
  - b. 岡山大学・倉敷考古館学術連携協定記念展示会  
「二万大塚古墳の世界－真備、下道の大家族－」……………(野崎) 37
  - c. 第12・13回公開講座……………(岩崎) 39
2. 資料・施設等の利活用……………(南) 40

##### 第 3 節 調査研究員の個別研究活動

1. 外部資金獲得状況……………(南) 42
2. 論文・資料報告ほか……………42
3. 研究発表・講演ほか……………44

#### 第 3 章 2020年度における調査・研究のまとめ……………(南) 46

## 資 料

1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの規程・組織等…………… 47
2. 2019年度以前の調査・研究一覧…………… 52

## 第Ⅱ部 津島岡大遺跡第35次発掘調査報告

### 第1節 調査の経緯と経過

1. 調査に至る経緯……………(野崎) 73
2. 調査体制…………… 73
3. 調査の経過…………… 73

### 第2節 調査の記録

1. 調査地点の位置…………… 74
2. 層序と地形…………… 75
3. 遺構と遺物…………… 77

### 第3節 第35次調査成果のまとめ…………… 82

## 挿 図 目 次

### 第Ⅰ部

#### 第1章

- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| 図1 調査地点の位置【A地点】…………… 1      | 図21 調査地点の位置…………… 16                       |
| 図2 調査地点の位置【B・C・D地点】…………… 2  | 図22 土層柱状図…………… 17                         |
| 図3 A地点(北壁)柱状図…………… 3        | 図23 2020年度の調査地点【1】<br>-津島地区-…………… 19~20   |
| 図4 検出遺構全体図【A地点】…………… 3      | 図24 2020年度の調査地点【2】<br>-鹿田地区-…………… 21      |
| 図5 B・C地点土層柱状図…………… 4        | 図25 測定試料…………… 22                          |
| 図6 B地点の遺構配置…………… 6          | 図26 暦年校正結果…………… 23                        |
| 図7 C地点の遺構配置…………… 7          | 図27 津島岡大遺跡・鹿田遺跡の位置…………… 24                |
| 図8 近世の畦畔(B地点)…………… 7        | 図28 岡山大学構内遺跡出土墨書土器①…………… 28               |
| 図9 D地点南壁…………… 8             | 図29 岡山大学構内遺跡出土墨書土器②…………… 29               |
| 図10 縄文時代の遺構【D地点】…………… 9     | 図30 岡山大学構内遺跡出土墨書土器③…………… 30               |
| 図11 縄文土器出土状況【D地点】…………… 9    | 図31 鹿田・福呂遺跡出土石鍋と古墳時代<br>滑石原産地の比較①…………… 33 |
| 図12 弥生時代前期の遺構【D地点】…………… 10  | 図32 鹿田・福呂遺跡出土石鍋と古墳時代<br>滑石原産地の比較②…………… 33 |
| 図13 弥生~古墳時代の遺構【D地点】…………… 10 | 図33 鹿田・福呂遺跡出土石鍋と古墳時代<br>滑石原産地の比較③…………… 34 |
| 図14 調査地点の位置…………… 11         | 図34 展示会会場…………… 36                         |
| 図15 土層柱状図…………… 11           | 図35 オープン展示のようす…………… 37                    |
| 図16 調査地点の位置と土層柱状図…………… 12   | 図36 公開講座…………… 39                          |
| 図17 調査地点の位置…………… 13         |   |
| 図18 土層柱状図…………… 14           |   |
| 図19 調査地点の位置…………… 15         |   |
| 図20 土層柱状図…………… 15           |   |



## 第Ⅱ部

図37 津島岡大遺跡構内座標と各調査地点	74	図45 ビット断面	79
図38 土層断面	75	図46 ビット列	79
図39 土層断面	76	図47 近世の遺構	80
図40 検出遺構全体図	77	図48 畦畔断面	80
図41 ビット1・2	77	図49 溝3断面	80
図42 古墳時代の遺構	78	図50 土坑1	81
図43 溝1・2断面	78	図51 出土遺物	81
図44 古墳時代の遺構	78	図52 第12次調査地点との関係	82

## 表 目 次

### 第Ⅰ部

<b>第1章</b>		表6 岡山大学構内遺跡出土墨書土器一覧②	26
表1 2020年度調査一覧（津島地区）	18	表7 鹿田遺跡、福呂遺跡出土石鍋の非破壊 分析結果	34
表2 2020年度調査一覧（鹿田地区）	18	表8 2020年度分析一覧	35
表3 測定試料および処理	22	表9 回答者属性	36
表4 放射線炭素年代測定および暦年較正の 結果	23	表10 アンケート結果	36
表5 岡山大学構内遺跡出土墨書土器一覧①	25	表11 2020年度非常勤講師の委託依頼	41

## 付 図 ・ 付 表

付図1 岡山大学の位置と周辺の遺跡分布	67	付図7 2019年度以前の調査地点【5】 -倉敷地区-	72
付図2 津島地区全体図	67	付表1 1982年度以前の構内主要調査	52
付図3 2019年度以前の調査地点【1】 -津島地区-	69~70	付表2 2019年度以前の構内主要調査	52
付図4 2019年度以前の調査地点【2】 -鹿田地区-	71	付表3 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物 概要	62
付図5 2019年度以前の調査地点【3】 -三朝地区-	72	付表4 埋蔵文化財調査室刊行物	64
付図6 2019年度以前の調査地点【4】 -東山地区-	72	付表5 埋蔵文化財調査研究センター刊行物	64

## 例 言

本書は二部構成とし、第Ⅰ部には岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの2020年度における諸活動記録をまとめた「2020年度岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの諸活動・業務報告」、第Ⅱ部には2013年度に実施した「津島岡大遺跡第35次調査報告」を掲載した。



## 第 I 部

2020年度岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの

諸活動・業務報告

## 例言

1. 第1部は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが、岡山大学構内において2020年4月1日から2021年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査研究成果およびセンターの活動についてまとめたものである。
2. 第1部において報告している津島岡大遺跡は岡山市北区津島中一丁目～三丁目1番1号、鹿田遺跡は岡山市北区鹿田町二丁目5番1号に所在する。
3. 執筆者は、目次に記載すると共に、原則として、本センター教員の場合は文末に、本センター以外の場合は文頭に記した。
4. 編集は清家章嗣センター長・岩崎志保調査室長の指導のもと、南健太郎が担当した。

## 凡例

1. 岡山大学構内の埋蔵文化財の調査にあたっては、2002（平成14）年4月1日から施行された「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」に基づき、世界測地系を採用したが、それ以前の日本測地系による構内座標の相対的位置関係を保持したまま座標値のみ世界測地系に変換している。各地区の座標原点と区割りは次のように定めている。
  - 1) 津島地区では、国土座標第V座標系（日本測地系）の座標北を基軸とし、 $(X, Y) = (-144,156,4617\text{m}, -37,246,7496\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標系を設定している。構内座標の内部は一辺50mの方格で分割した区画を用いている。
  - 2) 鹿田地区では、国土座標第V座標系（日本測地系）の座標北より東に15°振り出した座標軸を基軸とし、 $(X, Y) = (-149,456,3718\text{m}, -37,646,7700\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標系を設定している。構内座標の内部は一辺5mの方格による地区割りを用いている。
  - 3) 棒田中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は国土座標（日本測地系）の座標北を、その他は磁北を用いている。
2. 岡山大学敷地内で調査地点を示す場合、周辺の遺跡にあたる場合はその遺跡名を、それ以外の場合は、地区名を付して示す。
3. 調査名称は、「発掘調査」に分類したものは、遺跡ごとに調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘・確認調査」、「立会調査」に分類したものは、原因・原因となった工事名を使用している。発掘調査のうち、小規模で確認調査から連続して調査したものは、「試掘・確認調査」に分類する。
4. 付表に記載した既往の調査一覧は、掘削深度が中世層以下に達するか、あるいは遺構などが確認された調査のみを掲載している。未掲載分も含め、すべてのデータは、当センターにおいて保管している。
5. 本文などで使用している調査番号のうち、2020年度のは表1・2、2019年度以前のは付表2と一致する。
6. 本紀要に掲載の地形図（付図1）は、岡山市城図を複写したものである。
7. 土層註記において、特徴的な包含物・事項については括弧内に記載した。

# 第1章 構内遺跡の調査研究

## 第1節 発掘調査の概要

### 1. 津島岡大遺跡第39次調査（ライフライン再生、津島地区調査番号1、津島AX03・06・07区・BD18区）

**調査期間** 2020年12月14日～2021年3月29日

A地点：2020年12月14日（造成土除去）、12月21～23日（発掘調査）

B地点：2021年2月4日（造成土除去）、2月4日～3月10日（発掘調査）

C地点：2021年2月12日（造成土除去）、2月12日～3月4日（発掘調査）

D地点：2021年3月8日（造成土除去）、3月8日～29日（発掘調査）

**調査面積** 55.86m<sup>2</sup>（A地点16m<sup>2</sup>、B地点20.64m<sup>2</sup>、C地点9.61m<sup>2</sup>、D地点9.61m<sup>2</sup>）

**調査担当** 野崎貴博（助教、主任：A地点・D地点）、南健太郎（助教、主任：B地点・C地点）

**遺構・遺物**

**【遺構】** A地点 弥生時代：ピット2基、溝3条 中世：ピット1基

B地点 縄文時代：土坑4基、ピット19基 弥生時代：畦畔3面、古墳時代：溝2条、ピット1基 中世：溝1条、耕作痕 近代：畦畔

C地点 縄文時代：土坑9基 弥生時代：畦畔3面 近代：溝（畦畔）1条

D地点 縄文時代：土坑1基 弥生～古墳時代：溝4条

**【遺物】** 総数4箱（27リットル容量の箱に換算して）

（内訳）土器・木器（縄文～近世）4箱

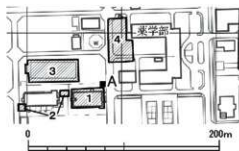
#### a. 調査地点の位置と経緯・経過

##### (1) 調査に至る経緯

岡山大学津島キャンパスでは、2020年度に給排水設備の更新を主な目的とするライフライン再生事業を行うこととなった。特に津島北地区の東半（工・環境理工・教育学部周辺）、津島南地区の西半（農・薬学部周辺）では、配管や樹などの排水設備の更新は大規模で、掘削深度も大きく、大型の検水槽や中継槽の設置が必要とされた。検水槽・中継槽の規模はいずれも上端で一辺3～4m四方、掘削深度は2m以上におよぶもので、津島岡大遺跡では縄文時代の土層やそれ以下に達することが予測された。そのため、検水槽・中継槽については平面規模や掘削深度を勘案して発掘調査を実施することとした。

##### (2) 調査地点の位置

発掘調査の対象となる検水槽・中継槽の設置は、津島南地区西半では1か所、津島北地区では3か所である。同一事業



- 1 第8次調査：自然生命科学研究支援センター（ゲノム・プロテオーム解析部門）
- 2 第16次調査：自然生命科学研究支援センター（動物資源部門津島南施設）
- 3 第30次調査：岡山大学インキュベータ
- 4 第33次調査：薬学部

図1 調査地点の位置【A地点】

ではあるが、位置が大きく離れており、ここでは津島南地区自然生命科学研究支援センター（ゲノム・プロテオーム解析部門）北のものをA地点（図1）、津島北地区のうち、自然科学系総合研究棟南のものをB・C地点、教育学部本館北のものをD地点（図2）として報告する。

調査対象地の周辺におけるこれまでの発掘調査として、A地点では南西に隣接して第8次調査、南西約40～80mには第16次調査、西約20mに第30次調査、北北東約20mに第33次調査がある。特に隣接する第8次調査では、縄文時代の土坑・ピット、弥生時代～古墳時代の溝群が確認されている。

B・C地点は第28次調査地点の南東・南西角に近接して位置する。また、南西約50～70mで第5次調査が実施され、いずれも縄文時代の遺構・遺物、弥生時代前期の水田や黒色土層が確認されている。A地点およびB・C地点は、隣接／近接調査地点で確認されたものと同様の遺構の広がりが見込まれる。

D地点は既調査区とはやや離れて位置しており、隣接／近接する調査区はないが、周辺では北西約20mで第31次調査、東約60mで第32次調査が実施されている。両調査区に加え、北東約40mに位置する第17・22次調査や北～北西約90～100mの第6・9次調査地点は、縄文時代の竪穴住居や貯蔵穴のほか、多数の土坑・ピットが確認され、多量の縄文土器が出土している。津島岡大遺跡では縄文時代の遺構・遺物が濃密な地点にあり、本調査区は、その南への広がりを検証する位置にあっている。（野崎貴博）

### (3) 調査の経過

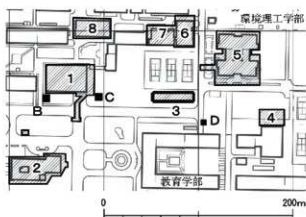
発掘調査はA地点から開始し、ライフライン再生事業全体の進行に合わせ、B・C地点、D地点の順で実施した。基本的に各調査地点を調査員1名が担当する体制とした。

まず発掘調査に着手したA地点では、2020年12月14日に造成土除去、21～23日まで発掘調査を実施した。本地点は西半部・北東角に大きな攪乱が入っており、遺構の残存は不良であった。

B地点は2021年2月4日に造成土除去を行い、同日から発掘調査を開始した。近代層以下の包含層は残存状況が良好で、各時代の遺構が確認された。特に縄文時代の土坑・ピット、弥生時代前期の水田畦畔の検出は注目される。3月10日にプラントオパール分析実施のための土壌を採取し、同日調査を終了した。

C地点は2021年2月12日に造成土除去を行い、同日から発掘調査を開始した。B地点と並行して調査を進めた。包含層の残存状況は良好で、縄文時代から弥生時代前期の遺構が検出された。3月4日にプラントオパール分析実施のための土壌を採取し、同日調査を終了した。

D地点は3月8日に造成土除去を行い、同日から29日まで発掘調査を実施した。近代層以下、古代層までは水平堆積の耕作土層の調査、16日以降、弥生～古墳時代とみられる溝群、弥生時代前期の溝、縄文時代の土坑・土器集中などの遺構を検出、調査を実施した。25・29日にプラント・オパール分析実施のためのサンプリングを行い、全ての作業を終了した。（野崎貴博・南健太郎）



- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1 第28次調査<br>：自然科学系総合研究棟 | 5 第17・22次調査<br>：環境理工学部 |
| 2 第5次調査：自然科学研究科棟        | 6 第9次調査：工学部6号館         |
| 3 第31次調査：東福祉施設          | 7 第6次調査：工学部6号館         |
| 4 第32次調査：剣道場            | 8 第7次調査：工学部4号館         |

図2 調査地点の位置【B・C・D地点】

## b. 調査の概要

各調査地点の概要を示す。なお、B・C地点は、ともに近接する第28次調査地点との関連も強いいため、両地点をあわせて報告する。

## (1) A地点

平面規模は、上端で一辺約4m四方、調査面積は16m<sup>2</sup>である。調査区西半・北東角は擾乱によって失われている。また、包含層残存部のうち、南東部分は近代層・近世層の一部まで削平を受けている。

## ①層序

本調査で確認された土層は7層に大別される。以下、各層の概要を記す。なお、出土遺物はほとんどなく、土層の時期は隣接する第8次調査地点の土層との対応関係に依っている。

〈1層〉本地区が1907・08（明治40・41）年に陸軍駐屯地として整備されて以降、現代までの造成土である。上面の標高は4.05mである。

〈2層〉明灰～灰色粘質土で、明治時代の耕作土にあたる。鉄分の包含が顕著である。上面の標高は2.97m、層厚約0.2mである。

〈3層〉明灰茶褐色砂質土で、近世の耕作土である。上面は鉄分の沈着が顕著で、層中にマンガンを多く包含する。上面の標高は約2.8m、層厚約0.05mである。

〈4層〉明灰黄色土～砂質土で、近世の耕作土である。層中に鉄分・マンガンを多く包含する。上面の標高は約2.75m、層厚約0.05mである。

〈5層〉明灰色土～弱粘質土で、中世の土層である。鉄分やマンガনといった鉱物の包含は認められない。上面の標高は約2.65～2.7m、層厚約0.05mである。

〈6層〉灰色土～弱粘質土で、古代の土層とみられる。顕著な包含物は認められない。上面の標高は約2.6～2.65m、層厚約0.05mである。

〈7層〉淡黄白色砂～砂質土で、津島地区では縄文時代の基盤層と考えている土層である。上面の標高は2.57m、層厚約0.4m以上である。

## ②遺構

遺構は〈6層〉下面で溝3条、ピット2基、〈5層〉上面でピット1基を確認した。

〈6層〉下面で検出した溝は、狭い範囲での確認であるが、いずれも北東～南西方向を指向する。埋土は橙茶褐～灰茶褐色砂質土で、鉄分・マンガンのほか、直径1cm程度の細かい灰色粘質土ブロックを包含する。

ピットはいずれも溝に切られる。残存状況がきわめて不良であるが、平面形は隅丸長方形を呈すると推測される。残存する深さは0.2～0.3mをはかる。埋土には、津島地区で弥生時代早・前期頃に属すると考えている黒色土のブロックを含んでいる。

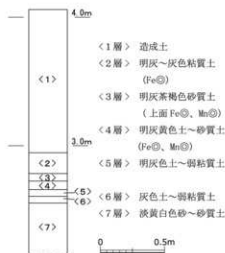


図3 A地点（北壁）柱状図（縮尺1/30）

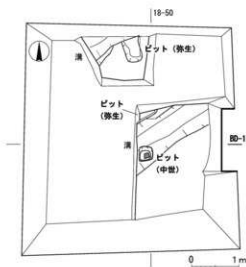


図4 検出遺構全体図【A地点】（縮尺1/80）

〈6層〉下面で検出した遺構のうち、溝3条は隣接する第8次調査地点で確認されている弥生時代中・後期の溝に連続するとみられる。ピットはこの溝に切られていること、黒色土ブロックを含むことから、弥生時代前期～中期までのものと考えられる。

〈5層〉上面で検出したピットの平面形は隅丸方形で、一辺の長さは約0.3mをはかる。断面形はボウル形で、深さは0.16mである。内部に一辺約0.1mの方形板を礎板として入れている。単独で検出したが、周辺部は攪乱により失われていること、隣接する第8次調査地点にも対応するピットは検出されていないことから、現時点ではこのピットの性格は不明である。ピットの時期は、検出層から中世に位置づけられる。

(野崎)

## (2) B・C地点

### ①層序

〈1層〉(旧日本陸軍駐留期以降の造成土) 1907(明治40)年から始まる旧日本陸軍による第十七師団駐屯地としての利用以降の造成土である。現地表面の標高は約4.5mで、層厚は約1.0mである。

〈2層〉(近代) 〈2a層〉は暗灰色砂質土でやや粘性がある。〈2b層〉は灰色砂質土で、〈2a層〉よりも鉄分を多く含む。いずれも小礫を多く含む。近代の耕作土であると考えられる。上面の標高は約3.5mである。層厚はB・C地点ともに約0.1mである。

〈3層〉(近世) 明黄灰色砂質土である。鉄分・マンガンを含み、特に〈2層〉との境における鉄分の沈着は顕著である。〈3層〉から〈6層〉にかけては徐々に粘性が強まっていく。近世の耕作土であると考えられる。上面の標高はB地点では約3.4m、C地点では3.5～3.64mを測る。C地点北東角部の標高が最も高くなっている。層厚はB地点が約0.15m、C地点が約0.12mである。

〈4層〉(中世) 鉄分・マンガンを含み、鉄分は部分的に横帯状に沈着する。〈4a層〉は淡黄灰色砂質土、〈4b層〉は黄灰色砂質土であり、〈4a層〉の方が鉄分を多く含有する。中世の耕作土と考えられる。上面の標高はB

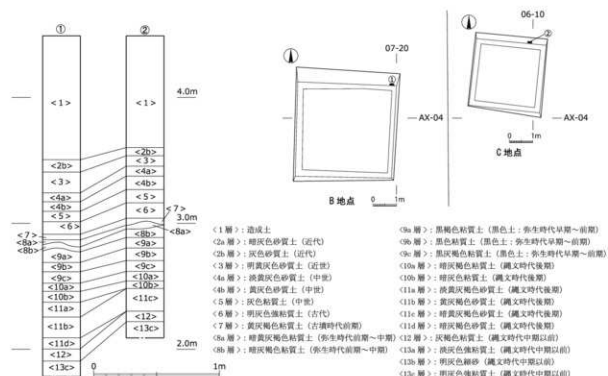


図5 B・C地点土層柱状図 (柱状図: 縮尺1/30、平面図: 縮尺1/80)



地点で3.23～3.30m、C地点で3.41～3.45mであり、C地点のほうがわずかに高くなっている。層厚はB地点が約0.17m、C地点が約0.16mである。

〈5層〉(中世) 灰色粘質土である。鉄分・マンガンを含むが、含有量は〈4層〉よりも少ない。C地点南半の西端では灰色細砂が多く含まれる。中世の耕作土であると考えられる。上面の標高はB地点で約3.1m、C地点では3.22～3.32mであり、C地点のほうが高くなっている。層厚はB地点が約0.07m、C地点が約0.1mである。

〈6層〉(古代) 明灰色粘質土で、鉄分・マンガンを〈5層〉よりも多く含む。〈2層〉から〈5層〉に比べ粘性が強い。古代の耕作土であると考えられる。上面の標高はB地点で約3.0～3.05m、C地点で3.12～3.18mである。層厚はB地点が約0.11m、C地点が約0.1mである。

〈7層〉(古墳時代前期) 黄灰褐色粘質土である。鉄分を多く含む、灰色粘質土や〈8層〉・〈9層〉由来の暗褐色粘質土をブロック状に含む。また黄灰色細砂も含有されており、混じりの多い層である。古墳時代前期の耕作土であると考えられる。上面の標高はB地点で約2.9m、C地点で約3.05mである。古墳時代前期の耕作土であると考えられる。層厚はB地点が約0.07m、C地点が約0.04mである。

〈8層〉(弥生時代前期～中期) 〈8a層〉は暗黄灰褐色粘質土、〈8b層〉は暗灰褐色粘質土である。黄灰色細砂ブロックを多く含む。また〈9層〉由来の暗褐色～黒褐色粘質土ブロックも含まれており、〈8b層〉は特に多い。各層上面では畦畔が検出されており、弥生時代前期～中期の耕作土と考えられる。〈8a層〉上面の標高はB地点で2.85～2.96m、C地点で2.97～3.04mである。〈8b層〉上面の標高はB地点で2.81～2.84m、C地点では2.92～2.99mを測る。層厚はB地点が約0.11m、C地点が約0.09mである。

〈9層〉(弥生時代前期) 黒褐色粘質土をベースとする。〈9a層〉は黒褐色粘質土、〈9b層〉は黒色粘質土で、明灰色粘質土ブロックを多く含む。〈9a層〉は灰色細砂を含有する。〈9c層〉は黒灰褐色粘質土で、明灰色粘質土ブロックの含有はわずかである。マンガンの含有が顕著である。本層は津島地区において「黒色土」と呼ばれる弥生時代前期の隠層である。上面の標高は、B地点で約2.78m、C地点で2.86～2.97mである。層厚はB地点が約0.24m、C地点が約0.27mである。

〈10層〉(縄文時代後期) 〈10a層〉は暗灰褐色粘質土、〈10b層〉は暗灰色粘質土である。両層とも灰色・暗褐色粘質土および〈11層〉由来と考えられる黄灰褐色砂質土をブロック状に含む。〈10a層〉はマンガンを多く含有する。上面の標高は、B地点で2.52～2.56m、C地点で2.62～2.68mを測る。層厚はB地点が約0.15m、C地点が約0.16mである。

〈11層〉(縄文時代後期) 黄灰褐色砂質土を主体とする層である。〈11a層〉は淡黄灰褐色砂質土、〈11b層〉は黄灰褐色砂質土、〈11c層〉は暗黄灰褐色砂質土、〈11d層〉は暗灰褐色砂質土である。砂質は全体的に強く、下方にいくにつれて粘性が増す。〈11d層〉は〈13層〉由来と考えられる明灰色粘質土を径3～5cm大のブロック状に含む。各層の分布は一律ではない。〈11d層〉は〈12層〉の標高が下がっていく南側での堆積が認められる。〈11c層〉はC地点北西部にのみ堆積している。〈11b層〉はB・C地点全体で確認でき、〈11c層〉・〈11d層〉を覆っている。〈11a層〉は〈11b層〉の標高が相対的に低いB地点とC地点南西部に堆積している。上面の標高は、B地点で2.36～2.41m、C地点で2.46～2.51mである。層厚はB地点が約0.33m、C地点が約0.23mである。

〈12層〉(縄文時代中期以前) 灰褐色粘質土である。〈13層〉由来と考えられる明灰色粘質土を径3～5cm大のブロック状に含む。B・C地点ともに調査区北半を中心に堆積している。上面の標高は、B地点で2.0～2.19m、C地点で2.27～2.31mである。層厚はB地点が約0.09m、C地点が約0.11mである。

〈13層〉(縄文時代中期以前) 〈13a層〉は淡灰色強粘質土、〈13b層〉は明灰色細砂層、〈13c層〉は明灰色強粘質土である。〈13c層〉が落ち込むところに〈13b層〉が堆積しており、〈13a層〉は〈13b層〉がスポット的に窪んだところで確認される。上面の標高はB地点で1.97～2.10m、C地点で2.19～2.24mである。

②遺構

縄文時代後期

B地点 土坑4基、ピット25基が確認された(図6-1)。検出面である(10層)上面は調査区全体がほぼ平坦である。土坑は南東角で3基(うち1基は東壁断面でのみ確認)、東壁中央で1基(断面でのみ確認)が検出されており、東側に分布が偏っている。南東角の土坑のうち2基は埋土に焼土が顕著に含まれており、埋土下半は赤色化・硬化が顕著である。一方、ピットは調査区全体で確認された。いずれも底面が標高2.2~2.3m付近であり、大きな時期差はないものと考えられる。土坑・ピットともに出土遺物がほとんどないため時期を明確にし難いが、縄文時代後期中葉に近い時期のものであると考えられる。

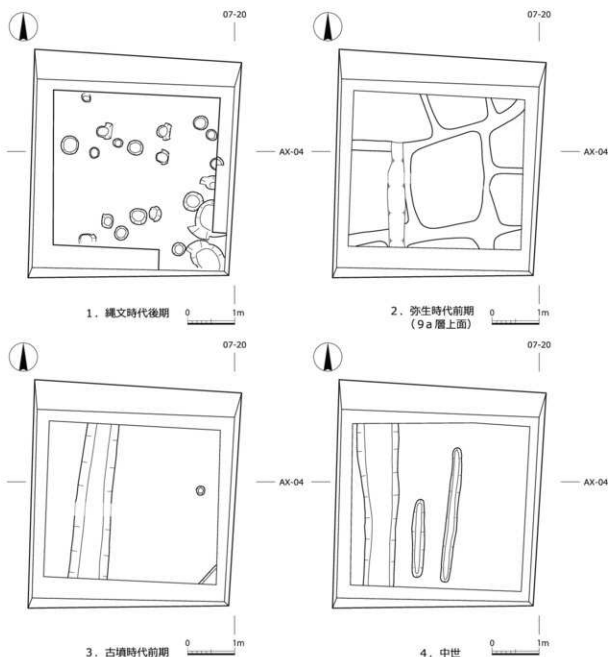


図6 B地点の遺構配置(縮尺1/80)

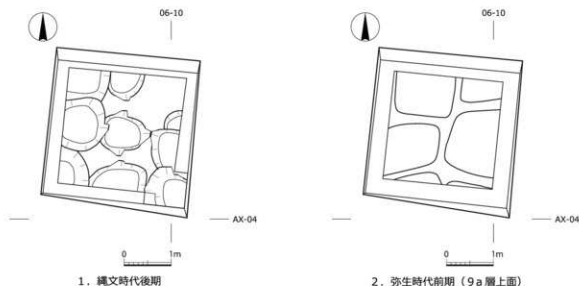


図7 C地点の遺構配置 (縮尺1/80)

**C地点** 土坑9基が確認された(図7-1)。検出面である(10層)はB地点よりも約10cm前後高くなっている。調査区内ではほぼ平坦な状況を示す。土坑は調査区全体で検出されており、一部が切り合って掘削されている。遺構密度は極めて高いと言える。土坑からは土器の小片が出土したのみで、所属時期は縄文時代後期中葉と考えられる。

#### 弥生時代～古墳時代

**B地点** 水田畦畔、溝2条、ピット2基が確認された(図6-2・3)。水田畦畔は(8a層)・(8b層)・(9a層)の上面で検出された。いずれも田面は隅丸方形の小区画なものであり、畦畔の幅は0.2m程度、田面から畦畔上面までの高さは5cm前後のところが多い。出土遺物はないが、(9a層)畦畔は黒色土の上面にあたるため弥生時代前期、(8a層)畦畔・(8b層)畦畔はそれ以降と言える。溝、ピットはいずれも(7層)上面での検出であり、古墳時代前期に属すると考えられる。溝の主軸は溝1が南北方向、溝2は北東-南西方向である。



図8 近世の畦畔(B地点)

**C地点** 水田畦畔が確認された(図7-2)。B地点と同様に3段階の水田畦畔が検出された。田面・畦畔のサイズはB地点と同様である。(8a層)上面の標高はB地点よりも10cm程度高くなっており、こちらが上手であったと考えられる。

#### 中世以降

**B地点** 溝1条、耕作痕2ヶ所、畦畔2ヶ所が確認された。溝と耕作痕は南北方向を主軸とするものである。検出面は(4a層)であり、中世のものと考えられる。畦畔は西側に小溝を伴うもので、2条検出された(図8)。南北方向を主軸とする。畦畔の高まり以外は(2b層)に覆われているため、近世に機能していたものと考えられる。

**C地点** 溝1条が確認された。B地点の畦畔にともなった小溝と同様のものと考えられ、主軸は南北方向である。溝内には(2b層)が堆積しており、近世に機能していたものと思われる。(南)

(3) D地点

平面規模は、上端で一辺約3m四方、調査面積は9.61m<sup>2</sup>である。南東隅の一面のみ攪乱を受け、一部は黒色土まで達していたが、それ以外ではきわめて良好に包含層がのこされていた。

①層序

本調査で確認された土層は12層に大別される(図9)。以下、各層の概要を記す。なお、出土遺物は少なく、無遺物の土層の時期は近隣の調査地点の土層との対応関係に依っている。

〈1層〉本地区が1907・08(明治40・41)年に陸軍駐屯地として整備されて以降、現代までの造成土である。上面の標高は約4.6mである。

〈2層〉明灰色土～砂質土で、鉄分の包含が顕著にみられる。陸軍駐屯地造成以前の明治時代の耕作土である。上面の標高は3.91m、層厚0.15mである。

〈3層〉明橙灰茶褐色土～弱粘質土で、上面には鉄分の沈着が顕著にみられる。近世の耕作土と考えられる。上面の標高は3.76m、層厚0.1mである。

〈4層〉淡黄灰褐色砂質土で、マンガンの包含が顕著にみられる。近世の耕作土と考えられる。上面の標高は3.67m、層厚0.06mである。

〈5層〉灰色粘質土で、鉄分、マンガンの包含が認められる。中世の土層と考えられる。上面の標高は3.61m、層厚0.07mである。

〈6層〉灰褐色粘質土で、鉄分の包含が顕著にみられる。中世または古代の土層と考えられる。上面の標高は3.54m、層厚0.07mである。

〈7層〉灰～明灰色粘土で、包含物は少ない。古代の土層と考えられる。上面の標高は3.47m、層厚0.08mである。

〈8層〉暗褐色～暗黒褐色土～粘質土である。津島地区では弥生時代早・前期の鍵層とする黒色土である。マンガンの包含が顕著である。下半部は漸移的に脱色していく。上層遺構により、上面は削平されているとみられるが、現状での最上面の標高は3.22m、層厚約0.4m以上である。

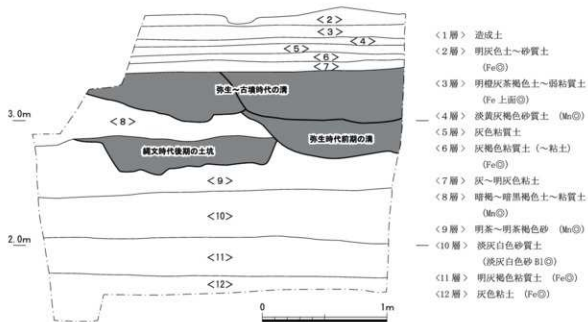


図9 D地点南壁(縮尺1/30)

〈9層〉 淡茶褐色～明黄茶褐色砂質土である。一部ではマンガンの包含が顕著にみられる。縄文時代後期中葉の土器小片を包含しており、土層の時期を推定するうえで参考になる。上面の標高は288m、層厚0.48mである。

〈10層〉 淡灰白色砂質土で、淡灰白色砂をブロック状に含む。津島地区では縄文時代後期の基盤層と考えられる土層で、上面の標高は241m、層厚0.35mである。

〈11層〉 明灰褐色粘質土で、鉄分の包含が顕著である。径1～2cm大の淡灰色粘土ブロックを包含する。縄文時代中期末に位置づけられる縄文土器が集中して出土した。上面の標高は206m、層厚0.29mである。

〈12層〉 灰色粘土で、鉄分の包含が顕著である。上面の標高は178m、層厚約0.4m以上である。

## ②遺構

〈9層〉 上面で土坑1基、〈7層〉 下面検出溝底面下・〈8層〉 中で溝1条、〈7層〉 下面で溝3条を検出した。また、〈11層〉 中で大型の縄文土器片集中域3か所を確認した。

〈11層〉 中で確認した3か所の縄文土器集中域は、調査区北西から南東にかけて点在する(図10)。検出標高は約2mである。すべて破片となって出土した。北西の集中域では、もっとも大型の破片がまとまっている(図11)。ほとんどが胴部片だが、口縁部片を含む。南東の集中域には、底部・胴部片が確認された。文様等の特徴から、縄文時代中期末に位置づけられる。これらの遺物は、現在、未整理段階にあり、集中域から出土した破片が同一個体のものか否かについては、今後の作業のなかで明らかにしていきたい。

土坑1は〈9層〉 上面で検出した(図10)。南東部が南壁以南の調査区外へと延びており、全長は明らかでない。平面形は隅丸長方形で、現状で確認できる長さは1.85m以上、幅は1.06mある。検出面の標高は約2.6～2.7m、底面の標高は約2.5mで、深さは約0.2mである。埋土中に縄文時代後期中葉の縄文土器小片を含む。縄文時代後期中葉に属する遺構と考えられる。

溝1は〈7層〉 下面検出溝2～4の底面および〈8層〉 中で検出した(図12)。北東～南西方向の溝に南東～北西方向の小さい溝が合流する。断面形はボウル状で、底面には凹凸がある。幅は約1.0m以上、深さは約0.45～0.5mをはかる。埋土は〈8層〉 を起源とする暗褐色粘質土を主体とする層と淡黄灰～淡灰褐色を呈する砂・粗砂がほぼ交互に堆積する。本調査地点より南西約300mに位置する津島岡大遺跡第19次調査で同様の堆積状態を示す溝状遺構が確認されている。埋土に〈8層〉 を起源とする土を含むことや、第19次調査の成果を参照すると、弥生時代前期頃のものと考えられる。

溝2～4は〈7層〉 下面で検出した(図13)。調査区全域が溝群の掘り方内に取まっており、溝群が帰属する基本土層は確認できない。検出標高は約3.4mである。3条すべてが並行し、北東～南西方向を指向する。また、中央に位置する溝4が両側の溝2・3を切る。断面の全体が確

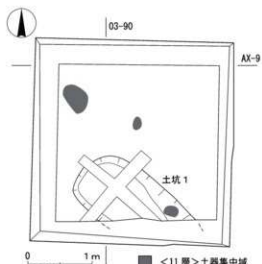


図10 縄文時代の遺構【D地点】(縮尺1/60)



図11 縄文土器出土状況【D地点】

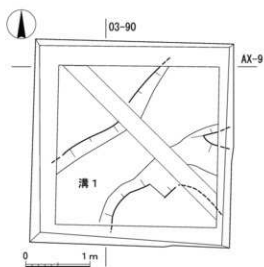


図12 弥生時代前期の遺構【D地点】(縮尺1/60)

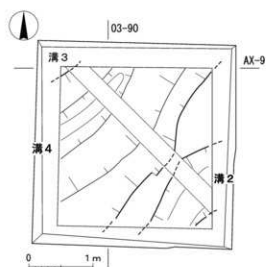


図13 弥生～古墳時代の遺構【D地点】(縮尺1/60)

認できる溝4では、二段掘り状の断面形が観察された。溝幅は、溝2が0.8m以上、溝3が0.5m以上、溝4は約2.0～2.1m、深さは溝2が0.4m、溝3が0.6m、溝4が0.6mをはかる。遺物は出土していないが、周辺では北東に位置する第17・22次調査地点、東に位置する第32次調査地点で弥生～古墳時代の溝が確認されており、当地点の溝群もこの時期に包摂されるものとする。(野崎)

以上の内容は暫定的なものであり、詳細な分析・検討を経て後日正式報告を行う。

## 第2節 立会調査の概要

### 1. 調査の実施状況

津島地区では11事業23件、鹿田地区で1事業1地点の立会調査を行った(表1・2)。このうち、調査番号25については岡山市教育委員会が行った。ほとんどの掘削は造成土や既設内に収まるものであったが、調査番号8～10・14・18・19では中世層以下を確認した。ここでは、それらについて報告する。(山口雄治)

### 2. 異分野研究所新営雨水・汚水排水枡・管工事(津島地区:調査番号8、AZ~BA8~9)

#### a. 本調査地点の位置

本調査地点は津島北地区の南部に位置する(図14)。本調査は異分野研究所の新営に伴って実施され、その範囲は2019年度に行われた異分野研究所の建物本体建設に伴う第37次調査の周辺部である。第37次調査では、弥生時代早～前期の土坑や溝、河道、弥生時代後期～古墳時代後期、古代～近世にかけて土坑や溝が検出されている<sup>1)</sup>。また本地点のすぐ西側では第19次調査によって縄文時代後期の炉や土坑、弥生時代前期の貯蔵穴や畦畔、河道が、弥生時代中期以降には溝などが確認されている<sup>2)</sup>。ここでは、中世層以下を確認した①・②地点について報告する。

#### b. 調査の成果

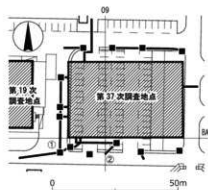
遺構は確認できなかったため、ここでは層序について報告する(図15)。〈1層〉は造成土、〈2層〉は黄褐色砂質土、〈3層〉は黒褐色砂質土である。遺物の出土はなかったが、隣接する第37次調査地点の成果から、〈2層〉は中世、〈3層〉は弥生時代早～前期のいわゆる「黒色土」と判断される。その標高は、①地点で3.5m、②地点で3.6mとなり、西へ向けて低くなっている。

#### c. まとめ

本調査では、弥生時代早～前期の「黒色土」および中世の包含層を確認した。両地点は第37次調査地点の南側にあたり、堆積層の広がりについてのデータを追加することができた。第37次調査地点南端における「黒色土」の標高は3.45mである。したがって、「黒色土」の分布は北および西側に向かって下がる地形が復元される。(山口)

#### 註

- 1) 山口雄治2021「津島岡大遺跡第37次調査」[紀要2019] 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 2) 岩崎志保・野崎貴博・横田美香2003「津島岡大遺跡12」 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



①・② 中世層以下を確認した地点  
※番号のないものは近世層および造成土または既設内

図14 調査地点の位置(縮尺1/1,500)

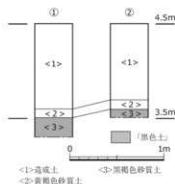


図15 土層柱状図(縮尺1/140)

## 3. 基幹・環境整備共同溝取設工事 (津島地区：調査番号9・10、BB13、AZ13)

## a. 調査地点の位置

本調査地点は、津島北地区の南西部に位置する(図16)。本調査は共同溝取設工事に伴うものである。市道を横断するトンネル工法による掘削部の南北にあたる2か所の立坑については、津島岡大道路第38次調査として発掘調査を実施し、すでに報告を終えている<sup>1)</sup>。立坑から既設の共同溝までの接続部分については立会調査として対応した。調査9は発進立坑(T38B地点)から南へ1.5mを幅0.8m、深さ2.1mまで掘削したものである。調査10は到達立坑(T38A地点)から北へ5m、そこから東に向きを変え8mを、幅0.8m、深さ1.8mまで掘削したものである。

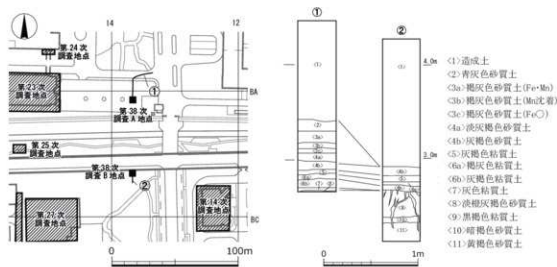


図16 調査地点の位置と土層柱状図 (縮尺1/3,000、1/40)

## b. 調査の成果

遺構・遺物は確認されなかった。本調査地点の堆積状況は、第38次調査地点と各層のレベルがほぼ一致する。調査9では〈11層〉とした基盤層まで掘削が及んだ。〈9層〉上面には古代層と考えられる〈6層〉が堆積しており、弥生時代前期～古代以前の堆積層は削平されている。調査10では第38次調査で古墳時代に比定した〈8層〉中まで掘削が及んだ。層序は下記の通りである(図16)。

〈1層〉は造成土である。標高4.46m、厚さ1.0～1.3mを測る。〈2層〉は青灰色砂質土で、上面の標高3.4mを測る。近代耕作土と考えられる。〈3層〉は鉄分・マンガンの含有状況で〈3a〉～〈3c層〉に細分した。いずれの層も褐色砂質土である。〈3a層〉の上面の標高は3.3mを測る。〈4層〉も鉄分・マンガンの含有状況で2層に細分した。〈4a層〉は淡灰褐色砂質土、〈4b層〉は灰褐色砂質土層である。〈4a層〉の上面標高は3.08mを測る。〈3〉～〈4層〉は近世耕作土と考えられる。〈5層〉は灰褐色粘質土で、上面の標高は2.9mを測る。中世の耕作土であろう。〈6a層〉は褐色粘質土、〈6b層〉は灰褐色粘質土である。〈6a層〉の上面標高は2.86mを測る。ともに中世の耕作土層と考えられる。〈7層〉は灰色粘質土である。上面の標高2.7mを測り、古代の耕作土と考えられる。〈8層〉は淡橙灰褐色砂質土である。弥生～古墳時代と考えられる。〈9層〉は黒褐色粘質土で、弥生時代早期～前期の礎層となる「黒色土」層である。断面②で標高2.65mを測る。植物の生痕が多く観察される。〈10層〉は暗褐色砂質土で、〈11層〉への漸移層であろう。上面の標高2.4mを測る。〈11層〉は黄褐色砂質土で、縄文時代の基盤層である。上面の標高2.3mを測る。

(岩崎志保)



## 註

1) 岩崎志保2021「第Ⅱ部津島岡大遺跡第38次発掘調査報告」〔紀要2019〕岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

#### 4. ライフライン再生（津島南）排水管・柵工事（津島地区：調査番号17、BB～BD16～20）

##### a. 本調査地点の位置

本調査地点は、津島南地区西半中央の北側に位置する（図17）。本調査は、本地区におけるライフライン再生工事に伴って280m程の範囲にわたって実施された。周辺では、第30次調査<sup>1)</sup>、第16次調査<sup>2)</sup>、第8・39次調査<sup>3)</sup>、第33次調査<sup>4)</sup>が行われており、縄文時代中期後半～近世にかけての遺構・遺物が確認されている。また、1994年度試掘・確認調査<sup>5)</sup>や2007・2010年度立会調査<sup>6)</sup>によって土層の堆積状況が確認されている。

##### b. 調査の成果

遺構は確認できず、遺物も出土しなかったため、ここでは周辺の調査を参考に層序と地形について報告する（図18）。

（1層）は造成土である。（2層）は青灰色粘質土で近代、（3層）は灰褐色砂質土、（4層）は茶褐色砂質土、（5層）は灰褐色砂質土で近世である。（4層）は砂を多く含み、隣接する2007年度立会調査で洪水砂とされた近世層と同一のものと考えられる。後述するように旧地形が低い①・②地点において確認された。こうした洪水砂は本地点南東に位置する第30次調査地点においても確認されている。（6層）は暗灰褐色粘質土で中世と考えられる。①・②地点では確認されなかった。（7層）は灰褐色粘質土で古代と考えられ、①～④地点において確認された。（8層）は暗灰褐色粘質土、（9層）は暗褐色粘質土で両層ともにしまりが強い。弥生～古墳時代と考えられる。（10層）は黒褐色粘質土で、弥生時代早～前期のいわゆる「黒色土」と判断される。①～⑨・⑬地点において確認された。⑥～⑨地点において標高が2.3～2.38mと最も高く、⑤地点で2.26mと下がりはじめ①～④地点では1.85～2.08mと低くなる。（11層）は黄灰色粘質土で縄文時代後期の基盤層と考えられる。⑩・⑪地点が2.38mと最も高く、⑨から①地点（西・北方向）にかけて低くなる。最も低い①・②地点の標高は1.54mである。（12層）は暗黄褐色砂質土、（13層）は明褐色砂質土、（14層）は明灰色砂、（15層）は褐色砂礫であり、これらは縄文時代後期以前の土層である。（14層）は（15層）が低い⑪地点でのみ確認された。（15層）は⑩・⑪地点で確認され、その標高は前者で1.84m、後者で1.56mである。

各層の地形は以下になるものと考えられる。縄文時代後期以前では、砂礫層である（15層）が確認されたのは⑩・⑪地点であり、この付近が最も高かったことがうかがえる。（14層）は（15層）の低い⑪地点にのみ堆積し、（15層）の起伏を減じた。（11層）・（12層）・（13層）は⑩・⑪地点が高く、⑧・⑨地点で下がるものの⑤～⑦地点にかけて若干上がり、①～⑥にかけてさらに下がる地形を呈しており、（15層）の地形の影響を受けているものと考えられる。これは、⑩～⑬地点にかけても同様と考えられる。（10層）の「黒色土」は（11層）の低部位に堆積しており、⑥～⑨地点の起伏が緩くなり、①～⑤地点にかけて下がる。弥生～古墳時代と考えられる（9層）は（10層）を埋めるように堆積し、（8層）段階においてようやく⑤～⑬地点がほぼ平坦になるも

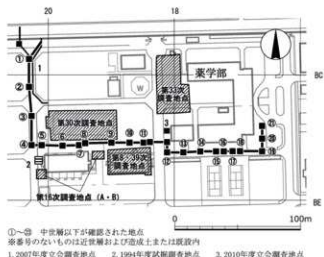


図17 調査地点の位置（縮尺1/3000）

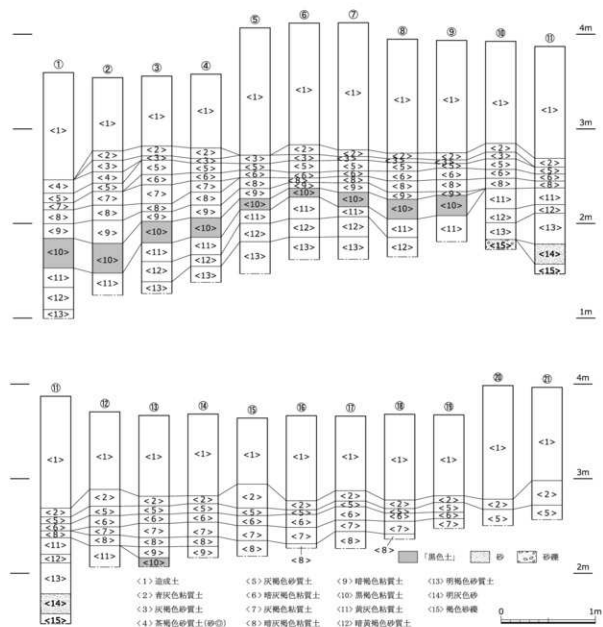


図18 土層柱状図(縮尺1/40)

の、①～④地点は依然として低いままのようである。(4層)の洪水砂が①・②地点に確認されている点からは、こうした地形が近世まで継続していたことを示している。そして近代になって地点全体がほぼ平坦になる。

### c. まとめ

津島南地区西半では、第30次調査地点を西限として発掘調査が行われておらず、試掘・確認調査や立会調査の密度が低い。今回、2007年度立会調査地点のすぐ近くの調査ではあったものの、本地域の堆積情報も得ることができた点は大きな意義がある。また、第30次と8・39次調査間の堆積情報を得ることができた。

第16次調査、1994年度試掘調査も合わせて「黒色土」の標高とその分布をみてみると、①～④地点が1.8～2.08m、⑥～⑨地点が2.3～2.38m、第30次調査地点では2.1～2.35m、第8次調査地点では2.5m、⑬地点において2.15mとなっている。また、縄文時代後期の基盤層が高く「黒色土」が確認できない地点は、⑩・⑪地点、第16次調査地点（西側：A地点）、1994年度試掘調査地点である。したがって、第8次、本立会、第30次地点では北西に向かって「黒色土」が落ちているが、⑩・⑪地点や第16次調査地点（西側：A地点）では確認されず、縄文時代後期の基盤層の微高地が存在しているという、複雑な地形を呈することが明らかとなった。（山口）

## 註

- 1) 池田晋ほか2009「津島岡大道跡19」岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 2) 山本悦世1997「津島岡大道跡第16次調査」『岡山大学構内遺跡調査研究年報』14 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 3) 富樫孝志ほか1995「津島岡大道跡5」岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
野崎貴博2021「津島岡大道跡第39次調査」『紀要2020』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 4) 野崎貴博2015「津島岡大道跡21」岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 5) 光石鳴巳1995「試掘調査①農学部動物実験施設予定地」『岡山大学構内遺跡調査研究年報』12 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
野崎貴博「薬学部改修電気設備工事」『紀要2010』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 6) 野崎貴博2008「インキュベーション施設外構配管工事」『紀要2008』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

## 5. ライフライン再生（津島北）排水管工事（津島地区：調査番号21、AZ00-01）

### a. 本調査地点の位置

本調査地点は、津島北地区の南東部に位置する（図19）。本調査は、本地区におけるライフライン再生工事に伴って実施された。周辺では、教育学部体育館耐震工事に伴う立会調査において弥生時代の畦畔やGL-0.8m付近で黒色土が検出されている<sup>1)</sup>。

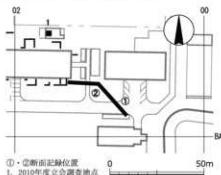


図19 調査地点の位置（縮尺1/2,000）

### b. 調査の成果

遺構は確認できなかったため、層序について報告する（図20）。〈1層〉は造成土、〈2層〉は青灰色砂質土で近代、〈3層〉は灰褐色砂質土で近世、〈4層〉は灰黄褐色砂質土で中世、〈5層〉は褐灰色砂質土で弥生～古代、〈6層〉は黒灰色砂質土で弥生時代早～前期の「黒色土」、〈7層〉は砂を多く含む黄褐色砂質土であり縄文時代後期の基盤層と考えられる。〈6層〉の標高は①地点で3.81m、②地点で3.77mとほとんど差はないが、〈7層〉は①地点で3.53m、②地点で3.37mとなり北に向かって若干下がる。

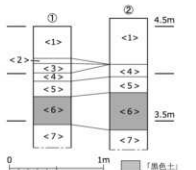


図20 土層柱状図（縮尺1/40）

### c. まとめ

本調査地点が位置する津島北地区南東部は、これまでに発掘調査や試掘・確認調査が行われておらず、立会調査がまばらに

行われるのみであったため、詳細が不明瞭な地域であった。こうした状況の中、本調査では近代から縄文時代後期基盤層までの土層を把握することができた。「黒色土」である〈6層〉は、標高3.8m程であり、GL-0.8m付近で確認されている。2010年度に行われた教育学部体育館他耐震工事に伴う立会調査地点の「黒色土」はGL値では本調査地点とはほぼ同様の深さに分布している<sup>1)</sup>。同地点の標高は不明であるものの、両地点の現地標高はほぼ変わらないことを考慮すれば、本調査地点周辺では標高3.8m付近に広く「黒色土」が分布していることが予想される。(山口)

## 註

1) 池田晋2010「立会調査の概要」〔紀要2008〕岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

## 6. ライフライン再生(津島北)排水管・柵工事(津島地区:調査番号22、AY~BA06)

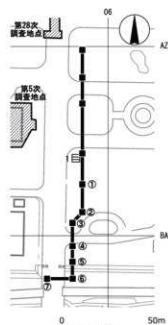
### a. 本調査地点の位置

本調査地点は、津島北地区の南部に位置する。本調査は、本地区におけるライフライン再生工事に伴って南北130m程の範囲にわたって実施された(図21)。周辺では、西側の第5次調査において縄文時代後期の河道と貯蔵穴が検出され<sup>1)</sup>、試掘・確認調査によって弥生時代以前の河道と微高地が確認されている<sup>2)</sup>。また、その北側では第28次調査において縄文時代後期~弥生時代前期の微高地と土坑・水田畦畔等が確認されている<sup>3)</sup>。ここでは、中世層以下を確認した①~⑦地点について報告する。

### b. 調査の成果

⑥・⑦地点において溝内堆積と考えられる層を確認したが、その規模等についてのデータは得られなかった。そのため、ここでは層序について報告する中で適宜遺構について触れることとする(図22)。

〈1層〉は造成土である。〈2層〉は青灰色砂質土、〈3層〉は鉄分を多く含む黄褐色砂質土であり、近代である。〈4層〉は淡黄灰褐色砂質土、〈5層〉は淡褐色砂質土で近世、〈6層〉は鉄分を多く含む暗淡褐色砂質土、〈7層〉は鉄分を多く含む黄灰褐色砂質土で中世と考えられる。〈8層〉は灰色粘質土、〈9層〉は鉄分を多く含む黄灰色粘質土であり古代と考えられる。〈10層〉は下層の〈11層〉以下の標高が低い④・⑤地点のみ確認される。淡褐色砂質土であり、弥生~古墳時代と考えられる。〈11層〉は津島地区で弥生時代早~前期の鍵層とされる「黒色土」とされる黒褐色粘質土である。本層は、②地点の標高3.54mを境に南北へ下がる地形を呈する。①地点の標高は3.35mで比高はおよそ-0.2m、⑤地点の標高は3.25mで比高およそ-0.3mとなる。〈12層〉は淡褐色砂質土で縄文時代後期の基盤層と考えられる。〈13層〉は黄褐色砂質土である。⑥・⑦地点では〈5層〉より下層の堆積が①~⑤地点におけるそれとは異なっていた。〈a層〉は灰褐色砂質土、〈b層〉は褐色砂質土、〈c層〉は粘土混じり青灰色砂質土である。これらは溝の堆積物と考えられる。時期は中世以前である。本地点は第7次調査<sup>4)</sup>・22次調査地点<sup>5)</sup>等で検出された東西方向の古代条里遺構から南にはほぼ2町離れていることから<sup>6)</sup>、本遺構は条里に関する溝の可能性がある。



①~⑦ 中世層以下を確認した地点  
1. 2000年度試掘・確認調査地点  
※番号のないものは近世層および造成土または既設河

図21 調査地点の位置  
(縮尺1/2,000)

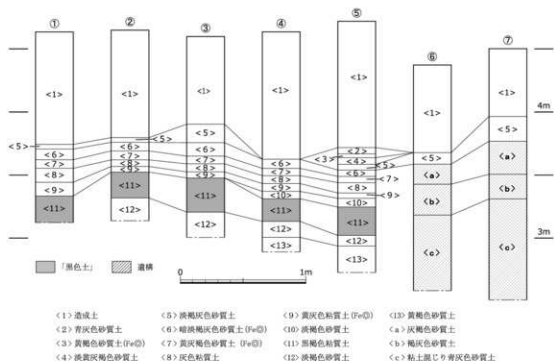


図22 土層柱状図 (縮尺1/30)

## c. まとめ

本調査地点では、2点の成果が挙げられる。1点目は「黒色土」の地形についてである。「黒色土」は②地点を境に南と北側へ下がる地形を呈する。②地点よりも北側の試掘・確認調査では標高およそ286mにおいて「黒色土」が確認されており、その北側を第5次調査で確認された縄文時代～弥生時代における東西方向の河道が走ると考えられている<sup>2)</sup>。本調査では、この河道の南側微高地の地形についての情報を得た。こうした成果は以前の立会調査によっても指摘されていたが<sup>7)</sup>、今回改めて②地点付近が最も高いことを追認できた。2点目は、条里と関連する可能性がある遺構を確認できたことである。遺物が出土しなかったため時期は不明確だが、今後、条里のラインと調査地点が近い場合は意識的に調査を行う必要があろう。(山口)

## 註

- 1) 阿部芳郎編1994「津島岡大遺跡」4 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 2) 山本悦世2001「津島岡大遺跡における縄文～弥生時代の環境復元に伴う試掘・確認調査」『岡山大学構内遺跡調査研究年報』18 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 3) 岩崎志保2008「津島岡大遺跡」18 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 4) 土井基司・山本悦世1995「津島岡大遺跡」6 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 5) 岩崎志保ほか2005「津島岡大遺跡」16 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 6) 池田晋2011「旭川西岸の条里と津島岡大遺跡」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』45 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 7) 野崎貴博2004「総合研究棟新営雨水排水敷設工事に伴う立会調査」『紀要2003』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

表1 2020年度調査一覧（津島地区）

種別	調査番号	工事名称	調査期間	構内座標	調査深度 (GL-m)	造成土厚 (m)	内容	
発掘	1	共同溝取設	5/11~27	BB13・AZ・BA13	N:32 S:22	N:14 S:12	[配更2019]にて報告済（津島岡大道第38次調査）	
	2	ライフライン再生：A地点	12/23~25	BD18	19	11	張生：溝・ピット、中世：ピット	
	3	ライフライン再生：B地点	2/4~3/10	AX07	27	1.0	縄文：土坑・ピット、張生：畦畔、古墳：溝・ピット、中世溝、耕作痕、近世：畦畔	
	4	ライフライン再生：C地点	2/12~3/4	AX06	2.4	0.9	縄文：土坑、張生：畦畔、近世：畦畔	
	5	ライフライン再生：D地点	3/8~29	AX03-04、AY03-04	30	0.7	縄文：土坑、張生～古墳：溝	
立会	6	質分野研究所新館	電気設備	6/18・30、8/19・25・26、9/4	AZ08-09	1.3	1.15	ハンドホール3か所で近世層確認、管路は造成土・既設内
	機械設備		8/25	AZ09	0.7	-	造成土内	
	8	雨水・汚水排水槽・管	12/25、1/4・7・12・27、2/3	AZ-BAS-9	0.9~1.3	0.6~1	黒色土～近世層まで確認	
	9		発塵抑制剤	7/20	BB13	1.8~2.2	1	基盤層まで掘削、T3Sと同様
	10	同連掘削剤	7/27~29	AZ・BA13	1.8	1~1.3	一部で古代層まで掘削、T3SNと同様	
	11	教育学部雨水排水管修繕	7/29	AZ02	0.6	-	既設内	
	12	工学部19-21号館高圧ケーブル取替	9/1	AV-AW09	0.8	-	造成土内	
	13	アース移設	10/8	BD18	2	2	既設内	
	14		給水①	12/11・14・15・17・21・23・25	BB~BC18	0.8	0.7	近世～近代層確認
	15	ライフライン再生 (津島南)	排水槽	12/18	BC17	0.8	-	既設内
	16		給水②	1/14・19~21	BA~BC26	0.8	0.5~0.8	造成土内
	17	排水管・槽	BB~BD 16~20	1~2	1.5	基盤層まで掘削、黒色土1.84~2.37m		
	18		給水	2/8~3/3	AV~BA02・AV06~07	0.7	-	造成土内
	19	ライフライン再生 (津島北)	排水管補修	3/1	AV05	0.7	-	造成土内
	20		沼水槽	3/4	AZ03	1.2	-	既設内
	21		排水管	3/9~10	AZ00~01	0.8	-	前面
	22		排水管・槽	3/15~4/7	AY~BA06	0.9~2.2	-	前面
	23		ライニング	3/17	AY~AZ03	0.7	-	造成土内
	24		農場施設等漏水修繕	11/2	BF22	0.9	-	既設内
	25		女子学生寮方面高圧ケーブル更新	11/17・19・20・25	BG23、BF23~25、BE25、BC~BD26	1.2	1.1	ハンドホール北端既設内、ほか3か所：近代層確認 管路：造成土内
	26	体育管理施設トイレ改修電気設備	2/22	BD05	1.4	-	造成土内	
	27	保健管理センター等照明改修	3/3~18	BB05、BB08、BE~BF11、BC10~BD12	1.4	1~1.2	15か所掘削、既設内または近世～近代層確認	
	28	中園電力ケーブル埋設	3/38~24	A033~AW03	1.1~2.2	1	岡山市対応、南端GL+25mで黒色土確認（ただし、上層は機成土によって鉛平を受ける）	

表2 2020年度調査一覧（鹿田地区）

種別	調査番号	工事名称	調査期間	構内座標	調査深度 (GL-m)	造成土厚 (m)	内容
立会	1	旧生化学機改修（B工区）汚水配管	4/6	AD60~AF63	1.45~1.75	-	造成土内



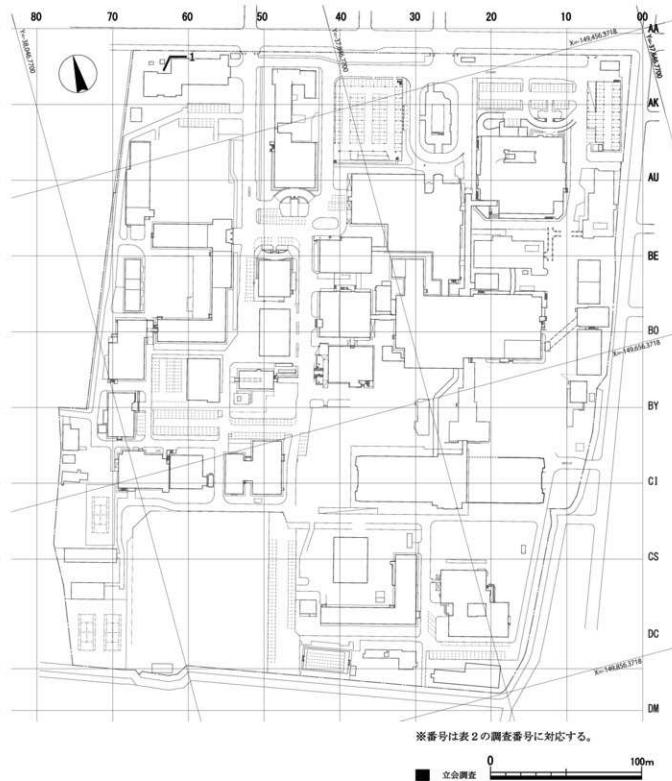


図24 2020年度の調査地点【2】—鹿田地区—（縮尺1/2,500）



### 第3節 構内遺跡に関する研究

#### 1. 津島岡大遺跡第6次調査SP9出土桃核の年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

##### a. はじめに

津島岡大遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

##### b. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表3のとおりである。図25の写真1～3に測定試料と試料採取状況を示す。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた $^{13}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{13}\text{C}$ 年代、暦年代を算出した。

##### c. 結果

表4に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した $^{13}\text{C}$ 年代、図26に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{13}\text{C}$ 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{13}\text{C}$ 年代（yrBP）の算出には、 $^{13}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した $^{13}\text{C}$ 年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の $^{13}\text{C}$ 年代がその $^{13}\text{C}$ 年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の $^{13}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5568年として算出された $^{13}\text{C}$ 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{13}\text{C}$ 濃度の変動、および半減期の違い（ $^{13}\text{C}$ の半減期 $5730 \pm 40$ 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{13}\text{C}$ 年代の暦年較正にはOxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、 $1\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された $^{13}\text{C}$ 年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内

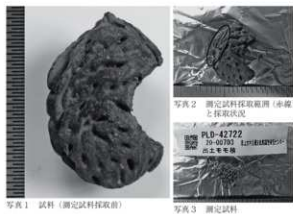


図25 測定試料

表3 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-42722	遺構：SP9 試料No.出土モモ核	種類：生の桃実（モモ核） 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2mol/L、水酸化ナトリウム：1.0mol/L、塩酸：1.2mol/L）

に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は $^{14}\text{C}$ 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

#### d. 考察

測定結果は $^{14}\text{C}$ 年代が $1115 \pm 20$  BP、 $2\sigma$ の較正年代が892-990 cal AD (95.45%) で、9世紀末～10世紀末の暦年代を示した。

#### 参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51 (1), 337-360.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の $^{14}\text{C}$ 年代編集委員会編「日本先史時代の $^{14}\text{C}$ 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62 (4), 725-757. doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

表4 放射線炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-42722 試料No.出土セモ粒	-27.33 $\pm$ 0.24	1114 $\pm$ 18	1115 $\pm$ 20	894-926 cal AD (34.00%) 948-978 cal AD (34.27%)	892-990 cal AD (95.45%)

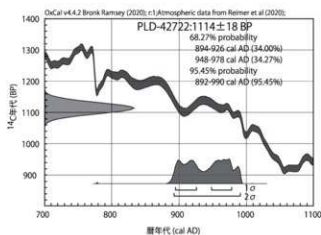


図26 暦年較正結果

## 2. 岡山大学構内遺跡出土古代・中世の墨書土器

南 健太郎

### a. はじめに

本論で取上げる墨書土器とは、土器の器表面に墨で文字や記号などが書かれたものである。土器の全体量からみると墨書土器の確認例は圧倒的に少なく、稀少な遺物と言えるだろう。日本列島における文字使用の開始は、近年の板石視や墨書土器の存在から弥生時代に遡ることが提起されているが、平川南は食器に文字を記すという墨書土器の風習が列島各地に広がったのは7世紀以降とする。平川はこの時期の墨書土器は人名や地名などの固有名称・職名、それに準ずる名詞が示されており、8～9世紀になると祭祀行為にともなう吉祥区的文字や文書が圧倒的多数になることを指摘した。また墨書土器の終焉を10世紀とし、その背景として仏教文化の革新という人々の信仰面を挙げる（平川2000・2008）。また高島英之も墨書土器と村落祭祀の密接な関係性を強調している（高島2000）。これに対し、三上喜孝は墨書土器が農繁期労働に伴う共同飲食儀礼の際に使用され、共同体による富の蓄積への意識が表出したものと考えている（三上2003）。このように墨書土器は識字層の存在や文字社会の確立を実証するだけでなく、当時の社会、特に文献資料には記されないような人々の信仰や思想、儀礼という深層意識を探る上でも重要な資料であると言える。一方、墨書内容については、都城では役職名、官職・身分、人名、器名、用途・内容物、数量・容量、紀年・月日、吉祥句・呪詞他、1字のみの意味不明なものがあることが指摘されており（巽2003）、都府では食器の分別や管理の目的で墨書が施されたことが示されている（山中2003）。

近年は吉村武彦を中心に墨書・刻書土器の全国的な集成が進み、データベースがWEB上で公開されている。これにより墨書・刻書土器へのアクセスは各段に容易になった。岡山大学構内遺跡である岡山市鹿田遺跡、同津島岡大遺跡でも墨書土器が出土しており、合計46点を数える（表5・6）。上記のデータベースによると、この量は岡山県内では最も多くの墨書土器が出土している岡山市百間川米田遺跡に次ぐものであり、埋没時期が明確な遺構出土品に限れば岡山県内でも有数の出土数をほこっている。このことから岡山大学構内遺跡出土墨書土器は本地域における古代から中世の社会像を復元する上で有益な資料であると言える。



図27 津島岡大遺跡・鹿田遺跡の位置

### b. 岡山大学構内遺跡の概要と墨書土器

#### (1) 鹿田遺跡 (図27-1)

鹿田遺跡は弥生時代中期後半に集落が形成された後、数回の断絶期をほさみつつ、近代までの遺構・遺物が確認される複合遺跡である。古代・中世で注目されるのは全国に4ヶ所おかれた藤原摂関家の殿下渡領の一つである「鹿田庄」の比定地であるという点である。鹿田庄関連の記述が文献で確認できるのは9世紀初頭からであるが、遺構・遺物は8世紀後半から9世紀初頭のものが検出されており、鹿田庄との関連が想定される。9世紀代では荘園の境界域となる河道が南北で確認されており、祭祀的な遺物の出土もみられる。また11世紀中頃から14世紀前半に至っては屋敷地の区画溝が遺跡全域で確認されており、荘園の空間構

表5 岡山大学構内遺跡出土墨書土器一覽①

No	遺跡名	調査次	遺構名	遺構時期	種別	器種	墨書位置	墨書内容	備考	文献
1	敷田	第1次	井戸-20	8c後半～9c初頭	土師器	杯	底部内面	「田」		1
2	敷田	第1次	井戸-20	8c後半～9c初頭	土師器	杯	底部内面			1
3	敷田	第1次	井戸-20	8c後半～9c初頭	須恵器	杯蓋	上部外面			1
4	敷田	第2次	井戸-4	8c後半～9c	土師器	杯	A: 底部外面。 B: 胴部外面	A:「玉」、B:「尊」		1
5	敷田	第2次	井戸-4	8c後半～9c	土師器	杯	底部外面			1
6	敷田	第3次	河道-1	8c後半～9c	土師器	杯	底部外面 (高台内)			2
7	敷田	第4次	河道-C	8c後半～9c	土師器	杯	胴部外面			2
8	敷田	第4次	河道-C	8c後半～9c	土師器	杯	底部外面			2
9	敷田	第4次	河道-C	8c後半～9c	須恵器	杯	底部外面			2
10	敷田	第4次	河道-C	8c後半～9c	須恵器	杯	底部外面 (高台内)			2
11	敷田	第10次	河道	9c代 (8c末～12c)	須恵器	杯	底部外面	「土」?		6
12	敷田	第24次	包含層	-	須恵器	杯蓋	上部内面	「上」		8
13	敷田	第5次	井戸-3	10c代	土師器	杯	底部外面			3
14	津島岡大	第9次	溝22-29	10c後半～11c初頭	須恵器	杯	底部外面			12
15	津島岡大	第9次	溝22-29	10c後半～11c初頭	須恵器	杯	底部外面			12
16	津島岡大	第6次	SD13	10c～11c前半	須恵器	杯	底部外面			11
17	津島岡大	第7次	包含層	-	須恵器	杯	底部内面	「南」or「開」		11
18	敷田	第18次B-C	井戸1	11c中頃	土師器	碗	底部外面 (高台内)	「十」	青橋系土師器 土器類	6
19	敷田	第5次	土坑15	11c中頃～後半	土師器	碗	底部外面 (高台内)	「十」	青橋系土師器 土器類	3
20	敷田	第5次	土坑15	11c中頃～後半	土師器	碗	底部外面 (高台内)	「十」	青橋系土師器 土器類	3
21	敷田	第5次	土坑15	11c中頃～後半	土師器	碗	底部外面 (高台内)	「十」	青橋系土師器 土器類	3
22	敷田	第13・15次	井戸5	11c後半	土師器	碗	底部外面 (高台内)	「上」	青橋系土師器 土器類	5
23	敷田	第1次	井戸-24	12c代	土師器	碗	底部外面 (高台内)		青橋系土師器 土器類	1
24	敷田	第9・11次	溝32	12c代	土師器	碗	胴部外面		青橋系土師器 土器類	7
25	敷田	第9・11次	溝32	12c代	土師器	碗	底部外面 (高台内)		青橋系土師器 土器類	7
26	敷田	第9・11次	溝32	12c代	土師器	碗	底部外面 (高台内)	「+」	青橋系土師器 土器類	7

表6 岡山大学構内遺跡出土墨書土器一覽②

No	遺跡名	調査次	遺構名	遺構時期	種別	器種	墨書位置	墨書内容	備考	文献
27	鹿田	第9・11次	溝32	13c代	土師器	碗	底部外面(高台内)		青雫系土師質土器碗	7
28	鹿田	第9・11次	池状遺構	13c前半～中葉	土師器	碗	胴部外面		青雫系土師質土器碗	7
29	鹿田	第9・11次	池状遺構	13c前半～中葉	土師器	碗	底部外面(高台内)		青雫系土師質土器碗	7
30	鹿田	第9・11次	池状遺構	13c前半～中葉	土師器	皿	底部外面			7
31	鹿田	第9・11次	池状遺構	13c前半～中葉	粗形器	碗	底部外面			7
32	鹿田	第12・27次	井戸3	13c中頃	土師器	碗	底部外面(高台内)	「酒」	青雫系土師質土器碗	10
33	鹿田	第12・27次	井戸3	13c中頃	土師器	碗	底部外面(高台内)	「女」	青雫系土師質土器碗	10
34	鹿田	第1次	溝-70	13c末～13c初頭	土師器	碗	胴部外面		青雫系土師質土器碗	1
35	鹿田	第9・11次	土坑8	13c末～13c初頭	土師器	碗	底部外面(高台内)	「零」 or 「零」?	青雫系土師質土器碗	7
36	鹿田	第9・11次	土坑8	13c末～13c初頭	土師器	碗	A: 底部～胴部内面。 B: 底部外面(高台内)。 C: 胴部外面	A: 「雨口」	青雫系土師質土器碗	7
37	鹿田	第9・11次	土坑8	13c末～13c初頭	土師器	碗	底部内面		青雫系土師質土器碗	7
38	鹿田	第5次	井戸-6	13c初頭	土師器	碗	底部外面(高台内)			3
39	鹿田	第1次	井戸-29	13c前半	土師器	碗	底部外面(高台内)		青雫系土師質土器碗	1
40	鹿田	第2次	井戸-5	13c前半	土師器	碗	胴部外面		青雫系土師質土器碗。高台内: 墨	1
41	鹿田	第17次	土坑3	13c末～14c初頭	土師器	碗	底部外面(高台内)		青雫系土師質土器碗	9
42	鹿田	第17次	溝13	13c末～14c初頭	土師器	皿	底部内面			9
43	鹿田	第9・11次	溝49	13c末～14c前半	土師器	碗	底部外面(高台内)	「上」	青雫系土師質土器碗	7
44	鹿田	第6次	包含層	-	土師器	碗	底部外面(高台内)		青雫系土師質土器碗	4
45	鹿田	第9・11次	包含層	-	土師器	碗	底部外面(高台内)		青雫系土師質土器碗	7
46	鹿田	第9・11次	包含層	-	土師器	碗	底部外面(高台内)		青雫系土師質土器碗	7

以上のことから、本論では鹿田遺跡、津島岡大遺跡出土墨書土器の様相を検討し、墨書土器の社会的意義に関する基礎的なデータを提示することにしたい。

造や性格の変容過程の検討がなされている。

墨書土器は42点出土しており、このうち37点は時期が明瞭な遺構から出土している（表5-1～13・18～26、表6）。8世紀後半～9世紀初頭の井戸から出土したものが最も古く、13世紀末～14世紀前半までの遺構から出土している。

## (2) 津島岡大遺跡（図27-2）

津島岡大遺跡は縄文時代中期後葉から近代までの遺構・遺物が確認されている複合遺跡である。古代・中世では古代の条里地割を示す溝や道路跡が目目され、周辺の岡山市津島遺跡や、同北方遺跡群とあわせて旭川西岸における古代以来の土地利用状況の復元に欠かせない遺跡であるといえる。

墨書土器は4点出土しており、うち3点が遺構から出土したものである（表5-14～17）。遺構出土品は10～11世紀前半の溝から出土したものである。

### c. 墨書土器の器種

まず墨書がどのような土器に施されているのかを、時期的な変遷に注目して検討する。ここでは出土時期のまとまりを考慮し、①8世紀後半～9世紀、②10世紀後半～11世紀前半、③11世紀中頃～後半、④12世紀前半～中頃、⑤12世紀末～13世紀前半、⑥13世紀末～14世紀初頭に分けて様相を整理する。

#### ①8世紀後半～9世紀

鹿田遺跡第1次調査井戸-20、同第2次調査井戸-4、同第3次調査河道-1、同第4次調査河道-Cから合計10点出土している。また時期幅が広い遺構や包含層から出土したものにも本時期に属するものが確認できる（図28-1～13）。内訳は土師器が7点、須恵器が3点であり、墨書土器は土師器に偏在しているといえる。また器種は須恵器1点のみが杯蓋であり、他はすべて杯に墨書されている。この時期の鹿田遺跡では墨書は杯に施すことがほとんどであったようである。

#### ②10世紀後半～11世紀前半

津島岡大遺跡第6次調査SD13、同第9次調査溝22～29から合計3点出土している（図28-14～17）。3点はすべて須恵器であり、数量は少ないが、前段階の鹿田遺跡の様相とは異なる傾向にある。器種はいずれも杯であり、これは前段階と同様である。

#### ③11世紀中頃～後半

鹿田遺跡第18次調査B・C井戸1、同第5次調査土坑15、同第13・15次調査井戸5から合計5点が出土している（図29-18～22）。この時期には吉備地域特有の白色系の土師質土器碗（吉備系土師質土器碗）が生産されており、すべて本器種で占められている点が特徴的である。

#### ④12世紀前半～中頃

鹿田遺跡第1次調査井戸-24、同第9・11次調査溝32・池状遺構、同第12・27次調査井戸3から合計11点が出土している（図29-23～33）。鹿田遺跡第9・11次調査池状遺構出土の土師器皿と須恵器杯の2点を除く9点が吉備系土師質土器碗である。前段階に引き続き吉備系土師質土器碗への墨書の比率が圧倒的だが、それまでになかった皿への墨書が登場する点は注目される。

#### ⑤12世紀末～13世紀前半

鹿田遺跡第1次調査溝-70、同第9・11次調査土坑8、同第5次調査井戸-6、同第1次調査井戸-29、同第2次調査井戸-5から合計7点が出土している（図30-34～40）。すべて土師器であり、6点が吉備系土師質土器碗である。吉備系土師質土器碗への割合の高さは前段階と同様の特徴であり、吉備系土師質土器碗には属さない褐色の土師器も碗であることから、墨書が碗に集中的に施されることが継承されていたと思われる。

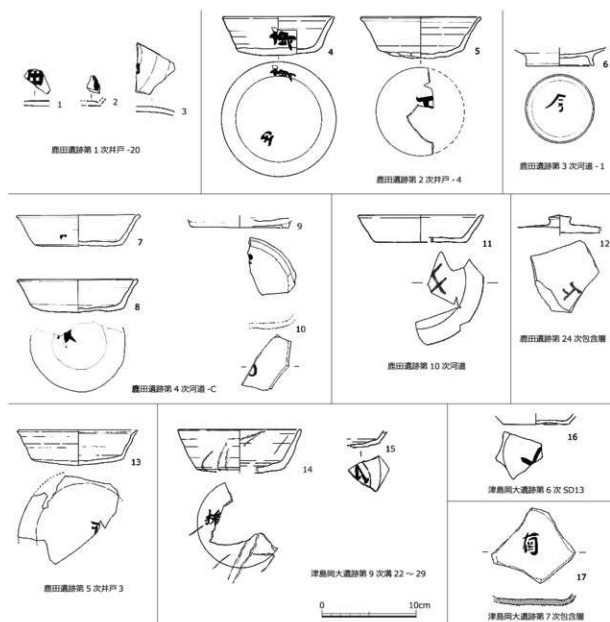


図28 岡山大学構内遺跡出土墨書土器① (以下の図の番号は表5・6のNo.に対応)

◎13世紀末～14世紀初頭

鹿田遺跡第17次調査土坑3・溝13、同第9・11次調査溝49から、合計3点が出土している(図30-40~42)。3点中2点が吉備系土師質土器椀であるが、土師器皿への墨書も見られる。

以上検討したように、墨書が施される器種は時期的な傾向が明瞭であり、11世紀前半までは杯、11世紀中頃以降は吉備系土師質土器椀が圧倒的多数を占めている。また前者の時期では須恵器と土師器が混在するが、後者の時期では須恵器への墨書が激減する。このことから墨書が記される器種には大まかな規範が存在していたと考えられる。ただし、12世紀以降は皿にも墨書が施されるようになっており、杯や碗といった特定器種への墨書からの逸脱もみられることは注意を要する。

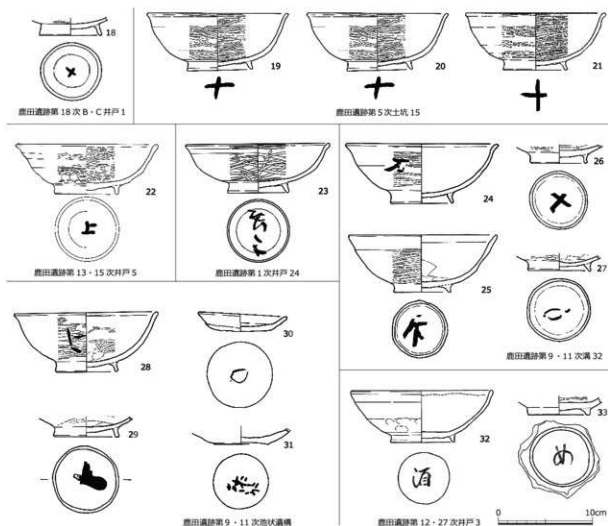


図29 岡山大学構内遺跡出土墨書土器②

## d. 墨書の位置

## ①8世紀後半～9世紀

基本的に一处に墨書が施されており、底部内面、底部外面、胴部外面、上部外面（杯蓋）のものがある（図28-1～13）。この時期に圧倒的多数を占める杯についてみてみよう。墨書は底部に記されているものがほとんどである。さらに底部の内外面についてみると、内面に記されたものは8世紀から9世紀初頭の第1次調査井戸-20で出土した小片のみであり（図28-1・2）、大部分は底部外面に記されている。一方、鹿田遺跡第2次調査井戸-4出土資料には底部外面と胴部外面に1字ずつが記されたものが出土している（図28-4）。この場合も、墨書土器の大勢を占める底部外面という点からは逸脱しておらず、胴部外面に1文字が付加されたものと理解したい。なお胴部外面のみに墨書が確認されているものは明瞭な文字や記号ではなく、意図的に記されたものかどうか判断できない。このように、本時期は底部、特に外面に墨書するという傾向を指摘することができる。

## ②10世紀後半～11世紀前半

墨書が確認されたのは底部のみである（図28-14～17）。遺構出土のものはすべて底部外面であり、古代の須



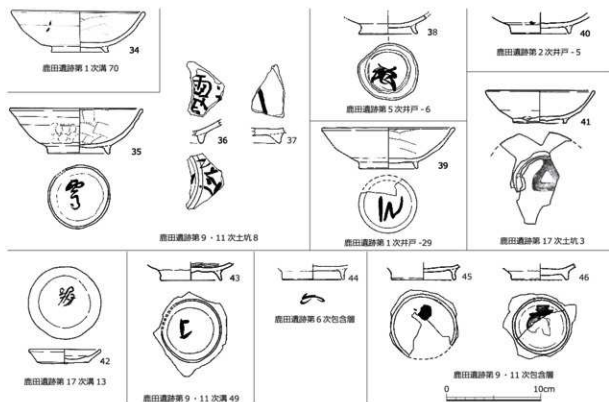


図30 岡山大学構内遺跡出土墨書土器③

器と考えられる須恵器杯の底部破片は底部内面に1字が施される。前段階の傾向が継承されていると言えるだろう。

③11世紀中頃～後半

5点すべてが底部外面の高台内への墨書である(図29-18~22)。数は少ないが、器種がすべて吉備系土師質土器碗である点からも、墨書に強い規範が存在した可能性が考えられるだろう。墨書内容も「+」が4点あり(図29-18~21)、集約的であると言える。

④12世紀前半～中頃

9点は底部外面に、残りの2点は胴部外面に墨書が施されている(図29-22~33)。特に吉備系土師質土器碗の高台内が7点と多数を占めている。前段階では底部外面に墨書が施される例が圧倒的多数であったが、本時期においてその傾向が踏襲されていると言えるだろう。一方で、胴部外面のみに明瞭な墨書が確認されるもの(図29-24・28)が出現する点は本時期に新たにみられるようになる特徴と捉えられる。

⑤12世紀末～13世紀前半

墨書位置は胴部外面、底部外面、底部内面、胴部内面が確認されており、非常に多様であると言える(図30-34~40)。特にこれまでは極めて稀であった複数か所に墨書が施される例が確認されることは重要である。鹿田遺跡第9・11次調査土坑8では、それまでの主流スタイルである底部外面、前段階にみられるようになる胴部外面、本段階で新たにみられるようになる底部~胴部内面に墨書が施されており(図30-36)、それまでのものとは大きく異なっている。さらに本土器の墨書は複数文字で構成されている点もそれまでのものとは一線を画している。本時期は墨書スタイルの転換期と言えるだろう。

### ⑥13世紀末～14世紀初頭

3点のうち2点は吉備系土師質土器碗の底部外面、1点は土師器皿の底部内面に墨書が施されている(図30-40～42)。前段階にみられた墨書位置の多様化の傾向が継続しているとみられる。

#### e. まとめ

本論では岡山大学構内遺跡出土墨書土器の器種と墨書位置を検討した。その結果、器種は土師器と須恵器の杯から吉備系土師質土器碗へという流れがあり、12世紀前半～中頃以降は皿にも墨書が施されるようになることを指摘した。また墨書の位置は底部外面を基本とするが、12世紀前半～中頃に胴部外面のみへの墨書が出現し、12世紀末～13世紀前半には多様な位置への墨書が展開することを示した。注目すべきは器種と墨書位置の様相が12世紀前半～中頃に変容するという点である。今回検討できなかった墨書内容とあわせて変化の背景を探る必要がある。また他遺跡の様相と比較することで、地域的な動向の中でどのように評価できるかという点も検討しなければならない。今後の課題としたい。

#### 参考文献

- 高島英之2000『古代出土文字資料の研究』東京堂出版  
 興淳一郎2003『都城出土墨書土器の性格』『古代官衙・集落と墨書土器-墨書土器の機能と性格をめぐって-』奈良文化財研究所  
 平川南2000『墨書土器の研究』吉川弘文館  
 平川南2008『日本の原像』日本の歴史第2巻 小学館  
 三上喜孝2003『文献史学からみた墨書土器の機能と役割』『古代官衙・集落と墨書土器-墨書土器の機能と性格をめぐって-』奈良文化財研究所  
 山中敏史2003『部断による食器管理と供給』『古代官衙・集落と墨書土器-墨書土器の機能と性格をめぐって-』奈良文化財研究所

#### 表5・6文献

- 1: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編1988『鹿田遺跡Ⅰ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊
- 2: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編1990『鹿田遺跡Ⅱ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第4冊
- 3: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編1993『鹿田遺跡Ⅲ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊
- 4: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編1997『鹿田遺跡Ⅳ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第11冊
- 5: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編2010『鹿田遺跡Ⅵ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第26冊
- 6: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編2013『鹿田遺跡Ⅶ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第28冊
- 7: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編2017『鹿田遺跡Ⅹ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊
- 8: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編2018『鹿田遺跡Ⅺ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第33冊
- 9: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編2020『鹿田遺跡Ⅽ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第36冊
- 10: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編2021『鹿田遺跡Ⅾ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第37冊
- 11: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編1995『津島岡大遺跡Ⅵ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊
- 12: 岡山大学理蔵文化財調査研究センター編1998『津島岡大遺跡Ⅹ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊

### 3. 岡山県岡山市鹿田遺跡第25次調査出土石鍋の分析

白石 純 (岡山理科大学)  
南 健太郎 (岡山大学)

#### 1. はじめに

岡山大学構内遺跡の岡山県岡山市鹿田遺跡と鳥取県三朝町福呂遺跡では、これまでの調査で中世の石鍋が9点出土している。内訳は鹿田遺跡が8点、福呂遺跡が1点である。このうち鹿田遺跡の7点、福呂遺跡の1点については蛍光X線分析法による成分分析を実施し、報告している(白石2017、南・白石2018)。本論では成分分析未実施であった鹿田遺跡第25次調査出土石鍋の分析結果について報告する。分析結果は上記資料とこれまでに報告した滑石産地の試料(山岡他2018)と比較し、成分組成の特徴について検討する。(南)

#### 2. 分析方法と試料

分析は、蛍光X線分析装置を使用した。なお、前回分析したときの装置が故障し、今回新たな装置で分析したため、9点の石鍋は再度測定した。

測定装置、測定条件、測定試料は以下の通りである。

測定装置：エレメントアナライザー JSX-3203EV (日本電子) を使用した。

測定条件：X線照射径3mm、電流1.00mA、電圧30kV、測定時間300秒、測定室は真空の条件で測定した。

定量値は、ファンダメンタル・パラメータ法により算出した。毎回の定量値の再現性があることを確認するため、地質調査所の標準試料JA-1(安山岩)、JG-1a(花崗岩)、JB-1a(玄武岩)の3試料の定量値を求めて、装置の安定性を確認している。

測定試料：分析試料は、試料表面の汚れをエチルアルコールで除去後、非破壊で測定した。(白石)

#### 3. 分析結果

表7にこれまで分析した9点の石鍋の分析結果を示している。この結果より、前回までに分析した試料番号1～8までの石鍋のうち、鹿田遺跡第5次調査包含層出土の7の石鍋は緑泥石で、鹿田遺跡25次調査出土の資料番号9を含む石鍋は滑石であることを再確認した。

次に図31～図33では、古墳時代の滑石や緑泥石製品の原産地である和歌山県の紀ノ川南岸の船戸鉾山と兵庫県養父市聖長鉾山などと比較を行った散布図である。

この散布図では和歌山の同じ原産地に滑石と緑泥石の両方の岩石が産出する。

今回分析した鹿田遺跡、福呂遺跡出土中世石鍋は、鹿田遺跡出土の試料番号7が緑泥石の分布域に、それ以外の石鍋は滑石の領域に分布した。(白石)

#### 4. まとめ

以上、中世石鍋の分析を実施したが、鹿田遺跡5次調査出土の試料番号7が緑泥石でそれ以外は滑石であった。また、古墳時代の滑石系製品の原産地と比較したが、図31・32では、試料番号7の緑泥石石鍋は、和歌山県船戸鉾山の領域に、それ以外の石鍋は和歌山船戸鉾山、兵庫県聖長鉾山の滑石領域にそれぞれ分布した。ただ、図33では、試料番号7のMgO量が少なく緑泥石(船戸鉾山)の領域に入らなかった。

このように、古墳時代の滑石原産地との比較では、緑泥石か滑石かの違い程度の比較のみとなった。今後は中世の石鍋生産地である長崎県ホケツ遺跡や山口県下請川南遺跡の原石と比較し原産地の領域がどのように重

なるのか、あるいは異なるのか検討する必要がある。

(白石)

#### 参考文献

- 白石純2017「鹿田遺跡出土石鍋の分析」〔鹿田遺跡10〕岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター：pp.203-204
- 南健太郎・白石純2018「鳥取県三朝町福呂遺跡出土石鍋の分析」〔岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2016〕岡山大学埋蔵文化財調査研究センター：pp.40-41
- 山岡邦章・米田克彦・白石純2018「滑石製品の自然科学的研究（1）－非破壊分析による産地推定に向けて－」〔半田山地理考古〕第6号 岡山理科大学地理考古学会：pp.103-116

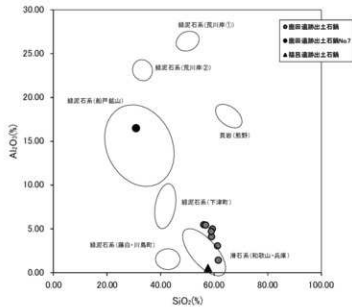


図31 鹿田・福呂遺跡出土石鍋と古墳時代滑石原産地の比較①

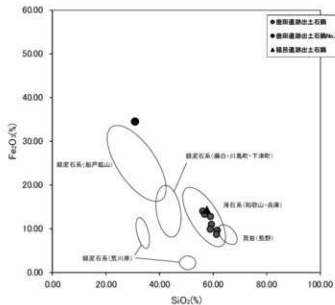


図32 鹿田・福呂遺跡出土石鍋と古墳時代滑石原産地の比較②

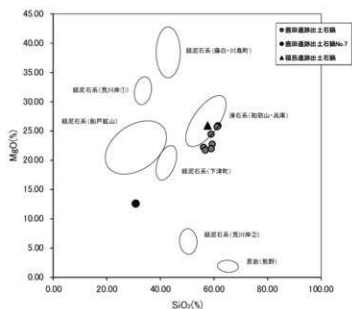


図33 鹿田・福呂遺跡出土石鍋と古墳時代滑石原産地の比較③

表7 鹿田遺跡、福呂遺跡出土石鍋の非破壊分析結果(%)

試料番号	遺跡名	調査地点	出土遺構	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	出典
1	鹿田遺跡	第1次調査	溝70	61.49	0.07	1.44	9.69	0.06	25.90	0.30	0.00	0.13	0.17	文献1/10296-S49
2	鹿田遺跡	第2次調査	包合層	56.10	0.10	5.49	14.02	0.10	22.23	0.23	0.00	0.22	0.22	文献1/10370-S8
3	鹿田遺跡	第9次調査	井戸12	59.35	0.11	5.01	11.01	0.06	22.77	0.23	0.00	0.34	0.28	文献3/10145-S17
4	鹿田遺跡	第9次調査	池沢遺構	58.99	0.12	4.11	12.81	0.13	21.95	0.28	0.00	0.32	0.10	文献3/1054-S3
5	鹿田遺跡	第9次調査	ピット8	56.78	0.12	5.44	13.34	0.51	21.73	0.40	0.00	0.36	0.09	文献3/10133-S14
6	鹿田遺跡	第11次調査	溝59	58.91	0.09	4.72	9.90	0.06	24.47	0.24	0.00	0.25	0.16	文献3/10178-S23
7	鹿田遺跡	第5次調査	包合層	30.82	0.93	16.49	34.53	0.79	12.58	2.07	0.00	0.57	0.39	文献2/10127-S1
8	福呂遺跡	第1次調査	包合層	57.67	0.03	0.54	14.34	0.08	25.92	0.08	0.00	0.04	0.03	文献5/1027-1
9	鹿田遺跡	第25次調査	包合層	61.21	0.08	3.07	8.74	0.07	25.71	0.17	0.00	0.15	0.13	文献4/10109-S7

文献

1. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター編1988『鹿田遺跡Ⅰ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊
2. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター編1993『鹿田遺跡Ⅲ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊
3. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター編2017『鹿田遺跡Ⅹ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊
4. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター編2018『鹿田遺跡Ⅻ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第34冊
5. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター編2000『福呂遺跡Ⅰ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第15冊

## 第2章 調査資料の整理および公開・活用

### 第1節 調査資料の整理・保存処理

#### 1. 調査資料の整理

2020年度は鹿田遺跡第12・20・22・28次調査の整理作業を実施した。具体的には第12次調査では調査図面の整理・遺物の復元と実測、第20次調査では調査図面および遺物の整理、第22次調査では遺物の注記・復元、第28次調査では遺物の洗浄をおこなった。そして第12次調査成果については「鹿田遺跡15」（岡山大学構内遺跡発掘調査報告37冊）として刊行した。

自然科学的分析は、表8の通りである。

(南)

表8 2020年度分析一覧

調査次	分析資料	分析の種類	分析機関・分析者	主な結果
津島岡大第6次	機軸	年代測定	パレオ・ラボ	本書第1部第1章第3節参照。
津島岡大第20次	土壌	プラントミセル分析	宇田津龍樹	分析中

#### 2. 調査資料の保存処理

##### a. 木製品のPEG処理

2020年度は昨年度から継続して第14期の保存処理を実施した。

第14期：鹿田遺跡第9・11次調査、同第20次調査A地点、同第23次調査、同第24次調査、同第25次調査、同第26次調査、津島岡大遺跡第27次調査

##### b. 出土遺物の委託保存処理

鹿田遺跡第28次調査出土土物の保存処理を株式会社吉田生物研究所に依頼し、2021年3月に納品された。

### 第2節 調査成果の公開・活用

#### 1. 公開・展示

##### a. 第20回キャンパス発掘成果展「岡山大学への道—近世・近代の津島—」

###### (1) 概要

新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期となっていた前年度の展示会について、2020年度下半期にその開催の可否を改めて検討し、再延期の可能性も含みつつ2021年1月に展示会開催を決定した。テーマは、岡山大学が2019年度に創立70年を迎えたこともあったため、近世・近代を経て岡山大学へと至る過程を企画した。ただし、当初予定していた関連イベントについては中止とした。また、展示会場では入口やアンケート記入場所に除菌アルコールを用意し、また展示パネルの間隔をなるべく広くとって新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた。

展示会の開催期間、会場、参加者数は下記の通りである。

期 間：2021/2/27（土）～3/5（金）

会 場：岡山大学総合研究棟1階ロビー

参加者数：65名

## (2) 展示会の内容

今回の展示会は、①近世の津島岡大遺跡、②近代の津島周辺、③岡山大学への道の3部構成とし、パネル展示で示した。①近世の津島岡大遺跡では、まず津島岡大遺跡が岡山城下町の周辺に位置することや、実際に畦畔の脇に直径1～2mほどの野蓋が検出される状況を示し、農村の様子を解説した。②近代の津島周辺では、日露戦争の後、日本が軍部増強をはかる中で1907（明治40）年に岡山県御津郡伊島村（現岡山市岡山大学津島キャンパス）に陸軍第十七師団が創設されて以降の駐屯地の様子や変遷を図解した。また、現在にまで残る旧司令部跡や工兵第十聯隊校集合所庭園、橋梁演習施設、工兵隊食堂並浴場といった施設について、実地で見学できるルートを含めて紹介した。③岡山大学への道では、戦後から1949年に岡山医科大学・第六高等学校・岡山師範学校・岡山青年師範学校・岡山農業専門学校の諸学校を母体として岡山大学が設立されるまでの様子を解説した。中でも特に、岡山大学の開学に尽力した第六高等学校校長黒正藤の功績について触れた。

このように今回の展示では、発掘調査の成果や史料から岡山大学津島キャンパスが、近世では農村で、近代になると旧日本陸軍駐屯地となり、そして終戦後に研究・教育の場へと大きく変化を遂げた歴史について示した。

## (3) アンケート結果

本展示会の内容についてアンケート調査を行った。アンケート項目は、回答者の属性について回答自由としつつ、性別、年齢、所属の3項目と、展示内容について①印象に残ったもの、②展示内容評価（理解度）、③展示会情報入手媒体の種類、④意見・感想などの自由記述、の4項目を設定した。回収率は11%（7枚）であり、これまでのアンケート回収率（20～40%）と比べると低かった。

回答者属性は表9、アンケート結果は表10に示した通りである。回収率が少ないものの、前者からは学内および市内の学生から70代までの広い年代層が見学を訪れたことがわかる。また、②展示内容評価も比較的高い点を得た。①印象に残ったものの回答に大きなまとまりはなかった。



図34 展示会会場

④自由記述には、「今日残されている太平洋戦争以前のものを今後ともしっかり保存してください」「大学史の展示によさそう」といった意見があった。また、今回実施できなかったイベントを希望するような「軍関連施設を巡るような講座・現地見学会を是非開いてください」との意見もあった。（山口）

表9 回答者属性

性別	男6、女1
年齢	学生1、20代1、30代1、40代1、60代1、70代2
所属	学内4、市内3

表10 アンケート結果

①印象に残ったもの	岡山城下町と津島岡大遺跡、第十七師団およびその概略など
②展示内容評価	平均4.6/5点
③どこで知ったのか	お知らせ3、ポスター2、看板1、知人1

## b. 岡山大学・倉敷考古館学術連携協定記念展示会「二万大塚古墳の世界－真備、下道の大豪族－」

## (1) 開催に至る経緯と概要

岡山大学と倉敷考古館は、2019年5月に学術連携協定を結んだ。この協定は、両機関が持つ考古資料を相互に活用し、県内の考古学研究と教育、さらには地域へも貢献することを目的とするものであり、本展示会はこの協定締結を記念して企画・開催したものである。本展示の概要は次のとおりである。

期 間 2020年6月6日(土)～8月2日(日)：42日間

(当初予定)2020年4月24日(金)～8月2日(日)

開館時間 9：00～17：00、入館は16：30まで

休 館 日 月曜日、火曜日、祝祭日は開館

会 場 倉敷考古館第3展示室

入 館 料 一般500円、大学生・高校生400円、小・中学生300円

主 催 岡山大学考古学研究室、埋蔵文化財調査研究センター、(公財)倉敷考古館

共 催 倉敷市教育委員会

後 援 岡山県郷土文化財団

## (2) 企画とねらい

本展示を「二万大塚古墳の世界－真備、下道の大豪族－」と題して構成したのは下記の理由による。

まず、本展示が岡山大学と倉敷考古館の連携を記念するものであるため、岡山大学所蔵資料のうち、倉敷にゆかりのあるものが選定の前提となった。そのうち、倉敷市真備町に所在する前方後円墳である二万大塚古墳を選んだのは、岡山大学考古学研究室が2001～2004年にわたって発掘調査を実施しており、2019年に発掘調査報告書が刊行されたところであったことによる。

その真備町は、2018年に発生した西日本豪雨により、多くの方が犠牲となり、町の広い範囲が甚大な被害をうけていた。二万大塚古墳の発掘調査では真備町の多くの方々にお世話になっていたこともあり、地域の歴史を物語る二万大塚古墳の出土遺物を展示することにより、復興が進む真備の応援につなげたい、という願いを込めたことも理由の一つである。

二万大塚古墳の出土遺物だけでなく、同じく真備町に所在する箭田大塚古墳の出土品や、2018年の西日本豪雨で被災した真備町歴史民俗資料館所蔵の考古資料も含めた。地域の誇りといえる遺物や被災した文化財の修復された姿を、真備町の方、倉敷市民だけでなく、さらに多くの方々に届けたいと考えたからである。

また、関連企画として、二万大塚古墳の詳しい内容や、二万大塚古墳がつくられた6世紀の社会のようすを多くの方にお伝えするため、倉敷考古館近くにある倉敷公民館での二回の講演会を計画した。講演者は、二万大塚古墳の発掘調査にあられた新納泉岡山大学名誉教授、本展示の主催者である岡山大学考古学研究室の清家章教授である。そのほか、ワークショップとして、開催期間中、午前10～12時・午後13～15時の各二時間の時間帯で、随時受付し、真備の遺跡や出土品をデザインした缶バッジの制作を企画した。

## (3) 事前準備

本展示は、主催3者、共催1者という体制で、協力して展示を企画・構成することとしたため、2019年12月から綿密な打ち合わせを実施した。打ち合わせは対面で4回実施したほか、随時メールで意見交換をおこない、密に連絡を



図35 オープン展示のようす



取りあうよう努めた。責任や作業分担などについても取り決めを行い、諸事項に対する認識の共有をはかった。

広報については、チラシの配布を軸に、倉敷考古館のホームページおよび『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』へ開催案内を掲載することとした。

展示内容については、真備の復興を地域の歴史の展示から応援することをコンセプトとしたことから、二万大塚古墳出土遺物のほか、倉敷市からは、2020年2月に倉敷市重要文化財指定となった前田大塚古墳出土遺物、西日本豪雨で被災した真備町歴史民俗資料館に収蔵されていた鶴越遺跡、妹坂本火葬墓、阿知境奥火葬墓の遺物を展示することとした。

二万大塚古墳出土遺物は馬具、武器、装身具、須臾器、家形埴輪、円筒埴輪などである。金鋼装の馬具類では、保存処理のため、これまで展示機会のなかった杏葉など、今回の展示が初出品となるものもあった。オープン展示では、造り出しの埴輪出土状況、石室内須臾器出土状況を再現して埴輪や須臾器を配置し、現場での臨場感を味わえるよう、背景となる写真を大きく引き伸ばしたものを用意することとした。

#### (4) 新型コロナウイルス感染拡大の影響

国内での感染は2019年度末ごろから三大都市圏を中心に広がりをみせていたが、岡山県でも2020年3月以降、感染者が確認されるようになり、警戒感が高まっていた。4月24日にオープンを予定して準備していた本展示も対応を迫られ、4月2日にチラシの発送見あわせ、4月15日に講演会の中止を決定した。翌日、緊急事態宣言が全国に拡大されたことを受け、17日には展示準備を一時中断し、緊急事態宣言解除後、事態の推移をみながら再開を模索することとした。

5月14日に岡山県の緊急事態宣言が解除され、岡山県内では感染者が確認されない日が続くようになったため、5月28・29日に遺物の搬出・搬入、展示設置作業を実施した。なお搬出・搬入時、展示設置においても少人数で換気を行い、感染予防に努めながら実施した。広報については、コロナの影響が拡大し、大規模な広報は行わないこととした。チラシの配布についても、本センター担当分と倉敷考古館担当分の一部については当初予定した期日での発送を見あわせていたが、開催の目途がたった6月2日に本センター担当分を発送した。

期間中の管理にあたった倉敷考古館では、新型コロナウイルスの感染対策として一度に入れる入館者数に制限を設け、入館者には、検温と手指消毒を徹底する対応をとった。関連企画については、講演会は感染拡大防止の観点から2回とも中止を余儀なくされたが、ワークショップは大々的に集客する性格のものではないため実施することができた。

7月半ば以降、岡山県内で感染者が徐々に増加し、毎日感染者が報告される日が続いた。8月3日に実施した撤収にあたっては、移動の車内、展示室内での作業において細心の注意を払い、感染防止に努めた。

#### (5) アンケート結果

入館者へのアンケートの実施は倉敷考古館が担当した。

入館者数は405名である。その都道府県別の内訳は、北海道から九州までの23都道府県におよび、地域別の来館者数は北海道3名、関東30名、東海4名、近畿54名、中国291名、四国10名、九州2名、不明9名である。なお、中国地方のうち、275名が岡山県である。その他、海外からの来館者4名もあった。本展示は緊急事態宣言解除後の6月から開始したが、多くの地域から来館者が訪れていたことがわかる。

アンケートでは、①本展示を知った媒体、②展示内容、③興味のある遺跡、④興味のある遺物について、それぞれ複数掲げた項目から選択して回答する形式をとった。その結果、展示会開催の認知はチラシ・ポスターが34%で最も高く、次いで新聞25%となった。ただし、新聞に本展示会の記事が掲載されたのは7月8日であり、認知媒体としての新聞の効力は大きいといえる。興味のある遺跡では、二万大塚古墳が53%、前田大塚古墳が36%で、約9割を占め、古墳人気の高さがうかがわれた。

**(6) まとめ**

本展示会は、主催・共催の4者で組織して企画・運営にあたった。分担と責任を明確にしたこと、対面の打ち合わせやメールでの意見交換・シームレスな情報共有を通じて認識を共有したことにより、実務面での連携は民主的で円滑であったと思われる。

展示会場は約60m<sup>2</sup>強の面積で、大小10台の什器と2か所のオープン展示スペースに展示品を配したが、コンパクトな会場であることを感じさせない、凝縮された内容の展示となったのではないと思われる。これは展示内容を問うたアンケート項目での回答が、「とてもよかった」77%、「よかった」20%という数字にも表れている。

一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響は甚大であった。展示・講演会とともに、連携協定記念に相応しいものを企画・準備したが、展示期間の縮小・講演会の中止を余儀なくされた。また、こうした判断に至るまでに、情報収集や意見交換といった対応に追われ、本来予定していなかった時間や労力を割くこととなった。

今、私たちの社会は、感染症への対応を迫られた経験のなかで、適応を模索し、新たな行動様式の創造へと変容をはじめている。今後、このような小さな展示会であっても、従来の枠組みにとらわれない、新たな運営スタイルを創出することが必要となる。

(野崎)

**c. 第12・13回公開講座**

2020年度の公開講座「考古学と関連科学」は、例年通り三回の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2月・3月の二回の実施となった。このうち2月開催の第12回は、2019年度末に予定していた内容を開講したものである。第12回では講義内容に関連して構内遺跡出土の種子・木材の展示をおこなった。また第13回については、本センター副センター長退職記念講演会として開催した。講演内容に関連する津島岡大遺跡・鹿田遺跡の主要な出土品を会場の一角に展示し、密にならないように留意しつつ、質疑応答を交えながら遺物に触れる機会を設けた。

今年度の開催についてはコロナ禍のなかでの催しであることから、募集定員の2倍以上を取容可能な会場と設定したほか、事前申し込み制を採用し、参加時の注意事項や問診票を事前に送付することとした。さらに、第13回については対面とオンラインのハイブリッド開催を行った。対面の募集定員は各50名、参加費は500円、オンライン参加については募集定員を50名、参加費を無料とした。

2020年度の実施内容は以下の通りである。

**第12回「考古学からみた植物利用」**

2021年2月27日(土) 14:00~16:00

岡山大学津島キャンパス社会文化科学系総合研究棟  
共同研究室 参加者17名

那須浩郎(岡山理科大学准教授)

「縄文時代の植物のドメスティケーション」

野崎貴博(本センター助教)

「木製品の樹種選択と周辺植生」



図36 公開講座

### 第13回「岡大を振る！」

2021年3月27日（土）14：00～16：00

岡山大学津島キャンパス文法経講義棟第20番講義室

参加者64名（対面46名 Zoom18名）

山本悦生（本センター副センター長・教授）

「岡大を振る！－縄文人の新たな挑戦と中世鹿田の人びと」

（岩崎）

## 2. 資料・施設等の利活用

### a. 調査・研究への支援

#### (1) 資料調査

- ・福呂遺跡出土縄文土器：大石雅興（同志社大学大学院生） 2020年8月27日
- ・鹿田遺跡出土土器箱：富井真（京都大学） 2020年9月29日

#### (2) 図書の貸し出し

- ・3冊（岡山大学教員・学生）

#### (3) 資料提供

- ・津島岡大遺跡第39次調査土壌：宇田津徹朗 2021年3月4・10・25・29日

#### (4) 写真掲載・画像利用等

- ・津島岡大遺跡第37次調査現地説明会資料：（株）雄山閣 2020年4月
- ・津島岡大遺跡第37次調査現地説明会資料：ジャパン通信情報センター 2020年8月
- ・鹿田遺跡第20次調査出土木簡：木簡学会 2020年10月16日
- ・榎弥生墳丘墓出土特殊器台：鳥根県教育庁文化財課 2020年10月28日
- ・鹿田遺跡第1次調査出土銅鏃：一般社団法人全国農業改良普及支援協会 2020年11月27日
- ・鹿田遺跡第24次調査出土絵馬：北條朝彦 2020年11月27日
- ・鹿田遺跡第24次調査出土絵馬（牛）：共同通信社 2020年12月14日
- ・鹿田遺跡第24次調査出土絵馬（牛）：山陽新聞社 2020年12月21日
- ・鹿田遺跡第24次調査出土絵馬：David Ramey 2021年3月26日

#### (5) マスコットキャラクター利活用

- ・しかたん着ぐるみ貸し出し：岡山大学病院医療安全管理部 2020年11月13日～20日
- ・しかたん画像提供：岡山大学広報部 2020年10月13日
- ・しかたんイベント参加：古墳フェスはにコット 2020年11月21日

### b. 教育支援

#### (1) 博物館実習

2020年度は24名の実習生が受講した。本実習では「考古資料の取り扱い」を担当した。発掘調査で出土した資料の整理作業を通じて基礎知識を習得することを目的とした。実習は3グループに分かれ、出土遺物の洗浄・注記・接合作業を中心におこなった。実習の最後には各班から実習内容の総括と反省について発表する時間を設けた。チームで課題に取り組みせることで、講義の習熟度とコミュニケーション能力を高めることを図った。さらに非常勤職員とともに作業にあたるという職場環境を提供し、実践型社会連携教育の効果も図った。

表11 2020年度非常勤講師の委託依頼

職名	氏名	担当科目	委託期間
教授	山本 悦世	人文系博物館実習a	令和2年4月1日～8月31日
助教	岩崎 志保	人文系博物館実習a	令和2年4月1日～8月31日
助教	野崎 貴博	人文系博物館実習a	令和2年4月1日～8月31日
助教	南 健太郎	人文系博物館実習a	令和2年4月1日～8月31日
助教	山口 雄治	人文系博物館実習a	令和2年4月1日～8月31日

## (2) 学内ワークスタディ

2019年度は1名の学生（法学部）を雇用し、構内遺跡出土の遺物整理作業、および発掘調査報告書作成作業をおこなった。

## c. 社会貢献

## (1) 中学生職場体験

・岡山市岡北中学校 2020年11月10日～12日 3名

## (2) 職員の兼務

山本悦世

- ・岡山県文化財保護審議会委員
- ・史跡こうもり塚古墳保存活用計画策定準備委員会委員
- ・徳島県文化財保護審議会委員
- ・徳島県文化財保存活用大綱策定委員会委員
- ・島根県古代文化センター企画運営委員
- ・島根県文化財保存活用大綱策定委員会委員
- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

岩崎志保

- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員
- 野崎貴博
- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

南健太郎

- ・岡山県埋蔵文化財保護調査指導委員

山口雄治

- ・ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科 非常勤講師
- ・国立歴史民俗博物館 共同研究員

## (3) 展示見学の受け入れ

- ・常設展示室見学：2名（一般2名）

(南)

### 第3節 調査研究員の個別研究活動

#### 1. 外部資金獲得状況

山本悦世：科学研究費基盤研究（C）「中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究」研究代表者

岩崎志保：科学研究費基盤研究（C）「中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究」（研究代表者：岡山大学 山本悦世）研究分担者

野崎貴博：科学研究費基盤研究（S）「王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究」（研究代表者：岡山大学 清家章）研究分担者

南健太郎：科学研究費基盤研究（B）「三角縁神獣鏡の製作地解明に向けたミュオンビームによる非破壊成分分析とその検証」研究代表者

科学研究費基盤研究（S）「王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究」（研究代表者：岡山大学 清家章）研究分担者

科学研究費基盤研究（A）「ミュオンラジオグラフィを用いた巨大古墳調査法の開発にかかる研究」（研究代表者：岡山大学 清家章）研究分担者

科学研究費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））「三角縁神獣鏡製作地特定へ向けて－華北東部系鏡群の調査を中心に－」（研究代表者：奈良県立橿原考古学研究所 清水康二）研究分担者

科学研究費挑戦的研究（開発）「宇宙線を用いた完全非破壊オンサイト成分分析法の開拓：古代青銅器文化の解明に向けて」（研究代表者：大阪大学 佐藤朗）研究分担者

山口雄治：科学研究費基盤研究（C）「西日本における縄文時代の人口動態に関する研究」研究代表者

公益財団法人高梨学術奨励基金令和2年度若手研究助成「中央アナトリアにおける都市成立期の地域間交流」研究代表者

科学研究費基盤研究（S）「王陵級巨大古墳の構造分析に関する文理融合型総合研究」（研究代表者：岡山大学 清家章）研究分担者

科学研究費基盤研究（B）「中央ユーラシア高地民・低地民の相互交流と騎馬遊牧社会の成立基盤に関する考古学研究」（研究代表者：東京藝術大学 久米正吾）研究分担者

科学研究費基盤研究（C）「中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究」（研究代表者：岡山大学 山本悦世）研究分担者

#### 2. 論文・資料報告ほか

山本悦世

山本悦世ほか2021「中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究」平成30～令和2年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書

山本悦世・山口雄治2021「山陽地域の海岸線復元と遺跡分布－岡山県南部を中心に－」『中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究』pp.44-51.

山本悦世2021「津島岡大遺跡の遺跡動態と環境変化」『中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究』pp.52-58.

山本悦世・山口雄治2021「山陽地域の遺跡動態と環境－岡山県南部地域を取り上げて－」『中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究』pp.59-78.

山本悦世2021「縄文時代の植物資源関連資料の動向－岡山県南部地域を取り上げて－」『中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究』pp.79-81.

岩崎志保

岩崎志保2021「香川県域の遺跡動向」『中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究』pp.82-86.

野崎貴博

野崎貴博2020「中国・四国地方における埴輪棺研究の現状」『考古学ジャーナル』741 ニュー・サイエンス社、pp.19-22.

野崎貴博2021「人しれず失われてゆく遺跡」『明日への文化財』84号 文化財保存全国協議会、pp.30-39.

南健太郎

南健太郎2020「土器棺墓における特殊な蓋構造とその意義」『古代吉備』第31集 古代吉備研究会、pp.39-53.

南健太郎2020「非破壊成分分析による三角縁神獸鏡鑄造技術の復元」『KEK Proceedings』2020-08 KEK、pp.87-104.

南健太郎2021「鹿田遺跡第24次調査出土の草花双鳥鏡」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要』2019 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.30-36.

山口雄治

紺谷亮一・山口雄治・フィクリ・クラックオウル2021「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けて－キュルテペ遺跡北トレンチ、西トレンチ発掘調査（2020年）－」『第28回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会、pp.59-61.

Kulakoglu, F., Kontani, R., Uesugi, A., Yamaguchi, Y., Shimogama, K., Semmoto, M. 2020. Preliminary report of excavations in the northern sector of Kültepe 2015-2017. *Subartu* 45, pp.9-88.

Nakao, H., Nakagawa, T., Tamura, K., Yamaguchi, Y., Matsumoto, N., and Matsugi, T. 2020. Violence and climate change in the Jomon period. Gwen Robbins Schug (eds.) *The Routledge Handbook of the Bioarchaeology of Environmental Change*. Routledge, pp.364-375.

Sakahira, F., Yamaguchi, Y., Osawa, R., Kishimoto, T., Okubo, T., Terano, T., Tsumura, H. 2020. Generating hypotheses on prehistoric cultural transformation with agent-based evolutionary simulation. *Proceedings of the 2020 Winter Simulation Conference*, pp.194-205. DOI: 10.1109/WSC48552.2020.9383855

Suab, A.S., Hayakawa, Y.S., Kume, S., Yamaguchi, Y., Amanbaeva B, K'adyrov, A., Avtar, R., Ogura, T. 2020. Mapping of Archaeological Sites using UAV Aerial Survey and PPK GNSS Ground Survey Techniques in Central Asia. *IOP Conf. Ser.: Earth Environ. Sci.* 540 012014. DOI: 10.1088/1755-1315/540/1/012014

鈴木茂之・山口雄治・山本悦世2021「ボーリング調査結果と海水準変動」『中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.5-13.

山口雄治2021「岡山平野における沖積層基底面と遺跡立地」『中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.36-43.

山口雄治・山本悦世2021「岡山県域における縄文時代の放射性炭素年代測定値集成」『中部瀬戸内地域にお

ける縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究」岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.106-113.

山本悦世・山口雄治2021「山陽地域の海岸線復元と遺跡分布－岡山県南部地域を中心に－」[中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究]岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.44-51.

山本悦世・山口雄治2021「山陽地域の遺跡動態と環境－岡山県南部地域を取り上げて－」[中部瀬戸内地域における縄文時代の環境変動と人間活動に関する考古学的研究]岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、pp.59-78.

### 3. 研究発表・講演ほか

#### 山本悦世

山本悦世「環境変動に向き合う縄文人－津島キャンパスの地下に残された災害と恩恵－」2021年3月10日 オンライン（法文経職員組合文化教養講座）

山本悦世「岡大を掘る！－縄文人の新たな挑戦と中世鹿田の人々」2021年3月27日 岡山大学（第13回岡山大学埋蔵文化財調査研究センター公開講座）

#### 野崎貴博

野崎貴博「木製品の樹種選択と周辺植生の関係」2021年2月27日 岡山大学（第12回岡山大学埋蔵文化財調査研究センター公開講座）

#### 南健太郎

南健太郎「使用痕からみた銅鐸のマツリとその実像」2020年7月18日 荒神谷博物館（荒神谷遺跡発見35周年記念講演会）

南健太郎「非破壊成分分析による三角緑神獸鏡鑄造技術の復元」2020年9月25日 オンライン（第3回文理融合シンポジウム 量子ビームで歴史を探る－加速器が紡ぐ文理融合の地平－）

南健太郎「ミュオン特性X線による非破壊分析法と三角緑神獸鏡の製作技術研究」2020年10月31日 岡山大学（岡山大学先端研究講座）

南健太郎「日本列島最古の文字とミュオン分析の展望」2021年1月29日 オンライン（第4回文理融合シンポジウム 量子ビームで歴史を探る－加速器が紡ぐ文理融合の地平－）

#### 山口雄治

山口雄治「岡山平野における縄文時代後期～弥生時代前期の環境と生業」2020年10月17日 オンライン（令和2年度第2回歴博基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化の形成」研究会）

山口雄治「キュルテベ遺跡出土のいわゆる赤黒土器の動態とその評価」2020年11月21・22日 ノートルダム清心女子大学・岡山市立オリエント美術館・岡山大学（オンライン）（日本西アジア考古学会第25回大会）

山口雄治・紺谷亮一・Kulakoglu, Fikri, 「キュルテベ遺跡における前期青銅器時代の土偶と石偶」2020年12月5・6日 名古屋大学（オンライン）（日本オリエント学会第62回大会）

Sakahira, F., Yamaguchi, Y., Osawa, R., Kishimoto, T., Okubo, T., Terano, T., Tsumura, H. Generating hypotheses on prehistoric cultural transformation with agent-based evolutionary simulation. 2020年12月17日 Online (Winter Simulation Conference 2020).

- 光本順・ジョセフ・ライアン・山口雄治・清家章「巨大古墳のUAV-LiDAR測量とその展望」2021年1月9・10日オンライン（出エーラシアの統合的人類史学 第4回全体会議）
- Uesugi, A., Jamison, G., Yamaguchi, Y., Diversity, Complexity and Standardization: The Significance of Seals in the Indus Archaeology. 2021年3月16-18日 Department of Archaeology, University of Kerala, India (Online) (International Webinar on Indus Civilization).
- 紺谷亮一・山口雄治・フィクリ・クラックオウル「中央アナトリアにおける銅石器時代解明へ向けてーキュルテベ遺跡北トレンチ、西トレンチ発掘調査（2020年）ー」2021年3月27・28日 オンライン（第28回西アジア発掘調査報告会）（南）



## 第3章 2020年度における調査・研究のまとめ

### 調査

2020年度は津島キャンパスで津島岡大遺跡第38次調査、第39次調査の発掘調査をおこなった。前者については「紀要2019」においてすでに報告を済ませており、本書には第39次調査の概要を掲載した。第39次調査の特筆される成果として、縄文時代中期から後期における集落の様相についての新たなデータが得られた点が挙げられる。第39次調査D地点では縄文時代中期末の土器片が3か所に分かれて出土した。本遺跡における縄文時代の遺構が明瞭になるのは縄文時代後期前葉からであり、中期の遺構や遺物が確認された調査区は少ない。今後の調査においては縄文時代中期集落の探索も重要なテーマとなるだろう。また本調査ではB地点・C地点において縄文時代後期の土坑やピットが検出された。本調査地点はこの時期の遺構や遺物が最も顕著な第17・22次調査区の西側に位置しており、縄文時代後期集落の拡がりを確認することができた。今後は縄文時代後期の微高地や河道などの地形環境とあわせて集落構造の復元に取り組んでいきたい。

### 研究

発掘調査資料の整理作業は、鹿田遺跡の4地点についておこなった。それらのうち第12次調査と隣接する第27次調査の成果を「鹿田遺跡15」として刊行した。本調査地点は鹿田キャンパスの南側中央に位置している。弥生時代から古墳時代初頭、古代、中世前半、近世の遺構・遺物が確認され、主要な成果としては弥生時代中期から古墳時代初頭の耕作地と中世前半の土地区画の様相が明瞭に示された点が挙げられる。本調査地点では弥生時代中期から古墳時代初頭の耕作に関連する高まりや溝群が検出されており、周辺に展開する耕作地の南端にあたること指摘された。周辺調査地点における同様な遺構群とあわせ、耕作地は南北約100～110m、東西約140～150m、面積は約1.4～1.5ha以上に及んでいたと考えられる。また中世前半においては溝によって区画された範囲に掘立柱建物、多数の柱穴、木枠を内包する井戸などの遺構が密に分布しており、屋敷地にあたりと評価された。屋敷地の配置と土地区画については、本調査区北端で確認された東西方向の区画溝と上記の遺構群の間に空閑地が存在していること、東西溝の北と南で南北方向を区画する主要な溝の位置が正対しないことが指摘された。これらの成果は鹿田遺跡における各時代の集落構造や土地利用を考える上で重要なデータとなった。

また本書第1部第1章第3節には縄文時代の貯蔵穴から出土した桃核の年代測定、構内遺跡出土墨書土器、鹿田遺跡出土石鍋の成分分析についての論考を所収した。特に桃核については、放射性炭素年代測定により暦年代が9世紀末～10世紀末であることが示された。「紀要2018」で報告された同じ貯蔵穴から出土した桃核の放射性炭素年代測定でも10世紀中葉から11世紀初頭の暦年代が得られており、貯蔵穴の上部に存在した10世紀後半～11世紀初頭の溝からの混入であることが指摘されている。本遺跡で出土した縄文時代の遺構出土桃核はこれらの2点のみであり、いずれも平安時代の資料であったことが確実となった。自然遺物については出土遺構の時期に帰属すると評価できるかどうか、慎重な議論と分析が必要であることが再認識された。

研究費は科学研究費補助金研究代表者3件、分担研究者9件で、新規の分担者が6件、継続の代表者が3件、分担者が3件であった。また民間の研究助成が1件であった。

### 情報発信

昨年度から続く新型コロナウイルスの影響により、今年度のキャンパス発掘調査展に伴うイベントが中止され、公開講座も予定していた3回を2回に縮小せざるをえなかった。ただし、公開講座においてはオンラインでの参加方法を整備することができたため、次年度はこれを活かして積極的な情報発信に努めたい。

### まとめ

本年度をもって、本センターの前身である埋蔵文化財調査室設置から籍をおいてきた、山本悦嗣副センター長が退職となった。今後はこれまでに培われた活動などを継承・発展させ、構内遺跡の調査研究、情報発信をさらに推進していきたい。

(南)



## b. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの規程

### (1) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程

〔平成16年4月1日〕  
〔岡大規程第93号〕

改正 平成20年3月31日規程第28号  
平成23年3月31日規程第26号  
平成23年9月27日規程第84号  
平成26年1月28日規程第1号

#### (趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人岡山大学管理学園（平成16年岡大規則第1号）第26条の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

#### (目的)

第2条 センターは、岡山大学（以下「本学」という。）の敷地内の埋蔵文化財について、次の各号に掲げる業務を行い、もって埋蔵文化財の保護を図ることを目的とする。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- 二 発掘された埋蔵文化財の整理及び保存に関すること。
- 三 埋蔵文化財の発掘調査報告書の作成等に関すること。
- 四 その他埋蔵文化財の保護に関する重要な事項

#### (自己評価等)

第3条 センターは、センターに係る自己点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を公表する。  
2 前項の自己評価については、本学の職員以外の者による検証を受けることを原則とする。

#### (教育研究等の状況の公表)

第4条 センターは、教育研究及び組織運営の状況等について、定期的に公表する。

#### (センター長)

第5条 センターにセンター長を置く。  
2 センター長は、財務・施設担当理事をもって充てる。  
3 センター長は、センターを代表し、その業務を総括する。

#### (副センター長)

第6条 センターに副センター長を置く。  
2 副センター長は専門的知識を有する本学の教授のうちから学長が任命する。  
3 副センター長は、センター長の職務を助ける。  
4 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

#### (調査研究室)

第7条 センターにセンターの業務を処理するための調査研究室を置く。  
2 調査研究室は、室長、センター専任の教員及びその他必要な職員で構成する。  
3 室長は、専門的知識を有する本学の教員のうちからセンター長の推薦に基づき、学長が任命する。  
4 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。  
5 調査研究室の構成員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

#### (調査研究専門委員)

第8条 センターに、センターの業務のうち特に専門的な事項についての調査研究の推進を図るため、調査研究専門委員（以下「専門委員」という。）を置く。  
2 専門委員は、本学の教員のうちからセンター長が委嘱する。  
3 専門委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

#### (運営委員会)

第9条 センターに、センターの運営に関する重要な事項を審議するため、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。  
2 運営委員会に関し、必要な事項は、別に定める。

#### (事務)

第10条 センターの事務は、施設企画部施設企画課において処理する。

#### (雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターに関し、必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規程は、平成23年11月1日から施行する。

#### 附 則

この規程は、平成26年1月28日から施行する。

## (2) 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程

〔平成26年1月28日〕  
〔岡大規程第2号〕

改正 平成27年3月31日規程第65号

## (趣旨)

第1条 この規程は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程（平成16年岡大規程第93号）第9条第2項の規定に基づき、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (審議事項)

第2条 運営委員会は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する次の事項を審議する。

- 一 センターの業務に関する重要事項
- 二 教員の教育研究業績の審査に関する事項
- 三 その他センターの運営に関する重要事項

## (組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 センター長
  - 二 副センター長
  - 三 本学の教授のうちからセンター長が必要と認めた者若干人
  - 四 センターの調査研究室長
  - 五 センターの調査研究専門委員のうちからセンター長が必要と認めた者 1人
  - 六 施設企画部長
- 2 前項第3号及び第5号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の在任期間とする。
- 3 教員の選考に関する事項を審議する場合には、第1項第

4号及び第5号のうち教授でない者並びに第6号の委員は、審議に加わらないものとする。

## (委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときには、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

## (委員会の成立等)

第5条 運営委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

## (委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

## (事務)

第7条 運営委員会の事務は、施設企画部施設企画課において処理する。

## 附 則

- 1 この規程は、平成26年1月28日から施行する。
- 2 この規程の施行後に最初に任命される第3条第1項第3号及び第5号の委員は、この規程の施行に伴い廃止される岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会内規（平成16年4月1日学長裁定）第3条第1項第3号及び第4号の委員をそれぞれ充てることとし、その任期は、第3条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

## 附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

## c. 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項

## 岡山大学構内遺跡の発掘調査にかかわる安全管理事項

平成12年5月15日

埋蔵文化財調査研究センター長  
施設部長

## 1. 請負業者が留意すべき事項

1. 請負業者は現場代理人を発掘作業の現場に常駐させ、作業員の安全と健康の管理につとめること。
2. 発掘作業の現場に「地山掘削」と「土止め支保工」の技能講習修了者をおき、作業員の安全や健康にも注

意すること。

3. 工事用電力の保安責任者をおくこと。
4. 非常停止装置を備えたベルトコンベアーを用いること。
5. 重機の運転は、免許所有者がおこなうよう厳守させること。

## II. 発掘現場で注意すべき事項

### 1. 服装・装備・用具等

- 1) 安全で機能的な服装にする。
- 2) 平坦面から2m以上の穴等を掘削する場合は、ヘルメットを着用する。
- 3) ベルトコンベアーの移動時および周辺での作業の際には、ヘルメットを着用する。
- 4) グラインダーを使用する際は、手袋・防護眼鏡を着用する。
- 5) スコップ・草削りなどの用具は、危険がないよう使用方法や置き方や保管方法に十分注意する。

### 2. 掘削

#### 1) のり面の角度

造成土：通常の土壌の場合は50～60度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。砂地の造成土の場合は35度とし、これを確保できない場合は土止め等の手当をおこなう。  
堆積土：基本75度とし、状況や土質に応じて安全な角度をとる。

発掘区の埋戻を深さ1.5m以上掘削する場合は、原則として途中で段を設ける。その場合の段の巾は、60cm以上とする。

#### 2) のり面の保護

のり面はシート等で覆うなどし、崩落防止のために必要な保護措置をとる。

#### 3) 深い遺構（深さ1.5m以上の遺構）

遺構掘削者以外の者が上面で安全確認を行い、十分な注意を払う。場合によっては周囲を広くカットして対応する。なお、作業現場内への昇降のために、階段を設置する。

### 3. 高所（高さ2m以上の場所）での作業

- 1) 作業中には安全帯を使用する。

- 2) 架台を組んだ場合は最上段に手すりを設け、安全を確保する。

- 3) 2段以上の架台は、分解して移動させる。

### 4. 発掘用機械類の操作

(ベルトコンベアー・ポンプ等)

- 1) 調査用電源の設置と取扱いについては、工事用電力の保安責任者が安全確認を行う。
- 2) ベルトコンベアー・水中ポンプ等の知識を持つ者が整備・稼働させる。
- 3) ベルトコンベアーを重ねたつなぎ目の部分には、なるべく土が落ちないように措置をする。
- 4) 原則としてベルトコンベアーの直下での作業・通行を避ける。
- 5) ベルトコンベアーの移動時は作業員の中で指揮者を決め、周辺の安全性を確保したうえで移動させる。

(重機関係)

- 1) 重機の免許所有者以外は運転しない。
- 2) 運転者は、周囲の安全に注意する。
- 3) 稼働中は、重機の旋回半径内に立ち入らない。

### 5. 健康管理

- 1) 作業中に体調が悪くなった場合は直ちに申し出る。

## III. その他

- 1) 作業現場内の状況の変化に絶えず注意し、異常を発見したら、直ちに作業を中止して現場代理人に報告し、施設部の監督職員の指示を受ける。
- 2) 調査区の状況や遺構などの特殊性・重要性等により、上記の2)の1)～3)どおり発掘作業を実施することが困難な場合は、現場代理人が監督職員と協議のうえ、安全に留意し作業を行う。

## d. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター教員審査に関する申し合わせ

平成20年10月29日  
埋蔵文化財調査研究センター  
運営委員会承認  
改正 平成27年3月30日

蔵文化財調査研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に教員審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置する。

- 2 審査委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
  - 一 センター長
  - 二 副センター長
  - 三 運営委員会委員からセンター長が必要と認めた者若干名
- 3 審査委員会に委員長を置き、審査委員会で選出される。
- 4 審査委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立

### (趣旨)

第1条 この申し合わせは、岡山大学教授会規則（平成16年岡大規則第20号）第10条の規定に基づき、埋蔵文化財調査研究センター（以下「センター」という。）における教員の審査に関し、必要な事項を定める。

### (教員審査委員会)

第2条 センター長は、教員審査の必要が生じたときは、埋

し、議事は、出席者の2分の1以上をもって決するものとし、可否回数の際は、委員長が決する。

- 5 審査委員会は、審査の方針について定め、候補者の資格及び適性について審査し、その結果を運営委員会に報告する。

**(公募)**

第3条 採用人事は、原則として公募により行うものとする。ただし、センターの教員（専任教員を含む。）で審査基準を満たす者があると認められる場合は、公募を行わないことがある。

**(審査基準)**

第4条 教授、准教授、講師及び助教となることのできる者は、規則に定める資格を有する者とする。

- 2 教授、准教授、講師及び助教の審査にあたっては、履歴書、業務日録（発掘調査の実績を含む）、論文（著書を含む）、主要研究業績についての適切な説明書の提出を求めるものとし、必要に応じてその他審査に必要な書類の提出を求めるものとする。

**(雑則)**

第5条 この申し合わせに定めるもののほか、教員の審査に関し、必要な事項は、センター長が別に定める。

**附 則**

この申し合わせは、平成20年10月30日から施行する。

**附 則**

この申し合わせは、平成27年4月1日から施行する。

## 2. 2019年度以前の調査・研究一覧

付表1 1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）

年度	地区名	種類	工事名称：調査名称	調査組織	調査面積 (㎡)	文献	備 考	
1980	津島	立会	理学部附属動物実験施設新営	岡山山教育委員会	8			
		*	農学部畜舎新営	*				
		*	文法館 合併処理機施設	*				
		*	文法館 合併処理機施設	*				
1981	鹿田	*	BD09, BC09～11	基幹整備（共同溝取付）	*			
		*	BD～BE04～07	陸上競技場改修（配水管施設）	*			
		*		（医病）高気圧治療室新営	*			
		*		（医病）動物実験棟新営	岡山山教育委員会			大学が古教委への確認調査依頼をせずに撤去。その後、岡山山・岡山山教委が残存範囲の調査を実施
1982	津島	試験	AW06-10, AW05-14, AX08, BD07, BE10	排水基幹整備	*		津島AW14区で発生時代包含確認。協議→津島岡大遺跡第1次調査へ	
		*	AW14	文法館 排水集中槽（NP-1）埋設 津島岡大遺1次調査	岡山大学	24.0	3	【小機法目録遺跡】と報告
		*		武辺院新営	岡山山教育委員会	2.3		
		*	AY15-16	法経 校舎新営	*	7.0		
1982	鹿田	*		医学部標本保存庫新営	岡山山教育委員会	8.0		
		*		（医病）外来診療棟新営	岡山山教育委員会	4.0	2	
		立会		医学部動物実験施設関連排水管・ガス管施設	岡山山教育委員会		1	
		*	AE～AN22, AE22～26	商学部電話ケーブル埋設	岡山山教育委員会 岡山大学理蔵文化財調査室			

文献

1. 光木真一 1983「岡山大学医学部附属動物実験施設新営工事に伴う排水管施設工事に伴う立会調査」『岡山山理蔵文化財報告』13 岡山山教育委員会
2. 河本 清 1983「岡山大学医学部附属動物実験施設新営に伴う立会調査」『岡山山理蔵文化財報告』13 岡山山教育委員会
3. 吉原秀敏 1985「岡山大学津島地区小機法目録遺跡（AW14区）の発掘調査」岡山大学構内遺跡発掘調査報告第1集 岡山大学理蔵文化財調査室

付表2 2019年度以前の構内主要調査（1983～2019年度）

* 凡例							
* 総合番号：調査地区別通し番号（立会調査は歴史的に保存）							
* 津島岡大遺跡第1次調査は、本機法設置以前の調査であるため、総合番号を「※1」として区別する。							
* 試験確認調査のうち、事後に実施の発掘調査範囲内に入った場合、本表に対応する調査地点（発出）から番号表記を省く。全てが発掘調査範囲内に含まれるものについて、本表-②では、総合番号に「1」を付して表記する。							
* 立会調査で、本表-③に保存する基準：①中核土層以下を確認した調査 ②明確な遺構・遺物を確認した調査							
* 番号：年度別報告番号							
* 文献：発出の刊行物一覧表の番号に対応する。正式報告が刊行された場合は、年報・紀要掲載の掲載文献は省略する。							

付表2-① 発掘調査

<津島地区：津島岡大遺跡>

総合 番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(㎡)	概要（主要遺構ほか）	文献
※1	1982	-	津島岡大遺跡第1次調査 排水集中槽（NP-1）埋設	AW14	10.28～11.24	24	発生中期～古代：溝、小機法目録遺跡と報告	3
1	1983	-	津島岡大遺跡第2次調査 水管埋設	BE14-18, BF17-18 EG14 BE14-15	84.19～95	265	発生早～前期：遺物	4
2	1983	-	津島岡大遺跡第2次調査 合併処理機埋設	BH13	11.14～11.22 4.19～3.5	276	発生前期水田開墾遺構（溝様）	4
15	1986	2	津島岡大遺跡第3次調査 男子学生寮新営	AV06, AW00-01	12.1～87.6.18 8.24～9.5	1550	縄文後期河田、発生早期：野蔵穴群・河田、発生前期～近世：水田溝、古代桑里間溝	19
16	1986	3	津島岡大遺跡第4次調査 屋内運動場新営	BF-BG09	87.1.19～1.22	70	発生前期溝、中世河田	6
26	1988	1	津島岡大遺跡第5次調査 大学院自然科学研究科棟新営	AY06～08 AZ06-07	6.27～89.3.19	1537	縄文後期～発生早期：野蔵穴群・河田、発生時代末～近世：水田開墾遺構	27
27	1988	2	津島岡大遺跡第6次調査 生物応用工学科棟新営	AV-AW04-05	9.20～89.5.31	600	縄文後期：野蔵穴群・河田、古代桑里間溝、発生前期～近世：水田溝	35
28	1988	3	津島岡大遺跡第7次調査 情報工学科棟新営	AV-AW05-06	10.12～89.3.31	800	縄文後期：B・ピット、発生前期～近世：水田溝	35

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	概要（主要遺構は□）	頁数
39	1990	1	津島岡大遺跡第5次調査 ：自然科学研究所棟共同溝・排水施設	AY-AZ08	4.3-4.21	90	古墳後期溝	27
44	1991	2	津島岡大遺跡第6次調査（A地点） ：東北子実跡地新築	BD18-19	7.23-12.25	690	縄文時代土坑、弥生時代・近世：溝	32
45	1991	3	津島岡大遺跡第6次調査（B地点） ：合巻処理棟新築	BH13	7.23-12.2	140	弥生時代溝、古代・近世：水田	32
50	1992	1	津島岡大遺跡第9次調査 ：生体機能応用工学棟新築	AU～AW04	7.1-9.01.29	690	縄文後期：貯蔵穴・土坑・溝・火竈、弥生時代・近世：水田・岡田遺構	47
51	1992	2	津島岡大遺跡第10次調査 ：総合情報処理センター新築	BB～BC10-11	9.21-3.31 4.17-7.31	400	弥生後期土坑群、古墳時代：井戸・住居・中、古代特 穴群、中世溝、近世耕作関連遺構	64
54	1993	2	津島岡大遺跡第11次調査 ：総合情報処理センター新築	AV～AW11-12	9.14-9.41.11	640	縄文後期：ビツト、弥生前期水田跡	36
50	1993	3	津島岡大遺跡第12次調査 ：図書館新築	AV～AW13-14	9.4.29-3.31 4.1-11.30	1472	弥生前期水田、弥生中期～古墳時代：溝群、古代・ 近世：桑畑関連遺構	64
64	1994	2	津島岡大遺跡第13次調査 ：福利厚生施設（北棟）新築	AW～AX11-12	10.6-11.30 9.5.10-10.4	816	縄文後期ビツト、弥生水田、弥生・古墳時代：溝	41
69	1995	2	津島岡大遺跡第14次調査 ：福利厚生施設（南棟）新築	BB～BC12-13	10.25-9.62.14	896	弥生前期水田、弥生・古墳時代：溝	46
70	1995	3	津島岡大遺跡第15次調査 ：サウナ・ベンチ・マジックボックス ラトリ新築	AW00-01	9.6.1.16-4.25	1600	縄文後期・弥生早期：貯蔵穴・河溝、縄文後期：ビツ ト群、石材ヤブ・火竈、弥生前期水田、古墳・中世・ 水田・溝	72
74	1996	2	津島岡大遺跡第16次調査 ：動物実験棟新築	BD19-20	5.7-15	30.3	A地点：縄文時代・古墳時代：土坑 B地点：中世溝、古代特穴群、縄文時代水田	44
75	1996	3	津島岡大遺跡第17次調査 ：環境理工学部校舎（1期）新築	AW02-04	5.21-9.7.19	1451	縄文後期：住居・土坑・溝、弥生前期：水田、弥生時 代溝群、古墳後期住居、古代水田、中世耕作農	77
85	1998	2	津島岡大遺跡第18次調査 ：臨時施設（南）ポンプ機取設	BH11	4.7-4.10	16	古代溝状遺構	53
86	1998	3	津島岡大遺跡第19次調査 ：コアレーションセンター新築	AZ09-10	7.27-9.9.21.8	1019	縄文後期：ビツト、弥生前期：水田・土坑・河溝、 古墳時代・中世・溝、近世：道路状遺構・溝	65
87	1998	5	津島岡大遺跡第20次調査 ：環境理工学部校舎ポンプ機取設	AY07	10.19-28	16	黒色土上面に溝、中世溝	53
88	1998	6	津島岡大遺跡第21次調査 ：1学部エレベーター設置	AX09	11.4-24	30.2	縄文中期土坑、弥生早期～前期：溝、古代：土坑・溝	65
89	1998	8	津島岡大遺跡第22次調査 ：環境理工学部校舎（2期）新築	AW02-03	9.9.3.1-7.12	7735	縄文後期～弥生前期：河溝、弥生早期土坑、弥生前 期水田、弥生中期溝、古墳・近世：桑畑関連遺構・水田	77
104	1999	5	津島岡大遺跡第23次調査 ：総合研究棟新築	AZ15-BA14	0.0.2.3-7.28	1309	縄文後期～弥生前期河溝、縄文後期土坑、弥生早期 貯蔵穴・溝、弥生前期：塚・溝、弥生中期～近世：溝	80
111	2000	3	津島岡大遺跡第24次調査 ：総合研究棟西り面下建設	AZ14	12.5-14	34.2	縄文後期：河溝・坑	80
112	2000	4	津島岡大遺跡第25次調査 ：排水施設設置	BA15	01.1.29-31	20	中世～近世：溝	61
2000	2001	1	津島岡大遺跡第26次調査 ：事務機械棟新築	BC～BD14-15	01.3.26-9.30	1500	縄文中・後期：土坑、中、弥生前期貯蔵穴、弥生前期 土坑、弥生後期溝、古墳後期～中世：横列・道路状遺 構、近世：溝	76
121	2001	2	津島岡大遺跡第27次調査 ：創立五十周年記念会館新築	BB～BC14-15	02.2.1-6.24	1648	縄文後期中、弥生・古墳時代：溝群、中世耕作（桑畑 関連）	68
127	2002	2	津島岡大遺跡第28次調査 ：自然科学総合研究棟新築	AW～AY06-08	4.30-9.20、 11.28-03.11.5	1298	弥生前期水田、弥生前期～中期：溝、古代：溝（内 に柱穴群）、中世岡田遺構	87
128	2002	4	津島岡大遺跡第29次調査 ：共同溝設置	BF16	9.18-10.3	62.6	弥生・古墳時代：溝・ビツト	71
163	2007	1	津島岡大遺跡第30次調査 ：旗川インクセンター新築	BC19-20	8.1-12.17	1035.4	縄文後期～弥生早期：土坑群、弥生・古墳時代：溝 群、古代道路状遺構、中～近世：土坑群・横列・溝群	93
168	2008	1	津島岡大遺跡第31次調査 ：大学生協東棟施設運営	AX04	6.17-8.22	212	弥生前期跡、古代道路状遺構	95
184	2009	1	津島岡大遺跡第32次調査 ：教学生活支援棟新築	AX02	7.16-10.13	383	縄文後期貯蔵穴群、弥生前期前期、弥生前～中期・中 世溝：溝	100
196	2010	1	津島岡大遺跡第33次発掘調査 ：総合研究棟棟新築	BH17-18、BC17-18	7.16-11.11	972.2	縄文中・後期：ビツト、弥生時代：土坑・溝、古墳時 代前期～古代：能登形土坑、古代・中世：道路状遺構	117
197	2010	2	津島岡大遺跡第34次発掘調査 ：国際交流会館新築	AU・AV13-14	7.30-9.28	1590	弥生前期：暗溝、近世土坑群、平面調査は中世土 面まで実施し下部は保存	105
216	2013	1	津島岡大遺跡第35次発掘調査 ：防風園舎増築	AW13	7.8-8.29	80	縄文時代：ビツト、古墳時代後期：溝・ビツト、古 代：ビツト列、近世：暗溝、土坑、溝	116
236	2015	1	津島岡大遺跡第36次発掘調査 ：職員宿舍新築	BH・BH16	5.26-6.17	435	縄文後期：土坑、弥生前期～前期：水田跡群、弥生 後期～古墳時代：溝、古代・中世：ビツト、旧跡群 水路、建物	124
264	2019	1	津島岡大遺跡第37次調査 ：新分野基礎科学研究棟新築	AZ～BA08-09	8.28-3.19	1410.9	弥生時代早期～前期：土坑・溝・河溝、弥生時代後 期～古墳時代後期：土坑・溝、溝、古代・中世：土 坑・溝、近世：土坑・溝	141



<鹿田地区：鹿田遺跡>

組合番号	年度	番号	調査名称・工事名称	境内座標	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	概要(主要遺構ほか)	文献
1	1983	-	鹿田遺跡第1次調査 ：外庫跡発掘新嘗	AU-B128-40	7.27-11.22 84.1.9-8.31	2188	弥生時代中期後半～中世の集落遺構群	7
2	1983	-	鹿田遺跡第2次調査 ：NMR-C17室新嘗	BG-B118-21	8.1-12.30	176	弥生時代(後期)～中世の集落遺構群	7
10	1986	1	鹿田遺跡第3次調査 ：医療技術短期大学校舎	CN-CU27-28, CF-CV19-27, CX-DD16-25, DD-DG22-23	6.2-11.29	2390	中世の集落遺構群、古代の橋脚・河沼	10
12	1987	3	鹿田遺跡第4次調査 ：医療技術短期大学の配管施設	DD-DF25 DG-DE27-28	11.2-11.21	30	古代の河沼	10
13	1987	2	鹿田遺跡第5次調査 ：管理棟新嘗	BB-BE35-42	10.6-88.32 88.3.23-3.31	1192	弥生時代中期後半～中世の集落遺構群	24
16	1990	2	鹿田遺跡第6次調査 ：アイソトープ総合センター新嘗	BW-CC67-71	11.30-91.6.30	690	古墳時代初期～中世の集落遺構群	40
25	1997	4	鹿田遺跡第7次調査 ：北鹿田学棟新嘗	B855-BX61 BY56-57	98.2.27-8.6	829	古墳時代初期～中世の集落遺構群、近世の水田・溝	85
27	1998	4	鹿田遺跡第8次調査 ：同向衛生新嘗	BP-BE30-32	7.28-9.1	365	古墳時代と中世の溝群	85
28	1998	7	鹿田遺跡第9次調査 ：病棟新嘗	CD33-37, CE-CF28-31, CG-CJ30-37, CK-CL35-37	11.27-99.5.11	2088	弥生時代水田・溝、中・近世集落遺構群	126
31	1999	3	鹿田遺跡第10次調査 ：共同設置関連	CD-CE10-12 DD-DF16-22	5.7-10.14	2441	古代の畦列、弥生時代ビッド、近世溝	108
32	1999	4	鹿田遺跡第11次調査 ：病棟新嘗	CD-CM19-42	8.19-12.22	2030	弥生時代水田畦畔、古代の池状遺構、中・近世集落遺構群	126
40	2000	2	鹿田遺跡第12次調査 ：エネルギーセンター新嘗	CO-CV35-44 CN-CM38-41 CN28-38	10.2-01.05.10	1897	弥生時代溝・河沼、古墳時代溝・土部盛り、中世集落遺構群、近世土坑・溝	143
46	2002	3	鹿田遺跡第13次調査 ：総合教育研究棟新嘗	BL-BE46-51	4.30-10.25	934	弥生時代の溝、古墳時代の土部盛り・溝、中世集落遺構群、近世土坑・溝	98
55	2003	1	鹿田遺跡第14次調査 ：病棟(旧期)新嘗	CD-CM12-20	7.31-12.17	1331	弥生～古墳時代の畦畔・溝、中世の集落遺構群、近世のための土坑	113
56	2003	2	鹿田遺跡第15次調査 ：総合教育研究棟外構	BQ-BE45-46	10.16-10.29	304	古墳時代初期の井戸・溝	98
59	2004	1	鹿田遺跡第16次調査 ：立休駐車場新嘗	AH-A16-7 AF12-13, AN-A04	10.21-11.8	4915	近世～現代の畦畔・溝・土坑、中世の土坑、弥生～古墳時代の河沼	81
60	2006	1	鹿田遺跡第17次調査 ：総合研究棟(医学系)新嘗	BR-BY60-64	7.10-11.14	642	古墳時代～中世の集落遺構群、近世土坑・溝	137
64	2007	1a	鹿田遺跡第18次調査A地点 ：中央診療棟新嘗	BT13-BY20	10.10-08.31.4	872.2	弥生時代後期～近世の集落遺構群	92
65	2007	1b	鹿田遺跡第18次調査B地点 ：防大木造設備	CG-C9-10	10.16-11.1	43.2	古代後半の井戸、近世入居式遺構・溝岸施設	108
66	2007	1c	鹿田遺跡第18次調査C地点 ：日本橋改修	CM-CN9-10 CO10-11	12.27-08.11.6	56	弥生時代土坑・溝	108
76	2008	1	鹿田遺跡第19次調査 ：薬学部流し床下設置	AW-AY22-23	6.26-9.12	80	弥生時代後期の「方形高まり」、日保・鹿田土坑・溝、古墳時代土坑・溝、古代ビッド、近世土坑	95
80	2009	1a	鹿田遺跡第20次調査A地点 ：中央診療棟共同溝設置	BZ-CC31-40	6.18-7.31 8.5-24	632	弥生時代～近世の遺構・遺物	131
81	2009	1b	鹿田遺跡第20次調査B地点 ：中央診療棟新嘗(本体工事)	BS20-23 BT-BW20-24 BX-CD13-25	10.15-11.22 3.1-8	2482	弥生時代～近世の遺構・遺物	102
84	2010	1	鹿田遺跡第20次調査C地点 ：中央診療棟新嘗	BR-BE12-21 BT-BX12-13	7.20-10.8	276	弥生時代～近世の遺構・遺物	105
85	2010	2	鹿田遺跡第20次調査D地点 ：中央診療棟新嘗	BT-BU24	2011.2.18-3.2	15	中世～近世の遺構・遺物	105
86	2010	3-1	鹿田遺跡第21次調査A地点 ：外庫棟周辺施設発掘整備	AD-AF30-31		21.2	平安時代河沼、鎌倉時代溝状遺構	105
87	2010	3-2	鹿田遺跡第21次調査B地点 ：外庫棟周辺施設発掘整備	AG-AH30-31	11.18-12.9	22	平安時代河沼、鎌倉時代溝状遺構	105
88	2010	3-4	鹿田遺跡第21次調査O地点 ：外庫棟周辺施設発掘整備	AS-AT25-28		59.4	弥生時代包合層	105
94	2011	1	鹿田遺跡第22次調査 ：地域医療人育成センター新嘗	AV-BB 94-07	7.14-9.22 10.14-11.18	533	弥生時代井戸・溝、中世井戸・溝、近世井戸・溝、近代溝・池	107
96	2012	1	鹿田遺跡第23次調査 ：「ホーム」新嘗	AN-AR 57-62	6.25-8.30	612	弥生時代～古墳時代初期畦畔、古代溝・中世溝・中・近世溝・土坑・倉、近代溝、ドロップ軌道	120
97	2012	2	鹿田遺跡第24次調査 ：医療薬業合棟新嘗	BD-BL 57-69	11.27-2013.4.25	1867	弥生時代溝、古墳時代土器群、古代井戸・土坑、中世溝・畦・井戸・土坑、近世溝・土坑、近代畦状遺構	130
101	2013	2	鹿田遺跡第25次調査 I 工区 ：中央診療棟Ⅱ期	BY-CU24-38	2014.1.6-4.17	690	弥生時代畦畔、中世井戸・土坑・溝・柱穴、近世土坑・溝	131

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	概要（主要遺構ほか）	文献
124	2014	1	熊田遺跡第26次調査 非工区 中央診療棟目録	BS-BY24-41	2014.3.15～ 8.25	1805	弥生時代土器、中世青銅・土坑・墓・溝・柱穴、近世土坑・溝	131
125	2014	2	熊田遺跡第26次調査 動物学施設施設目録	CD-CJ66-48、 CJ-CR61-62	2014.1.18～ 11.17	255.5	弥生時代溝・明瞭、古墳時代土器・土坑・溝・森坑遺構、古代土坑・ピット、近世土坑	135
142	2017	1	熊田遺跡第27次調査 自家交差施設	CN-CO43-44	2017.10.10～ 11.10	34.5	弥生時代・古墳時代遺構、古墳時代溝・飛鳥時代溝、中世ピット	143
144	2018 2019	1	熊田遺跡第28次調査 「アメニティモール」新設	AG-AS31-41	2018.11.19～ 2019.9.18	2940	弥生時代・古墳時代・土坑・溝・河迹、古代・土坑・河迹、中世・井戸・土坑・溝・河迹・ピット、近世土坑・溝、近代：鉄道遺構、明瞭	138 141

## &lt;三朝地区：福島遺跡&gt;

総合番号	年度	番号	調査名称：工事名称	構内座標	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	概要（主要遺構ほか）	文献
1	1997	1-2	福島遺跡第1次調査 ：実験研究棟新設	-	97.5.10～20 7.28～31	269	縄文時代早期・弥生時代中期・中世・近世の集落	55
2	1997	3	福島遺跡第2次調査 ：実験研究棟新設に併うスロープ設置	-	97.11.25～12.5	130	古代・中世・近世の集落	55

付表2-(2) 試掘・確認調査

## &lt;津島地区：津島岡大遺跡&gt;

総合番号	年度	番号	調査対象地名 概 略	構内座標	掘削深さ (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
							内容	年代・その後の対応	
131	1983	-	農学部合弁処理槽予定地	BH13	2.5	-	1	→津島岡大第2次調査：1983年度	
4	1983	-	農学部排水管中間ポンプ槽予定地	BF17	3.5	-	1	→工事立会	
5	1983	-	農学部排水管理設予定地	BE-BG14、 BE-BH15、BE18、 BF16-18、BC18	2.0	-	29	→津島岡大第2次調査：1983年度	
6	1983	-	農学部農場畜舎棟予定地	BF22-23	2.0～3.0	0.6	2	土層片→1987年度工事立会	1
171	1983	-	大学事務局棟予定地	BC-BD15	2.0～3.0	0.9	3	→津島岡大第26次調査：2000年度	
181	1983	-	保健管理センター予定地	BH10	2.0～3.0	0.8	1	→津島岡大第10次調査：1999年度	
9	1983	-	津島総合センター予定地	BE16	0.9	0.9	2	土層片→1987年度工事立会	
10	1983	-	工学部学生会館予定地	AW06	3.0	1	1	土層片	
12	1983	-	教養課農機庫予定地	BE08	3.5	1.2	2	遺構なし土層部→1986年度工事立会	
13	1983	-	総合研究棟予定地	AX02	2.6～3.4	1.2	3	縄文・弥生・中世土層出土	5
14	1983	3	男子学生寮予定地	AV-AW99-01	2.0～3.0	1	12	→津島岡大第3次調査：1986年度	
1171	1986	3	屋内運動場予定地	BF-BD09	2.4、1.2～1.7	1.1	3	→津島岡大第4次調査：1986年度	
1181	1986	4	大学院自然科学研究科棟予定地	AY-AZ07	1.6～3.2	0.6～0.8	3	→津島岡大第5次調査：1986年度	6
22	1987	4	外国人留学生予定地	AP02	2.2～2.8	-	2	縄文時代・弥生時代・近世の遺構面	
231	1987	5	総合情報処理センター予定地	AV11	2.0～3.0	2	2	→津島岡大第11次調査：1996年度	
24	1987	6	理学部身体障害者用エレベーター予定地	AY09	3.0～3.5	約1.0	1	中世・近世の遺物、古代・中世の土坑 →断続して調査	8
25	1987	7	教養部身体障害者用エレベーター予定地	BD09	2.5	0.7	1	縄文時代遺構、縄文・中世・近世土層 →断続して調査	
29	1988	17	工学部校舎予定地	AX01-06、AW04	2.0～3.5	1～1.5	6	→津島岡大第6・7次調査：1988年度	
30	1988	19	動物実験飼育棟・遺伝子実験棟予定地	BD18-19	2.3	1.1～1.2	3	→津島岡大第8次調査：1991年度	11
31	1988	20	国際交流会館予定地	BC36	2.5	1.2	3	中・近世土層→1988年度工事立会	
33	1989	2	教育学部身体障害者用エレベーター予定地	AZ-BA05	2.5	0.8	1	縄文後期～中世早期の高土、縄文後期～中世土層→断続して調査、面積約5m <sup>2</sup>	
34	1989	3	大学院自然科学研究科合弁処理槽予定地	AZ17	4.0	1.6～2.0	1	中世→明治の土坑埋積層→1989年度工事立会	14
35	1989	4	学生宿舎予定地	BH02	2.0～3.2	1	1	弥生～中世前期の遺跡→1989年度工事立会	
361	1989	5	図書館予定地	AV-AW13	3.0	1.4～1.6	2	→津島岡大第12次調査：1993年度	
40	1990	3	学生宿舎ポンプ槽予定地	BC02	2.5	1.1	1	弥生前期明瞭、中世土層	18
41	1990	6	福祉厚生施設予定地	AW-AX11	3.9	1.4～1.6	2	→津島岡大第13次調査：1993年度	
56	1993	3	農学部汎用施設実験施設施設予定地	BE-BF22-23	1.5	-	2	中～近世の耕作土	30
65	1994	3	農学部動物実験施設予定地	BE20	2.0	0.9	1	GL-1.4mで黒色土、縄文土層型→盛り土保存	33
71	1995	4	国際交流会館予定地	BE26	4.1～2.4	1.6	2	中世→明治埋積層、以下は近世、遺構・遺物無し（明治後のみ）→工事立会	
72	1995	5	環境理工学部校舎予定地	AW02-03	2.4	1.2	2	→津島岡大第17次調査：1996年度	38
73	1995	6	ボタニクス部ボックス棟予定地	BF07	3.0	1.2	1	標高25mで黒色土、弥生～古墳時代の溝2条、古代溝条	
901	1998	9	コカコーラエントランスセンター予定地	AZ09	2.7～3.4	1.3	2	→津島岡大第19次調査：1998年度	
911	1998	10	環境理工学部校舎予定地	AW02-03	4.5	1.2	2	→津島岡大第22次調査：1998年度	
92	1998	13	工学部システム工学科棟予定地	AW04	2.8	1	1	GL-1.8m黒色土、縄文後期の遺構	53
93	1998	14	道路保潔区整備関連施設	AU02-03-06、 AV03	2.4～3.8	0.8～1.6	5	TP1：3-5 隆高地、TP2-4 低平地、TP1：弥生土、TP3：弥生土・ピット、TP4：中世溝	
1011	1999	6	文法館 総合研究棟予定地	AZ15、BA14	2.7、3.5	0.8、1.1	2	→津島岡大第23次調査：1999年度	56
106	1999	7	電波塔設置予定地	AV08	1.2	0.2	1	現表土以下に断続となる岩層層	
114	2000	6	縄文～弥生時代における環境復元に伴う調査	AV00、 AX00-02-03、 AZ06、AW08	2.6～3.2	1.7～0.9	6	縄文～弥生時代の隆高地、古代溝	61

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 値	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
115	2000	7	創立五十周年記念館予定地	BB14	2	0.8	1	→津島岡大第7次調査：2001年度	61
129	2002	5	事務局旧本館移転予定地	BD15	2.1	1	1	黒色土の落ち	71
185	2009	2	学業保育室予定地	AV14	3.24	1.95	1	黒色土確認	
186	2009	3	農学部構内植物工場予定地	BF20	3.4	2.3	2	近代層・埋跡 弥生中期～古代におきる溝	102
198	2010	3	国際交流会館予定地	AU13・14	3.4	1.6～1.9	3	→津島岡大第34次調査：2010年度	
199	2010	4	学生アテンプ予定地	BK12	2.2	0.9	1	黒色土は本層を被る	105
208	2011	1	文芸館フェンス工事	AW17、AX17、 AY17、AZ16	1.1～2.0	1.0～1.6		近代の土塁、水溝	107
				AZ17	0.8	—		門跡・跡室建物基礎	
213	2012	1	正課外活動施設予定地	BD02	2.9	1.1	1	縄文時代～近代層確認	111
217	2013	2	Jテラス新営	BK13	1.8～2.3	1	2	縄文時代バット、弥生時代前期土坑・遺構	116
242	2015	2	職員宿舎新営	BH16～BH17	2.35	1.0	2	弥生早期～前期水田	124
251	2014	1	津島岡大遺跡南東部における確認調査	BD07	3.0	1.23	1	弥生時代土坑、近代水溝	129
259	2014	1	グッドジョブセンター増築	BD15	2.4	1.46	1	黒色土確認	138

#### <鹿田地区：鹿田遺跡>

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 値	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
141	1984	—	西崎神社惣受水槽予定地	BU30-31	1.4	0.5～0.7	2	中世土層・包含層確認→盛り土保存	
153	1984	—	医療短期大学部校舎予定地	CT-CU25, CZ19-20-23-24	2.7	0.8～1.0	3	→鹿田第3次調査：1986年度	2
6	1985	4	外米法南棟環境整備工事範囲	A133、A140 AJ-AK26	2.2～3.0	0.9～1.4	3	弥生時代～中世の遺物	5
117	1990	3	アイトーナ総合センター予定地	BY-BZ68	2.3	1.2～1.3	1	→鹿田第6次調査：1990年度	18
363	1997	8	基礎工学棟予定地	BT52	2.2	0.9	1	→鹿田第7次調査：1997年度	50
29	1998	11	南棟予定地	CP-CU43-44, CH25-26, CK20-26、CK15	2.0～2.4	1	4	→鹿田第9次調査：1998年度	53
82	2009	2	学生サウナ棟予定地	CR70-71、CW75	2.1～2.3	0.9～0.7	2	弥生時代乳沼地、中世以降耕作地、集落外縁	102
89	2010	4	岡山県地場産物販売センター予定地	AZ04-BA08	2.3～2.4	1.2～0.6	2	古泉溝・弥生包含層確認→鹿田第22次調査 2011年度	105

#### <倉敷地区>

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 値	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
1	1990	4	資源生物学科学研究所遺跡確認	—	2.5	0.7	1	中世後半以降の土塁	18
2	1998	12	バイオ実験棟予定地	—	1.5	0.2	1	近世土坑内、遺構確認	53
3	2013	1	植物ストレス科学研究等拠点施設建設工事	—	2.0	0.7	1	近世耕作土層確認	116

#### <東山地区>

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 値	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
3	2006	1	附属小学校校舎予定地	—	3.0	0.3～0.5	4	近世・古代：溝3基、中世？埋跡	88
4	2008	1	附属中学校校舎予定地	—	2.3～2.4	1	2	近代埋跡	95
5	2013	1	附属小学校内運動場建て替え工事	—	2.1	0.9	1	中世～近世耕作土層確認	116

#### <三朝地区：福呂遺跡>

総合 番号	年度	番号	調査対象地名 値	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
3	1997	5-6	実験研究棟予定地	—	1.66～2.1	0.8	2	→福呂第2次調査：1997年度	50
5	2004	1	三朝自治会集会所予定地	—	1.3	0.5～0.9	2	遺跡・遺物・包含層未確認	
6	2004	2	高圧線・電話線設置予定地	—	1	0.85	1	河床礫、段石埋跡確認	81

#### 付表2-3) 立会調査

#### <津島地区：津島岡大遺跡>

総合 番号	年度	番号	工事名称/欄目	構内座標	掘削深度 (m)	造成土層 (m)	概 要		文献
							TP数	内容・その後の対応	
11	1984	—	南館舎併設処理機関係配水管理設	BI15-17	1.0～2.2	1	溝・土坑、弥生土層・埋蓋部	2	
19	12	2	教養部校舎新営	BE08-09	2.3	1.3	中・近世：溝・土器		
20	1986	21	ハンドボールコート新設	BG08	0.2～2.0	0.8	黒色土	6	
21	26	26	教養部校舎新営に伴う電気配管	BP07-08	1.8	0.9	中世包含層		
32	1988	17	テニスコート敷設開明施設	BG10-11	2.2	1.5	GL-約2mで黒色土、西に向かう溝ら確認	11	
32	1989	3	自然共生研究有機物処理：工事田道路	AZ08	1.4	—	弥生後期水田、古泉溝、75m	14	
38	19	39	生物工学科棟新営に伴う電気管設	AV04-05	1.5～1.9	0.7～1.2	黒色土		
42	16-19	2	職員移設	AV04-10	0.4～3.0	0.6～1.4	5+層、黒色土、赤土南溝		
43	1990	20	岡山古道町津島東線拡幅に伴う補強工事	BC02-04 BD03-04	2.3	1.2	GL-2.3mで黒色土	18	

総合 番号	年度	番号	工事名称/種目	構内座標	掘削深度 (m)	造成上層 (m)	概 要	支線
46		9	防六川水堀去	BC18	2	0.8	基礎層まで掘削、石積	
47	1991	17	津島地区基幹整備機(電気)	BD16	1.7~1.8	0.5	2ヶ所、明治層~浜灰色粘土層	21
19		ハンドホール・アース板	BD15	1.7	1	GL-1.5mで黒色土		
49		アース板	BC-05-BF12	3.5	1	3ヶ所、GL-1.6mで古代層		
52	1992	34	富士山実験施設ハンドホール設置	BD18	1.5	0.75~1.1	掘削後埋層まで、凍土体	25
53		附属図書館2階廊下床整備	AV12	3	1.7	造成土以下は粘土層		
17		附属図書館2階廊下床整備	BB-BK10-J2	1.8	0.6~0.7	黒褐色土12GL-1.15~1.7m		
58		17	保健管理センター新貫	BB11	1.1	0.8	赤土土層、工費変更	
59	23	津島地区基幹整備機共同利用施設排水処理施設	BA07	3.2	-	-	明治~中世層~暗褐色土層、古穴層? 縄文 晩期土層	
60	1993	26		BD-BE13	1.5	1	近代~中世層	30
61		23	津島地区環境整備機	BB-BG12-13	1.8	0.5~1.2	10ヶ所、中世層まで、一部で暗褐色土層	
62		34	信号機設置	BD-BE12-13	1.6	1	中世層まで、一部で暗褐色土層	
63	39-41	野球場バックネット-陸球ネット改修	BB05-07 BC06-41	2.0~3.2	1	GL-1.2~2.0m付近で黒色土、以下黄色砂~ 青灰色粘土		
66	9	陸上競技場照明灯設置	BD-DE-BP04-07	2	0.96	GL-1.92~2.0mで黒色土		
67	1994	13	総合情報処理センター新貫電気工事	AV10, AW10, AU11	2.2	1.5	GL-1.7mで黒色土、近世溝	33
68		20	検印機設置	BD20	2.2	1.5	GL-1.9mで黒色土	
76		4	農・畜学部動物実験棟新貫	BC18	2.2	1.9	黒色土層付近まで	
77	5	農・畜学部動物実験棟新貫	BD16~19	1.3	-	4ヶ所、造成土以下に5層		
78	1996	12	サテライトベンチャービル ネクスラガトリ新貫	AV02, AV03, AV04, AV99, AW02, AW04	10~1.5	0.76~1.1	6ヶ所、明治層~赤土層?	44
79		13	配管設置	AV03~AV05	2	0.95	浪生時代層まで、古墳前期 遺構・遺物	
80		18	環境理工学部総合新貫予定地掘削移設	AW03	2	-	黒色土まで	
81	25	附属図書館南水廊下再構工事	AV13	1.3	1	造成土以下に青灰色・黄褐色・灰褐色粘質土		
82	36	南北道路ガス管設置	BB13~BB13	1.5	-	中世層まで		
83	1997	19	南水廊下ガス管設置	AW11~BA13	1.5	-	中世層まで	50
84		24	福利厚生施設新貫に伴う共同溝新設	BC12	2	0.8	GL-1.65mで黒色土、古代~近世の溝	
94		15	外灯設置	BA09	1.47	1	GL-1.42mで黒色土	
95	22	コラボレーションセンター支障配管布設等	AZ09, BA09	1.4	1	GL-1.4mで黒色土		
96	24	南校内外灯設置	BB12, DC12	1.4	0.95	中世層まで		
97	31	環境理工学部総合新貫に伴うガス管設置	AW03, AX-AV03 -06	1.2~1.4	0.85~0.95	中世層まで(12ヶ所)		
98	34	学生会館改修に伴うトランプ撤去	BC10	2.2	1.45	GL-1.7mまで灰褐色粘土、GL-2.2mまで灰 色粘土		
99	1998	25	NTT電柱移設	BA00	1.5	0.9	造成土以下に褐色粘質土	53
100		41	環境理工学部実験排水管理施設	AX03~AY07	1~2.4	0.6~1.4	10ヶ所、5地点で中世層、2地点で古代層、 1地点で古墳時代層まで	
101		42	馬場移設に伴う樹木移植	AU02	2.2	1.1~1.3	GL-2mで浪生後期層、GL-2.2mで縄文系層 層	
102	44	環境理工学部総合新貫	AV03, AW02	1.97	1.4	古墳時代層まで、後遺器・土器等		
103	48	外灯設置	AW03	1.45	1	中世層まで		
107	8	環境理工学部総合新貫	生活排水設置 ガス管設置	AV03, AW02 AW03	1.97 1.45	1.4	古墳時代層まで、後遺器・土器等	
109	1999	12	コラボレーションセンター新貫・ハンドホール設置	AY03, AZ01-03	1.15~1.35	0.5~1.2	3ヶ所、黒色土(GL-0.85~1m)	56
109		13	環境理工学部総合新貫に伴うスロープ設置	AZ09-09	1.48~2.1	1.03~1.16	2ヶ所、そのうち1ヶ所は古墳時代層まで	
110		42	コラボレーションセンター新貫に伴う排水設置	AW02	3.5	1.2	調査範囲25m、築成土下面まで、近代土層、 古代層、縄文晩期ビット	
116	17	津島地区電柱設置	AZ09	1.0~1.2	0.8~1.0	6ヶ所、1ヶ所で黒色土対応層まで		
117	23	理学部校舎改修	BA12	1.6	1	造成土下に灰色粘質土・褐色粘質粘土層 造成土下に暗青灰色粘質土・褐色粘質土・灰 色粘質土		
118	2000	28	理学部校舎改修	AX10, AY10	0.85~1.60	0.8~1.6	南校ハンドホール: GL-1.6mまで、GL- 1.52mで中世層(均質)面層~北石	61
119		42	精密応用化学科棟廊下ガス改修	AW08, AX08	1.6~2.05	1.45	GL-1.82mで明灰褐色粘土(中世層)	
120		44	文法棟 総合研究棟改設電柱設置	BA16	1.5~1.7	1	GL-1.4mで中世層? 東尾層の富士土層一 部掘削	
122	4	理学部校舎改修: 電気設備	AZ10	1.6	1.0~1.2	中世層		
123	2001	11	本館棟新貫	BB-BK16	1.5~2.1	1.2~1.4	2ヶ所、GL-1.4mで灰色粘土、GL-2.1mまで 砂か?	66
124		27	本館棟新貫	BB-BK13	0.5~1.6	1	2ヶ所、中世層まで	
125		30	観水移設	BB14	1.6	0.65~0.8	GL-1.4mで灰色粘質土層(古代)	
126	31	旧変電室基礎解体	BB14	1.05	0.45~0.75	12ヶ所掘削、中世層まで		
130	29	農学部校舎改修: 電気設備	BE15	1.8	1.5	3ヶ所、古代・古墳層まで		
131	34	農学部校舎改修: 電気設備	BC13~15	1.2~2.5	0.7~1.2	赤褐色土層・砂層多数、近世溝、浪生溝		
132	51	本館棟新設	BB13	1.57	0.8	中世~古代・古墳層		
133	2002	54	本館棟新設	BB13-BD14	0.95~1.9	0.8	2ヶ所で中世層と古穴層まで、GL-1.3mで 黒土	71
134		55	一般教育棟日棟外灯設置工事	BC07-09	1.0~1.26	0.95	4ヶ所、中世層まで	
135		57	創立五十周年記念館新設	BB-BK14~15	1.0~2.3	0.85~1.0	一部黒色土上面まで	
136	1	創立五十周年記念館新設	BB13~15	1.5	0.7~0.8	中世層まで		
137	4	総合研究棟新貫機械設備ガス配管工事	AX06	1.4	0.9	古代層まで		
138	2003	6	旧事務局庁舎改修電気設備工事	BC15	2.43	0.85	GL-1.9mで黒色土、GL-2.1mで縄文系層 層	74
139		7	農学部総合研究棟改修電気設備工事	BB, BC18	1.7	0.7	GL-1.2m前後で黒色土層、GL-1.5~1.6m前 後で縄文文化層系層	

総合番号	年度	番号	工事名称/種目	構内座標	掘削深度 (m)	造成上層 (m)	概 要	支線
140		8	総合研究棟新営その他工事 雨水排水	AX06-BA06	1.7	07-0.8	掘削3.3~3.4mで黒色土、発生~古代、東西多数、近代~近代、東西溝・畦野	
141		14	電気設備工事(外灯)	AW、AX06、07	1.4	-	中継層まで	
142		15	総合研究棟新営その他工事 排水	AW-AX06-07	0.5-2.5	1.6	掘削~黒色土基盤層まで掘削、発生溝	
143		17	旧車庫局舎改修 外排水・雨水処理	BC-BD15	2.75	1.1	掘削~黒色土基盤層	
144		21-1	No.1区画 農学部合併処理槽	BG-BH13	1.8	0.9	掘削~黒色土まで	
145	2003	21-2	No.2区画 体育館東~武道場西	BE-BG10	1.95~2.25	0.8-0.9	掘削~黒色土基盤層、管路で発生・早期まで、発生溝、掘削土坑	74
146		21-4	No.4区画 文芸・種2号館西	AZ16	2.45	1.5	掘削~黒色土まで、発生溝	
147		21-5	No.5区画 理学院	BA10	1.9	0.7	中継層の掘削土田を確認	
148		21-6	No.6区画 農学部4号館東	BG22	1.5-1.9	0.9-1.4	掘削~黒色土まで、発生~古墳初段、ビット、近代~畦野状遺構	
149		21-7	No.7区画 津島館前南	BI16	1.15-1.3	0.8	中継層まで	
150		21-8	No.8区画 南前倉	BI15	2.0-2.45	1.1	掘削~黒色土まで	
151	2004	1	公共下水道接続工事 留学生等宿泊施設	BB-BD06	1.22-1.68	1	中継層まで	81
152		6	津島キャンパス環境整備 留学生センター西	BH9-10	0.5-1.15	0.4-0.6	発生後期(包含層)遺構、遺層 青灰~白灰色の粘質土、黒色土は確認されず	81
153		3	総合研究棟改修 仮設電柱	AV08	1.5	0.9	-	
154		5	アース杭	AW09	1.8	-	掘削~黒色土まで、黒色土	
155	2005	9	キャンパス環境整備(門扉改修等)	BE02、BG07	1.0-1.3	0.7	-1mで中継層、近代畦野	83
156		13	プーム改修(排水管改修)工事	BC-BE03、 BB-BC02	0.75-2.4	0.8-1.3	掘削~黒色土まで、黒色土、発生~古墳・溝多数、近代土坑、近代・大規模・溝	83
157		14	サウナ・風呂建替工事設置工事	BB-BC04	2.0-2.2	-	黒色土層を基盤層まで、古墳時代頃の漢状遺構 ボーヤ2による掘削、一部で黒色土	
158		2	総合研究棟改修工事 耐震工事に伴うPC耐震柱基礎掘削	AX10	1.4-1.6	1.0	中継層まで、近世・南北方向の溝	
159		3	教育学部公共下水道接続工事	AZ-BA02-04	1.3-2.3	0.7-1.0	掘削・深さ2.3m、配管：深さ1.05-1.92m、黒色土層を基盤層まで、東西方向の溝	
160	2006	5	プーム改修配管接続工事	BA-BBE2、BC02	1.7	0.7-0.8	黒色土層を基盤層まで、古墳時代頃の漢状遺構	88
161		11	総合研究棟 耐震工事に伴うPC耐震柱基礎掘削	AX08-09	1.8	-	古墳~発生時代層	
162		13	農学部2号館南電柱移設	BF16	2.0	-	中継層まで	
164		4	公共下水道接続工事(理学院部)	BA12	2.0	0.8-0.9	GL-1.6mで黒色土、発生時代層	
165		8	総合研究棟改修 外灯基礎及び管路	AV-AZ07-08	1.4-1.7	1.2	発生~中継層	
166	2007	10	総合研究棟改修 付随機・配管(東半部)	AW07-08	1.1-1.4	0.9	古墳層、土坑基	92
167		13	インフラリニューアル施設設備配管工事	BA-BC20	1.2-1.4	0.6-0.8	掘削~近代~近代層、中世~近代の遺構	
169		7	理学院ヘリウム導化装置基礎工事 基礎杭設置	AZ09	4	-	黒色土なし、GL-4m以下で確層	
170		21	電気工事:建柱	AY03-AZ03	2	-	3地点掘削、北地点で黒色土無し	
171		22	総合研究棟(教育系)改修 電気工事:埋地埋設	AY04	1.2-1.28	-	古墳層以下:溝~河沼の砂層	
172		26	機械工事:都市ガス	AZ03	1.2	-	GL-0.95mで黒色土	
173		28	KODI無断地盤掘削工事:建柱	BH12	1.8	0.8-1.05	灰褐色の砂質土層まで、黒色土未確認	
174		32	プーム系統水道メーターボックス取設工事	BE04	0.9-1.5	-	中継層(?)まで	
175		33	南前倉電柱設置工事	BI17	2	-	GL-1.2-1.5mで黒色土	
176	2008	40	学生生活圏福利施設新築 ガス管	AX04	0.85-1.21	1	中継層まで	95
177		49	大工生活圏福利施設新築 外灯移設	AX05	1.1-1.2	0.68-0.95	2地点掘削、古代層まで	
178		42	新技術センター公共下水道接続工事	AW00-01	0.85-1.75	0.7	中継~近代埋込4条(南北並列)、黒色土上面まで	
179		43	動物室	AY01	0.85	0.85	黒色土上面で発生~古墳時代の水田畦野	
180		44	教育学部体育館他改修 仮電柱設置	AY03、BA03	1.2-1.7	-	2地点掘削、北:中継層まで、南:東西溝	
181		49	埋地埋設	AY02	0.3-1.7	-	古代層まで	
182		52	大学舎他改修工事:一般教育講義棟ガス設備	BB10-11	0.7-1.2	0.55	GL-1.0m以下で確層、土坑1基、溝?1条	
183		53	工学部国外ガス配管改修工事	AV04-06、AW04	0.8-1.48	0.8-1.1	一部で中継層まで	
187		6	総合教育棟(発達教育)改修工事 高さケーブル	BE-BF04-08	1.3	-	2ヶ所、中継層・古墳層まで	
188		14	環境整備(施設設備室内)新設工事	BE10	0.8-0.95	0.6	保護管理センター北東で発生?遺構埋土	
189		16	工学部2号館(動物飼育室)改修	AY06	0.8-0.9	0.2	一部発生?包含層	
			排水管	AU06-07	0.65-0.9	1.25	北東部で河沼	
		20:1	西門南東	BH12	1.8	-	中世~中継層まで、直前で黒色土	
		22	西門北東	BA12	2.0	-	掘削層まで、黒色土確認	
		23	南北道路信号機付け替え	BA13	2.05	-	掘削層まで、黒色土確認	
		24	季節局前北東	BH12	1.95	-	掘削層まで	
		25	ガス管	AY-AZ02-03	0.8	-	発生層確認	
	2009		電気設備:アース埋設		1.65	-	掘削層まで、黒色土~中世以前の遺構	102
		27	電気設備:配管	AY01-AZ03	0.8	0.4	発生(包含層)遺構	
			電気設備:外灯		0.8-1.3	-	黒色土まで	
		29	総合研究棟Ⅱ期(教育系)改修 雨水排水	AY02-03	1.15	1	黒色土~発生後期	
		30	雨水排水:管路	AZ00-02	0.8-0.9	0.7	包含層~畦野~小溝	
			雨水排水:側		1.12-1.17	-	掘削層まで、北:黒色土、南:黒色土無し	
			電気設備:アース埋設		1.7	-	掘削層まで	
		32	電気設備:配管	AZ00-AY-AZ01	0.8-0.9	0.6	包含層・土層埋込小片	
			電気設備:外灯		1.3	-	既設土内	
192		42	支援経ゲイラー用接続変換工事	AX16	2.5	1.5	掘削層まで、発生中~後期埋込1条	

総合 番号	年度	番号	工事名称/科目	構内座標	掘削深度 (m)	造成上層 (m)	概要	支線
193		48	総合研究棟(薬学系)改修	電気設備 配管 電気設備:アース板	BB16-BC17	1.45 150-154	105	近世層,近代溝 [包含層(中世?)]
194	2009	54	環境理工学部公共下水道接続工事		AU03	2.3	09	赤土-古墳層まで,近代東西横断1条
195		55	薬学部西水道管位置確認工事		BC18	2.7	055	岡山県教育委員会対応:縄文層まで,黒色土
200		8	外灯整備工事	教育学部 創立五十周年記念館	A206	1.1	07	黒色土
201		17	外灯整備工事		BB14-15	1.1-1.6	115	近世層,近代石積水路
202		23	総合研究棟(薬学系)に伴う支障管移設	生活排水-実験排水	BB-BC17	0.87-1.4	08	古代層
203		26	ネオニコチン系殺虫剤散布工事		BG11	1.9	-	既設内,線路地<岡山西寄り>
204	2010	34	薬学部本館改修工事	電気設備:管路 電気設備:ハンドホール 外灯設置:管路 外灯設置:基礎	BC-BD18	0.7-1.28 2	11	中世層 縄文時代層,近世-近代:聖域境
205		35			BB17	0.63-0.74 1.08-1.34	085	近代-近代溝
206		36	農学部水道管復旧工事(緊急対応)		BF15	1.1	-	既設内
207		37	国際交流会館	排水管掘削工事	AU-AV13-14	2.2-2.5	-	4ヶ所,中世土面から0.55m掘削,赤土後期
209		1	文法館フェンス工事		AW17, AX17, AY17, AZ17	1.1-2.0	10-1.6	近代の土壌,水路
210	2011	8	津島線配水管布設工事		BA10	1.3	06	中世層まで,近世-近代溝確認
211		9			BA08	1.5	06	中世層まで,近代明り,溝
212		12	教育学部講義棟トイレ改修工事<屋外排水>		AZ04	0.9-1.5	055	古代,近世まで,近代遺構
214	2012	9	美しい字都整備	陸球ネットボール	BB06-07	3.0	1.0	赤塚層まで
215		11	農学部周辺排水管整備	網・管路	BE-BF13	1.6	1.0-1.3	赤塚層まで
218		5c		設置路線③		0.9	-	近代の南落ち溝
219		5d		設置路線④	AV05	0.75	-	近代の東西方向石積溝
220		6a		接地銅板①		1.65	085	縄文層確認
221		6b		接地銅板②				
222		8		電気設備:管路	AW05	0.8	-	近代の東西方向石積溝
223		16	NTT電柱引き込み	電柱	BB15	1.6	-	旧陸軍東方向水路
224		19a		種別ビッド②	BC10	1.05-1.1	05	中世層,近世南北方向溝
225		21a		東西道路南側外灯①	BB08	1.0	055	赤土層確認
226		21b		東西道路南側外灯②	BB09	1.1	-	旧陸軍東方向水路
227		21c		東西道路南側外灯③	BB09	1.3	-	
228		21d		東西道路南側外灯④	BB11	1.4	0.3	溝層確認
229		21e		東西道路南側外灯⑤		1.5	095	中世層,近世東西方向溝
230		21f		東西道路南側外灯⑥	BB12	1.4	085	中世層,近世東西方向溝
231		21g		東西道路南側外灯⑦		1.1	07	中世層,近世東西方向溝
232	2013	25a		集水溝①	BB10	1.4	06	溝層確認
233		25b		集水溝②	BB11	1.4	0.9	中世層,近世東西方向溝
234		25b	大学会館周辺地環境整備	東西道路南側排水棟穴②-③	BB10-11	0.6-0.7	-	旧陸軍東方向水路
235		24		自由勾配掘削①	BB09-12	0.8	06	近世層,近世南北方向の段・溝,近代南北方向溝
236		25		重圧管路	BB10-11	1.0-1.1	-	旧陸軍東方向水路
237		26a		ガス管路1-①	BB10	1.0	-	旧陸軍東方向水路2条
238		26b		ガス管路1-②	BB10	1.2	055	埋管,近世土層,近代南北方向溝
239		28a		さくら広場外灯①	BB10	1.4	05	赤土前期層確認
240		28b		さくら広場外灯②	BC10	1.1	0.45-0.55	古墳時代前期層,古墳時代後期土坑(礎土),近世土層
241		30		ガス管②	BB10-BC10	0.75-1.4	085	近世層,近世土層,近世-近代東西方向溝
242		31		パンプハウス電気設備	BC11	1.5	0.75	埋管,赤土時代ビッド,戦国時代南北方向溝
243		35a	ガス漏れ修理		AZ03	1.1	05	赤土時代前期黒色土確認
244	2014	8	Jテラス新設	排水管	BG-BH13	0.7	-	旧陸軍南北方向水路
245		12	津島明治舎	電柱新設工事	BB16	2.7	-	十ヶ敷側,GL-1.6-1.8mで黒色土
248		9			BB16	0.8-1.9	1.0	陸軍水路施設GL-0.4m
249		13	職員宿舍新築		BB16	0.9-1.45	0.65-0.85	南瀬GL-1.3mで赤土後期層確認
250	2015	16			BD6-17	2.5	0.9-1.2	十ヶ敷側,GL-1.6mで黒色土,~1.8mで赤塚層確認
252		7	職員宿舍電柱立替		BB14	2.5	0.8	十ヶ敷側,GL-1.6-1.8mで黒色土
253		13		導水ブロック積		1.1	06	黒色土まで確認
254		14		新設柱①		1.5	1	黒色土まで確認
250	2016	15	講義棟改修(教育学系)	新設柱②	AZ-BA04-06	1.4	0.65-0.9	黒色土まで確認
256		16		外灯基礎①		1.4	0.78	黒色土,中世溝確認
257		17		外灯基礎②		1.4	0.7	黒色土,中世溝確認
258		18		外灯基礎③		1.4	0.8	黒色土まで確認
260	2018	6	理学部2号館電気設備掘削工事		AY09	0.75-1.7	1.2	中世層
261		21	野球部バックネット改修ほか	野球部バックネットポール基礎	BB05-06	3.0	0.9-1.0	敷層2ヶ所は青灰色粘土,西側2ヶ所は~2.4m付近に黒色土,以下灰黄色色砂質土-青灰色粘土

総合 番号	年度	番号	工事名称/種目	構内座標	掘削深度 (m)	造成上厚 (m)	概要	文獻	
262	2018	22	基幹・環境整備（プロテック 履封壁）造	津島倉倉南	BJ16・17	0.7	0.7	土層調査実施	138
264	6		野球場バックネット	丸岸ネット改修	BH06	2.05	0.92	GL-2mで棕色土確認	
265	2019	10	中庭カーブス埋設工事	AC04	1.45	0.9	中世～古代層確認【岡山県立会】	141	

＜鹿田地区：鹿田遺跡＞

総合 番号	年度	番号	工事名称/種目	構内座標	掘削深度 (m)	造成上厚 (m)	概要	文獻	
3	1963	—	外来診療棟電気配管埋設	AO-AW22	1.3	—	浪生前期 土器・分銅粘土製品、貝類類	1	
7	6		外来診療棟関係屋外排水管理埋設	AW-BH23, BH-BI24	1.3～1.7	0.7～1.3	浪生・中世：遺構・遺物	5	
8	12		基幹環境整備緑化工事：電気配線ハンドホール開削	AG31, AG24, AF23	1.2～1.7	0.9～1.3	3ヶ所、中世包含層・ピット		
9	9		記念館東側内水管理改修工事	BH-BN4	0.8～1.3	0.8	中世包含層、土器		
11	1986	24	溝岸及び開削工事	CL-CR12, CK-CX13, CX-DA14	2	0.8～1.0	中世包含層	6	
14	1967	8	管理棟新設に伴う基礎杭確認	BC37	2.5	—	浪生時代 包含層・遺構	8	
15	1989	46	田管理棟跡地環境整備：外灯基礎	CE30-37-44, CJ-CK45, CL28-29	1.2～1.5	0.7～1.0	2ヶ所、中世層	14	
18	1992	29	アゾトープセンター1階跡地・電気井	BW71	1.4～1.5	0.9	中世遺構	25	
19	41		テニスコート基礎埋設	CF73	1.2	1	古代土層1点		
20	1994	5	溝岸改修工事	DH60-62	1.5	0.8	浪生層以下は遺構埋土上、溝3条・ピット9基	33	
21	11		附属病院連絡通路新設	BG-BI18	1.5	1	造成土以下に茶褐色土・青色粘質土層、 遺物なし		
22	14		鹿田地区基幹整備	液漏タンク設置	CD07-08	2.3	1	中世2層、溝3条、溝内から古代・中世土器 部	
23	17		液漏タンクリノ溝埋設	CD08-CC11	1.23	0.85	包含層、中世土器、溝及び区画全体の1/2 程度確認	38	
24	23		陸橋ネット設置工事	DF56-67	3	0.8	径60cmを12ヶ所、内4ヶ所で土器片・石器、 調査区西寄り・GL-2m以下は田河道か		
30	1998	36	検査新設に伴う仮設電気工事	BV73, CN28	1.2	1	中世層まで	53	
33	15		研究棟新設	BV65-71	1.2～1.4	0.9	中世層まで		
34	18		給排水網・管路 橋水網	BE65	2.2	1.1	面積82㎡、宮遺構、中世：溝・ピット		
35	27		基幹整備（電気設備）：地中配管	BV42-43, BH43-44	1.25～1.45	0.45～0.5	2ヶ所、中世層まで、時期不明遺構		
36	1999	41	機械新設	CF21-28, CF-CL28, CD-CF28-33	1.7	—	面積18㎡、鹿田11次調査南側で中世ピット	56	
37	46		汚水網・管路	CN46-DE49	2.3	1.2	古墳時代：溝1基・土坑1基、中世遺構等		
38	47		グラウンドゴルフネットゴール	CM-CN-CP-CR- CT58, CV-DA- DC-DD-DF59	2.0～2.3	—	11ヶ所、南側6ヶ所：河道、7～10ヶ所：段 高地、最北端：河道		
39	48		機械新設	汚水排水網	HT51	2	1	古墳時代層まで	
41	25		機械新設	管路・雨水網	CD41-CN45	1.6～1.8	—	溝か？	
42	26		電柱及び外灯の埋設工事	CN15-21-27, CO31-42, CS45, DV45	1.6	—	7ヶ所、灰白色土層・淡褐色砂質土層・暗褐色 粘質土層、段高地部か		
43	29		医学部ガス配管切り離し用バルブ取付工事	DE27	0.8～1.15	0.7	GL-0.85mで黄褐色粘質土	61	
44	47		豊田宮地内側用水路経管埋設改修	DG-DI28-67	2.1～2.3	1.5～1.5	幅120mの埋面調査、古代の遺構・河道		
45	2001	37	総合教育研究棟新設に伴う機械設置工事	BR-CA43, CA43-55, CA44-CA45, BR-CA55	1.65	0.7～0.9	中世層まで、中世土器多数出土地点あり	66	
47	19		鹿田遺地ガス配管埋設工事	CH11-CN22	1.0～1.3	0.87	中世層まで		
48	10			BT-BU11	0.5～1.8	—	2ヶ所、GL-1.22mで古代or中世層		
49	22		共同溝排水	CQ41-42	1.5	—	1ヶ所、包含層まで		
50	25		エネルギーセンター機新設	外灯	CG41, CO44, CF43, CO38	1.47～1.66	—	4ヶ所、中世層まで	
51	27		排灌	CV36-45	0.9～1.9	0.9	中世：井戸・柱穴・溝	71	
52	36		総合教育研究棟新設その他工事	BI-BIS45-53	1.85～2.0	0.8～1.0	5ヶ所、中世層まで		
53	52		本部棟新設その他工事：壁取替	DC67	1.25	—	中世層		
54	54		旧長合橋機アーストラップ改修	BC18	1.68	—	断面で浪生～古墳層、土器		
55	5		屋外排水	BS-BI45, CA-CO46, CO45	1.7	0.7～1.0	浪生中期?包含層まで、近世土層、中世ピット 多数、段地部確認		
56	2003	9	総合教育研究棟	外構工事（雨水・汚水・実験排水）	BL-BIS45-53	0.8～1.75	0.7～0.9	浪生中期?包含層まで、古墳時代溝、中 世井戸、近世土器等	74
57	10		給水配管埋設	BR-BE50-54	1.33	0.8	一部で中世層まで		
58	13		外構工事（外灯）	BRE3, BL54	1.4	0.8	中世層まで		
60	3		医病棟内支障ガス配管改修工事	AF16, AF-AJ17, AJ18-19	1.0～1.9	0.7～0.8	埋設部：近世～古代水田層、中世前期、浪生 ～古墳河道（砂層）		
61	2004	5	医病棟内支障給水配管改修工事	AE4-16, AF-AH16, AB9-15, AJ-AO9	0.9～1.9	0.85	例：中世?～近代前期、浪生～古墳河道 （砂層）	81	

総合 番号	年度	番号	工事名称/額目	構内座標	掘削深度 (m)	造成上厚 (m)	概 要	文種
62	2005	3	医学部変電所ビートル周辺高圧ケーブル設置工事	D8-DJ18, DJ19	1.1-2.5	0.7-1.1	一部で養生一代替	83
63	2006	6	エネルギーセンター種管に付う工事	CF-CU45	2.5	0.9	掘削単位変換地点と重複	88
67		4	基幹院整備(道路等)工事	CU3-30, CU13-20	1.2-2.2	0.9-1.2	基幹院まで、中世・東西・南北溝	
68		5	中津橋屋上防水改修その他工事	AO3-07, AV-AO7, AY-BB09	0.6-0.9 1.4, 1.8	0.7	古墳時代南北溝、中世東西溝	
69		7	中央診療棟新営:ガス管切断工事	BT11	1.28	0.5	中世溝	
70		20	基幹整備(電気設備)工事	CO42, CV36	1.3-1.65	1.3	中世溝まで、遺構	
71	2007	11	環境整備(道路等)工事	CG08, CF09-20, CG-CH1, CH11	0.85-1.3	0.9	中世:丹戸(古堀)・ビートル溝	92
72		17	環境整備(道路等)工事	CL12, CM13, CN14-15	1.0-1.2	0.4	中世溝、中世遺構	
73		27	総合研究棟(医学系)新営その他工事	BT-BU65	1.35	1	中世溝	
74		28	用水路改修工事	CJ7-CP12	1.7-2.0	0.6-0.8	包含層及び坪田東側に高低地	
75		30	高エネルギー治療室改修工事	BE23	1.4	0.6-0.7	中世~近代:朝鮮溝、養生後期土層	
77		5	基幹整備(西病棟とりこわし)工	BT24-25	0.98-1.4	0.7	養生基盤層まで	
78		6	し機)工事	BQ24, BR24	0.75	0.5	原土性車輪層	
79	2008	7	基礎医学棟一部とりこわしに伴う支脚ガス配管移設工事	AO63-54, AL54-AO54, AL54-61, AL62-AJ63	0.76-1.0	0.5	近世溝まで、土坑2基	95
83	2009	3	豊田道路第3次A箇所外搬打ち	CH30, CH40	0.8-0.9	0.7	中世溝まで	102
90		6	高精度放射線治療室外排水管工事	BR22-35, BI-BL35	0.75-0.9	0.6	中~近世の遺構?	
91	2010	7	中央診療棟新営:アース施設工事	BR14-16-19-22	0.9-1.8	1.1	包含層	105
92		17	外行整備工事:研究棟南駐車場	BY46-50	1.2	1.2	遺構埋土?	
93		22	保安改修工事	CV-CY28-29	1.6	1.15	養生基盤層まで	
95	2011	4	立休駐車場新営<配管>	CN45-49, CO-DF49, CW-DD44, DD45, DD-DF46, DF-DG47-49	0.7-2.38	0.55-1.0	養生時代土坑、古代土坑、中世溝、近世土坑・溝・朝鮮	107
98		8	グラウンド防汚ネット設置	CL-DF57	2.0	1.0	オゾ層面	
99	2012	9	医薬薬業合型教育研究拠点施設新営	BL-BM06	2.0	1.2	中世溝・土坑?、養生基盤層まで	111
100		13	講義実習棟改修	BU-BV66	1.6	1.1	中世以前(灰土層彩色質土)まで	
102		3	浄化槽撤去	BM57-58	3.6	1.1	養生基盤層以下まで	
103		4	共同溝撤去	BE65	2.3	1.1	養生基盤層まで	
104		5	ボイラー撤去	BH-BH66-68	3.9	1.1	養生基盤層以下まで	
105		6	薬用タンク撤去	BC67-68	3.5	1.1	養生基盤層以下まで	
106		7	煙突撤去	BJ-BH69	4.9	1.1	養生基盤層以下まで	
107		8	工事用電気引き込み	AV68	2.0	1.0	中世(?) 遺構	
108		9a	排水配管(A工区)	AD-AH66-67	2.45-2.68	1.2-1.65	古代河沼、中世~近代層、近世溝	
109		9b	排水配管(B工区)	AI-AK67	2.45-2.45	1.6-1.65	古代河沼、中世~近代層	
110		9c	排水配管(C工区)	AJ66-AJ67-68- AL-AJ67-68	1.8-2.66	1.35-1.7	古代河沼、中世~近代層	
111		9d	排水配管(D工区)	AO-AT68	1.7-2.05	1.2-1.35	養生時代前期包含層、養生~古代砂層、古代河沼、中世~近代層	
112		9e	排水配管(E工区)	AS-AW68	1.45-1.9	0.7-0.75	養生層、養生ピット、養生土層片出土、養生~古代砂層、近代層	
113	2013	9f	排水配管(F工区)	AU-AX-AZ68, AX-AZ-HH69	1.33-1.84	0.7-0.75	養生層、養生~古代砂層、中世~近代層	116
114		9g	排水配管(G工区)	BA36-70, BH61-63-64, BE60-63	0.88-1.5	0.89-1.15	中世~近代層、近世土坑	
115		11	給水管	AL53	1.5	0.8	中世?~近代層確認	
116		12	Jホール新営	AL53-62, AK-AP62-67	0.65-1.85	1.3	中世~近代層確認	
117		19	臨床研究棟改修	BI-BK43	1.64-1.73	0.6-0.71	古墳?・中世・近世層確認	
118		26a	排水配管(A工区)	AD40	2.0	1.3	中世溝、近世土坑	
119		26b	排水配管(B工区)	AD-AE39-40	1.25	1.5	中世~近代層、河沼	
120		26c	排水配管(C工区)	AF40-42	1.52-1.63	1.06-1.12	中世~近代層確認	
121		30	給水・雨水管	AU-AW40-42	1.4	0.8	中世?~近代層確認	
122		32a	中診2期実施調査に伴う支脚物撤去	BZ-CC42, BX-BY43	1.1-1.45	0.85-1.0	中世~近代層、近世土坑・朝鮮	
123		32b	排水配管(C工区)	BT35	2.3	1.1	中世~近代層、中世溝	
126		1	給物実験施設改修	CU58	1.4	0.9	中世溝、近世近代層	
127		11	給物実験施設改修	CJ58	1.8	1.1	養生~近代層まで範囲、中世土坑	
128	2014	15	医薬薬業合型教育研究拠点施設新営	BD69	1.6	0.7	中世~近世近代層	121
129		19	グラウンド復旧工事	CL70	1.3	0.8	オゾ層面、1ヶ所で具層確認(GL-約1.6m)	
130		24	グラウンド復旧工事	BP-DP68	2.1	1.1-1.2	中世溝、養生後期の包含層確認	
131	2015	11	旧混合病棟とりこわし工	BA21	1.3	0.75	中世溝、養生後期の包含層確認	124
132		13	外灯3	BF11	1.3	0.8-1.05	中世丹戸2基・溝1基確認	



総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文獻	
133	2015	14	旧農合病棟とこわし撤去	外灯4	AY-AZ08	1.3	0.5~0.6	中世ビッド12番・溝2条確認。衛生後期包含確認。	124
131		15	バラカ-1	BG10	0.9	0.75	近世溝または河湾跡部		
132		16	バラカ-2	BG09	0.9	0.65	近世土坑1基・溝1条確認		
136		17	バラカ-3	BG09	0.9	0.7	近世溝または河湾跡部		
137		20	臨床検査棟改修工事	給排水	BV40-BW41	1.0	0.6	中世層部	
138	2016	2	中央診療棟新営	管線	CA44	1.15	1.05	中世層部	128
139		7	管線1	AD63-65	2.3	1.6	古代河湾埋積砂まで確認		
140		8	旧生化学棟改修工事	管線2	AF62-66, AD, AR66	1.7~2.3	1.5~1.7	古代河湾埋積砂まで確認	
141		9	管線3	AR6-67	1.95	1.6	中世層まで確認		
143		2017	4	自家発電	ガス配管	CM43-CO46	1.2	1.0~1.1	
145	2018	2	防犯ネット移設	CL-DFS7	2.0	0.9	目録記載の地点1ヶ所あり	138	

<東山地区>

総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文獻
1	1983	29	附属中学校新営	-	4.0~5.0	-	シメント層中	1
2	1997	29	附属小・中学校校舎間壁改修工事	-	1.2	0.79	GL-1.1mで近世水田層、溝1条	50

<三朝地区：福島溝跡>

総合番号	年度	番号	工事名称/細目	構内座標	掘削深度(m)	造成土厚(m)	概要	文獻
4	1997	18	実験研究棟新営に伴う電気配管改修工事	-	1	-	GL-1.0mで中世包含層は東に向かい上昇	50

付表3 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要 (2021年3月現在)

種別	遺跡名(地区名)	調査名: 工事名	数 (1期: 約30リットル)						特殊遺物ほか	文獻			
			総数	土器	石器	木器*	種子*	その他**					
発掘	風田	第1次調査: 外東診療棟	5465	503	6	30	0.5	1	36	丹波り土器部、白磁、瓦器、木製短甲、人面埴轮土器、ガラス片、陶片等	7		
		第2次調査: NMR-CT室	1064	96	0.4	4.5	0.5	1	4	瓦器	10		
		第3次調査: 医師校舎	586	36	0.3	1.8	0.3	4	石器				
		第4次調査: 医師配管	4	2	0.3	0.5	0.2		1	古代土器、甕形製品	24		
		第5次調査: 管理棟	1012	88	2.5	6	1.5	0.2	3	木器、炭化種子、牛歯骨、焼き印付き片等			
		第6次調査: 旧総合センター	62	59	0.5	1	1.5			青銅製機	40		
		第7次調査: 基礎医学科	77.5	73	1	1.3	0.2	1	1	磁石製製品	83		
		第8次調査: 旧治療棟	10	10						鎌形焼機、瓦器機、鎌形焼機			
		第9次調査: 時機	120.1	96	0.1	13			9	2	木器3点	56	
		第10次調査: 共同廊	2	2							古代土器、枕	108	
		第11次調査: 病棟	74	66	4				2	2	木器1点	56	
		第12次調査: エネルギーセンター	147	77	1	54				15	近世漆塗り機、磁、風車器器	61	
		第13次調査: 総合教育研究棟	209	229	24	10				6	磁物	98	
		第14次調査: 病棟	662	35	1	2	0.2	1	7	7	木器、瓦器機	112	
		第15次調査: 総合教育研究棟	4	3						1	-	98	
		第16次調査: 2号駐車庫	1	1							-	87	
		第17次調査: 総合研究棟	1112	68	4	8	0.2	1	30		-	87	
		第18次調査: 中央診療棟(本体)	115.5	116	19	18	0.5	2			-	92	
		第18次調査: 中央診療棟(その他)	4	2							2	磁石製製品、近世遺留木材	108
		第19次調査: 産学連携1階	185	143	1	4				35	磁器、陶器機、貝	95	
		第20次調査: [A-3]地点: 中央診療棟	296	148	68	62			6	12	-	102	
		第20次調査: [C-D]地点: 中央診療棟	86.1	55	16	7	1	0.1	7		-	105	
		第21次調査: 産学連携	101	4	1	3	0.1	0.2			2	磁物形木製品	105
		第22次調査: 地域医療人育成センター	175	146	3	25			1		-	107	
		第22次調査: Jホール	33	30	1					3	-	111	
		第24次調査: 医薬薬合棟	105	52	4	21				27	絵馬(猿蓑吹、牛)	111	
		第25次調査: 中央診療棟2期	85	52	3	4			5	21	烏帽子	121	
		第26次調査: 動物舎	75	34	4	7	2	28			-	121	
		第27次調査: 自家発電設備	2	2							-	134	
		第28次調査: アミニティモール新営	122	81	3	37			1		-	138	
		第1次調査: NP-1	5	0.5	0.5	4					-	3	
		第2次調査: 農学部合棟埋積機	15.5	12	1.5	4				2	炭素土器部、近世瓦土器	4	
第3次調査: 男子学生寮	59	48	15	2	4.5			3	縄文後期土器、弥生土器、石製臼輪、乾澁状土器片、鎌状石器、磁器類、種子	19			
第4次調査: 屋内運動場	1	1							-	6			
第5次調査: 大学院自然科學研究科棟	85	71	3	1	8			2	縄文後期: 土器、耳輪、輪、硬果類、種子	27			



種類	遺跡名 (地区名)	調査名：工事名	箱 数（1箱：約30リットル）							特徴遺物ほか	文献
			総数	土器	石器	木器*	種子*	その他	ヤブタ*		
立 会	2003年度		3	2						-	74
	2004年度		1	1						-	81
	2005年度		1.1	0.1					1	-	83
	2006年度		1.1	0.1					1	-	87
	2007年度		0.5	0.5						-	92
	2008年度		1	1						-	95
	2009年度		0.2	0.2						-	102
	2010年度		4.2	0.2			4			-	105
	2011年度		3	3						-	107
	2012年度		0.5	0.5						-	111
	2013年度		1.5	1.5						-	116
	2014年度		0.6	0.1					0.5	-	121
	2015年度		0.5	0.5						-	124
	2016年度		0.1	0.1						-	129
2017年度		0.1	0.1						-	134	
分布調査	1989年度 三朝・本島		0.3	0.3						-	14
合 計			3073.6	2075.4	218.4	487.5	32.5	35.4	223.4		

\*：木器・種子・ヤブタは整理の進捗状況により容量および保管形態が変化するため、表中の数値は当該年度末の収量量を示す。

付表4 埋蔵文化財調査室刊行物

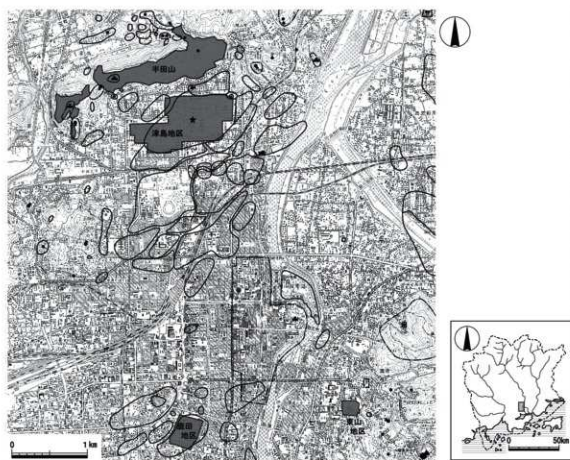
番号	名	発行年月日
1	岡山大学構内遺跡調査研究年報1 1983年度	1985年2月
2	岡山大学構内遺跡調査研究年報2 1984年度	1985年3月
3	岡山大学津島地区小橋法目黒遺跡(AW14区)の発掘調査 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第1集	1985年5月
4	岡山大学津島地区構内遺跡発掘調査報告Ⅱ(農学部構内BH13区他) 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第2冊	1986年3月
5	岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度	1987年3月
6	岡山大学構内遺跡調査研究年報4 1986年度	1987年10月

付表5 埋蔵文化財調査研究センター刊行物(2021年3月まで)

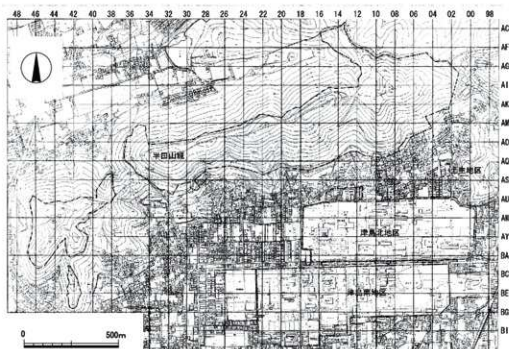
番号	名	発行年月日
7	鹿田遺跡Ⅰ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊(鹿田遺跡第1次・2次調査)	1988年3月
8	岡山大学構内遺跡調査研究年報5 1987年度	1988年10月
9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第1号	1988年10月
10	鹿田遺跡Ⅱ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第4冊(鹿田遺跡第3次・4次調査)	1990年3月
11	岡山大学構内遺跡調査研究年報6 1988年度	1989年10月
12	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第2号	1989年8月
13	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第3号	1990年2月
14	岡山大学構内遺跡調査研究年報7 1989年度	1990年11月
15	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第4号	1990年7月
16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第5号	1991年3月
17	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第6号	1991年8月
18	岡山大学構内遺跡調査研究年報8 1990年度	1991年12月
19	津島岡大遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊(津島岡大遺跡第3次調査)	1992年3月
20	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第7号	1992年3月
21	岡山大学構内遺跡調査研究年報9 1991年度	1992年12月
22	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第8号	1992年8月
23	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第9号	1993年3月
24	鹿田遺跡3 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第6冊(鹿田遺跡第5次調査)	1993年3月
25	岡山大学構内遺跡調査研究年報10 1992年度	1993年12月
26	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第10号	1993年11月
27	津島岡大遺跡4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第7冊(津島岡大遺跡第5次調査)	1994年3月
28	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第11号	1994年3月
29	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第12号	1994年10月
30	岡山大学構内遺跡調査研究年報11 1993年度	1995年2月
31	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第13号	1995年3月
32	津島岡大遺跡5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第8冊(津島岡大遺跡第8次調査)	1995年3月
33	岡山大学構内遺跡調査研究年報12 1994年度	1995年12月
34	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第14号	1995年10月

番号	名 称	発行年月日
35	津島岡大遺跡6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊 (津島岡大遺跡第6次・7次調査)	1995年12月
36	津島岡大遺跡7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第10冊 (津島岡大遺跡第11次調査)	1996年2月
37	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第15号	1996年3月
38	岡山大学構内遺跡調査研究年報13 1995年度	1996年10月
39	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第16号	1996年10月
40	鹿田遺跡4 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第11冊 (鹿田遺跡第6次調査)	1997年3月
41	津島岡大遺跡8 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第12冊 (津島岡大遺跡第13次調査)	1997年3月
42	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第17号	1997年3月
43	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第18号	1997年9月
44	岡山大学構内遺跡調査研究年報14 1996年度	1997年11月
45	今、よみがえる古代 岡山大学理蔵文化財調査研究センターの10年	1997年11月
46	津島岡大遺跡9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第13冊 (津島岡大遺跡第14次調査)	1997年12月
47	津島岡大遺跡10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊 (津島岡大遺跡第9次調査)	1998年3月
48	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第19号	1998年3月
49	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第20号	1998年10月
50	岡山大学構内遺跡調査研究年報15 1997年度	1999年1月
51	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第21号	1999年3月
52	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第22号	1999年9月
53	岡山大学構内遺跡調査研究年報16 1998年度	2000年1月
54	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第23号	2000年3月
55	福呂遺跡I 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第15冊 (福呂遺跡第1次・2次調査)	2000年3月
56	岡山大学構内遺跡調査研究年報17 1999年度	2000年8月
57	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第24号	2000年9月
58	岡山大学理蔵文化財調査研究センター自己評価・外部評価報告書	2000年12月
59	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第25号	2001年3月
60	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第26号	2001年8月
61	岡山大学構内遺跡調査研究年報18 2000年度	2001年10月
62	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第27号	2002年3月
63	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第28号	2002年9月
64	津島岡大遺跡11 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第16冊 (津島岡大遺跡第10次・12次調査)	2003年3月
65	津島岡大遺跡12 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第17冊 (津島岡大遺跡第19次・21次調査)	2003年3月
66	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2001	2003年3月
67	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第29号	2003年3月
68	津島岡大遺跡13 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第18冊 (津島岡大遺跡第27次調査)	2003年5月
69	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第30号	2003年8月
70	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第31号	2004年2月
71	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2002	2004年3月
72	津島岡大遺跡14 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第19冊 (津島岡大遺跡第15次調査)	2004年3月
73	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第32号	2004年9月
74	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2003	2004年12月
75	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第33号	2005年3月
76	津島岡大遺跡15 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第20冊 (津島岡大遺跡第26次調査)	2005年3月
77	津島岡大遺跡16 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第21冊 (津島岡大遺跡第17次・22次調査)	2005年3月
78	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第34号	2005年10月
79	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第35号	2006年3月
80	津島岡大遺跡17 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第22冊 (津島岡大遺跡第23次・24次調査)	2006年3月
81	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2004	2006年3月
82	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第36号	2006年10月
83	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2005	2007年3月
84	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第37号	2007年3月
85	鹿田遺跡5 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第23冊 (鹿田遺跡第7次・8次調査)	2007年3月
86	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第38号	2007年10月
87	津島岡大遺跡18 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第24冊 (津島岡大遺跡第28次調査)	2008年3月
88	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2006	2008年3月
89	岡山大学理蔵文化財調査研究センターの20年 -自然と人間、地中に埋もれた命の対話-	2008年3月

番号	名 称	発行年月日
90	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第39号	2008年3月
91	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第40号	2008年9月
92	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2007	2008年12月
93	津島岡大遺跡19 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第25冊 (津島岡大遺跡30次調査)	2009年3月
94	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第41号	2009年3月
95	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2008	2010年2月
96	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第42号	2010年2月
97	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第43号	2010年3月
98	鹿田遺跡6 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第26冊 (鹿田遺跡第13次・15次調査)	2010年8月
99	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第44号	2010年12月
100	津島岡大遺跡20 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第27冊 (津島岡大遺跡第32次調査)	2011年3月
101	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第45号	2011年3月
102	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2009	2011年3月
103	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第46号	2011年11月
104	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第47号	2012年3月
105	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2010	2012年3月
106	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第48号	2012年9月
107	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2011	2013年1月
108	鹿田遺跡7 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第28冊 (鹿田遺跡第10次、18次調査B・C地点)	2013年3月
109	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第49号	2013年3月
110	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第50号	2013年10月
111	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2012	2013年12月
112	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第51号	2013年12月
113	鹿田遺跡8 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第29冊 (鹿田遺跡第14次調査)	2014年3月
114	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第52号	2014年12月
115	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第53号	2015年3月
116	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2013	2015年3月
117	津島岡大遺跡21 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第30冊 (津島岡大遺跡第33次調査)	2015年3月
118	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第54号	2015年10月
119	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第55号	2016年2月
120	鹿田遺跡9 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第31冊 (鹿田遺跡第23次調査)	2016年2月
121	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2014	2016年3月
122	吉備の弥生時代	2016年3月
123	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第56号	2016年12月
124	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2015	2017年3月
125	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第57号	2017年3月
126	鹿田遺跡10 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第32冊 (鹿田遺跡第9・11次調査)	2017年3月
127	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第58号	2017年10月
128	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第59号	2018年1月
129	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2016	2018年2月
130	鹿田遺跡11 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第33冊 (鹿田遺跡第24次調査)	2018年3月
131	鹿田遺跡12 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第34冊 (鹿田遺跡第20A・25次調査)	2018年3月
132	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第60号	2018年8月
133	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第61号	2019年3月
134	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2017	2019年3月
135	鹿田遺跡13 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第35冊 (鹿田遺跡第26次調査)	2019年3月
136	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第62号	2019年12月
137	鹿田遺跡14 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第36冊 (鹿田遺跡第17次調査)	2020年3月
138	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2018	2020年3月
139	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第63号	2020年3月
140	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第64号	2020年11月
141	岡山大学理蔵文化財調査研究センター紀要 2019	2021年3月
142	岡山大学理蔵文化財調査研究センター報 第65号	2021年3月
143	鹿田遺跡15 岡山大学構内遺跡発掘調査報告第37冊 (鹿田遺跡第12・27次調査)	2021年3月



付図1 岡山大学の位置と周辺の遺跡分布 (縮尺1/50,000・1/3,750,000)

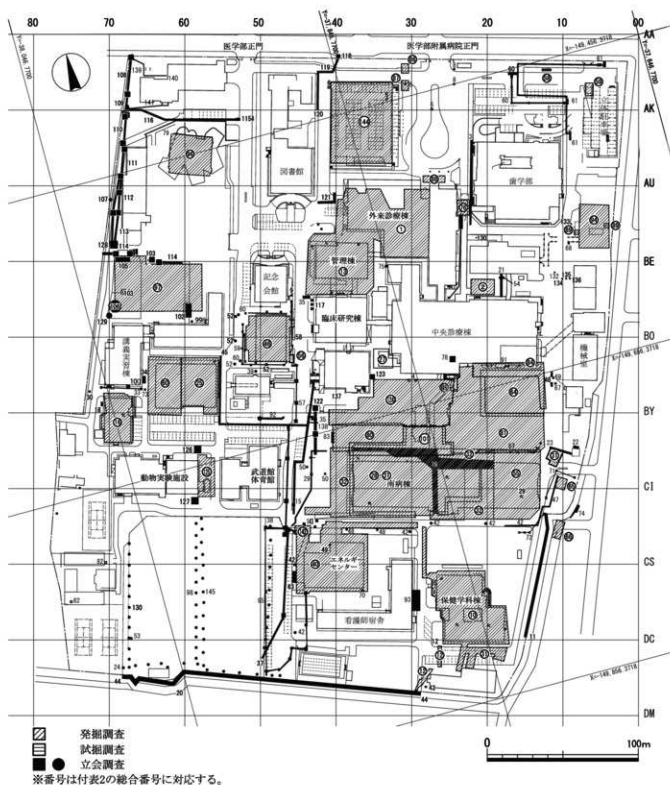


付図2 津島地区全体図 (縮尺1/20,000)









付図4 2019年度以前の調査地点【2】-鹿田地区- (縮尺1/2500)



## 第Ⅱ部

# 津島岡大遺跡第35次発掘調査報告

—附属図書館増設工事に伴う発掘調査—

### 第1節 調査の経緯と経過

1. 調査に至る経緯
2. 調査体制
3. 調査の経過

### 第2節 調査の記録

1. 調査地点の位置
2. 層序と地形
3. 遺構と遺物

### 第3節 第35次調査成果のまとめ

## 例 言

1. 本書は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが、岡山大学附属図書館増設に伴って実施した津島岡大遺跡第35次調査の発掘調査報告書である。調査地点は、岡山市北区津島中3丁目1番1号に所在する。発掘調査地点の津島地区横内座標はAW13区にあたる。期間は2013年7月8日～8月29日、調査面積は80m<sup>2</sup>である。
2. 発掘調査および報告書作成は、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会の指導のもとに行われた。委員諸氏に例礼申し上げる。
3. 発掘調査時の遺構実測・写真撮影は、野崎貴博が行った。
4. 報告書作成に当たって、遺物実測・抄書、遺構抄書は野崎が行った。
5. 報告の執筆は野崎が行った。
6. 編集は清家章（副センター長）・岩崎志保（調査研究室長）の指導のもと、野崎が担当した。
7. 発掘調査の概要は『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2013』に一部報告しているが、本書をもって正式なものとする。
8. 本書に掲載した記録・出土遺物は全て本センターで保管している。

## 凡 例

1. 本書で用いる高度値は海拔表高であり、方位は国土地理院V座標系（日本測地系）の座標北である。
2. 遺物番号は遺構別に番号を付す。
3. 土層注記では鉄分をFe、マンガンをMnと表記した。一般的なものでは省略している。また、下記の記号を用いて含有量を示している。  
◎：顕著な含有、○：含有、△：少量の含有

## 第1節 調査の経緯と経過

### 1. 調査に至る経緯

2013年度に図書館本館北側を増築することが決定した。増築予定地の北西では、1993～1994年度に第12次発掘調査を実施しており、縄文時代の土坑や焼土集中域、弥生時代前期の水田、弥生時代後期を中心とする大溝や古墳時代初頭の溝群、古代から近世まで継続して掘削された、条里制の坪境を画する東西方向の溝などを確認している。今回の予定地では、第12次調査地点で検出された遺構の広がりや予測されること、条里の南北方向の坪境が想定される13～14ライン間に位置することから、発掘調査を実施することとした。

### 2. 調査体制

#### [発掘年度]

調査主体	岡山大学	学 長	森田 潔
調査担当	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	センター長	門岡 裕一
		副センター長	新納 泉
		助 教	野崎 貴博

#### 調査研究員（調査主任）

#### 運営委員会

#### [調査年度]

財務・施設担当理事（センター長）	門岡 裕一	大学院環境学研究科教授・附属図書館長	
大学院社会文化科学研究科教授（副センター長）		（調査研究専門委員）	沖 陽子
	新納 泉	大学院自然科学研究科教授	鈴木 茂之
大学院社会文化科学研究科教授	久野 修義	埋蔵文化財調査研究センター教授	
大学院社会文化科学研究科教授	松本 武彦	（調査研究室長）	山本 悦世
大学院医歯薬学総合研究科教授	大塚 愛二	施設企画部長	秋山 明寛

#### [報告年度]

財務・施設担当理事（センター長）	袖山 慎之	大学院環境生命科学研究科教授	加藤 鎌司
大学院社会文化科学研究科教授（副センター長）		大学院自然科学研究科准教授	野坂 俊夫
	清家 章	埋蔵文化財調査研究センター准教授	
大学院社会文化科学研究科教授	今津 勝紀	（調査研究室長）	岩崎 志保
大学院社会文化科学研究科教授	松本 直子	施設企画部長	岩永 仁
大学院医歯薬学総合研究科教授	大橋 俊孝		

### 3. 調査の経過

発掘調査に先立ち、7月1～5日の期間で重機により近・現代の造成土と攪乱埋土を除去した。調査区南西には既設の浄化槽があり、造成土掘削の際にあわせて撤去する方針であった。しかし、周辺の造成土および攪乱埋土の除去を進めたところ、浄化槽による攪乱は弥生・古墳時代の土層まで、縄文時代の土層にはおよんでいないことがわかった。そのため、浄化槽の撤去の際の破壊をより抑えるべく、周囲の調査が終了した段階で撤去、その後、浄化槽下へのこの包含層を調査することとした。

発掘調査は調査員1名を担当者として7月8日より開始し、調査区内の攪乱清掃および周囲の側溝掘削、近代層である2層の掘削を行った。以降、調査区四周の断面観察で分層した基本層序にしたがって下位の土層へと掘削をすすめ、〈3層〉・〈4層〉・〈9層〉・〈10層〉・〈12層〉で遺構を検出した。〈12層〉では四周の側溝壁面の観察では遺構はなく、遺物も出土しなかったため、本層が縄文時代の基盤層であると判断し、浄化槽部分を除く範囲の調査を8月13日に終了した。

浄化槽は8月中旬から構造物の撤去を開始し、8月26日に重機による攪乱土の除去作業を行った。浄化槽下には〈11層〉より下位の土層がのこっており、発掘調査は調査員1名を担当者として27日から開始した。攪乱の除去・清掃の後、〈11層〉から精査を行ったが、本体部分と同様、水田畦畔は検出されなかった。〈11層〉掘り下げ後、〈12層〉上面で遺構検出を行い、浄化槽部分の南東角でピット1基を確認した。その他に遺構はなく、遺物も出土しなかったため、本体部分と同様、本層が縄文時代の基盤層と判断し、必要な記録をとったうえで29日にすべての調査を終了した。

## 第2節 調査の記録

### 1. 調査地点の位置

本調査地点は津島北地区西半にある図書館本館・新館・書庫に四方を囲まれた空隙地にあたり、津島地区に設定した構内座標ではAW13区にあたる(図37)。周辺では第1次調査(排水集中槽)、第11次調査(情報処理センター)、第12次調査(図書館新館)、第13次調査(福利厚生施設北)、第34次調査(国際交流会館)を実施している。

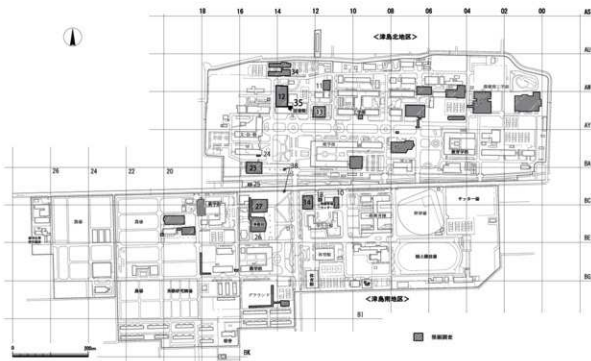


図37 津島岡大遺跡構内座標と各調査地点(縮尺1/10,000)

## 2. 層序と地形

**層序** 本調査区で確認された土層は12層に大別される(図38・39)。以下、各層の概要を記載する。なお、本調査区では遺物の出土が少なく、各土層の時期を判定する情報は不足しており、隣接する第12次調査(図書館新館)地点の調査成果も参照して時期を推定している。

〈1層〉 1907(明治40)年の旧日本陸軍第十七師団駐屯地造成以降、現在に至るまでの造成土である。現地表面の標高は約48~49mである。層厚は約1.65mである。

〈2層〉 暗灰色砂質土である。小礫(径3~5mm)を多く含む。駐屯地造成が開始された1907年以前の耕作土で、上面の標高は約32mである。層厚は約0.15mである。

〈3層〉 淡緑黄色砂質土である。上面には鉄分の沈着が顕著にみられる。小礫(径3~5mm大)を含む。近世の耕作土と考えられる。上面の標高は約3.0~3.1mである。層厚は約0.08mである。

〈4層〉 淡緑黄褐色砂質土である。上面には鉄分の沈着が顕著にみられる。近世の耕作土と考えられる。上面の

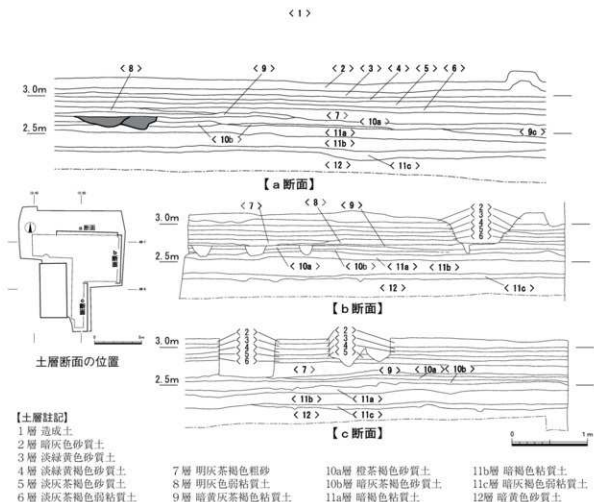


図38 土層断面(縮尺1/50)

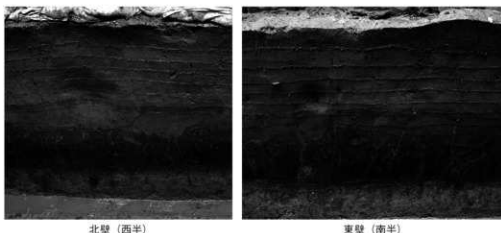


図39 土層断面

標高は約2.9～3.0mである。層厚は約0.08mである。

〈5層〉 淡灰茶褐色砂質土である。上面には鉄分の沈着が顕著にみられる。炭小片をわずかに含む。近世の耕作土と考えられる。上面の標高は約2.85～2.95mである。層厚は約0.1mである。

〈6層〉 淡灰茶褐色弱粘質土で、土色・土質から中世の耕作土と考えている。上面の標高は約2.85～2.9mである。層厚は約0.1mである。

〈7層〉 明灰茶褐色粗砂で、調査区東半のたわみ部分を中心に堆積する砂層である。第12次調査の土層との対応関係からは古代の堆積層と考えられる。上面の標高は約2.75～2.8mである。層厚は約0.15mである。

〈8層〉 明灰色弱粘質土で、調査区西半および南側で確認した。土色・土質から古代の耕作土と考えられる。上面の標高は約2.75～2.85mである。層厚は約0.08mである。

〈9層〉 暗黄灰茶褐色粘質土である。調査区東半の〈7層〉が堆積するたわみ部分では、〈9層〉はみられない。土色・土質から古代の耕作土と考えている。上面の標高は約2.65～2.75mである。層厚は約0.06mである。

〈10層〉 2層に細分される。

〈10a層〉 橙茶褐色砂質土である。鉄分の沈着が顕著である。上面の標高は約2.6～2.7mである。上面で検出した溝からは古墳時代後期の須恵器が出土しており、古墳時代後期以前の土層であると位置づけられる。層厚は約0.1mである。

〈10b層〉 暗灰茶褐色砂質土である。鉄分の沈着が顕著である。調査区北東の一角をのぞく範囲で堆積が確認される。炭・焼土小片を含む。灰色砂質土ブロックが生痕状に入る。時期を推定する手がかりに欠ける。上面の標高は約2.55～2.65mである。層厚は約0.06mである。

〈11層〉 津島地区では上面が弥生時代前期に比定される「黒色土」である。本調査区では3層に細分される。

〈11a層〉 暗褐色粘質土である。鉄分の沈着が顕著である。炭・焼土小片を含む。灰褐色砂質土ブロックが生痕状に入る。上面の標高は約2.45～2.6mである。層厚は約0.14mである。

〈11b層〉 暗褐色粘質土である。炭・焼土小片を含む。灰褐色砂質土ブロックを含む。〈11a層〉より緻密で混じりの少ない土層である。上面の標高は約2.35～2.55mである。層厚は約0.2mである。

〈11c層〉 暗灰褐色弱粘質土である。〈12層〉への漸移層であり、〈12層〉に近似する明黄色砂質土ブロックを含む。上面の標高は約2.35～2.5mである。層厚は約0.1mである。

〈12層〉 暗黄色砂質土である。暗褐色粘質土ブロックが生痕状に入る。縄文時代の基盤層と考えられる。上面の標高は約2.15～2.3mである。層厚は0.35m以上である。



**地形** 本調査地点の北西に隣接する第12次調査地点では、縄文時代の段階には北半部が低く（標高約1.6～1.9m）、南半部が高い地形（標高約2.1～2.2m）を呈することが確認されている。本調査区で縄文時代の土層とする（12層）上面の標高は約2.2～2.3m前後をはかり、高い地形が南東に続くことが確認された。弥生時代前期までの段階は、「黒色土」である〈11層〉が本調査地点で約0.3m、第12次調査地点で約0.3～0.4mの厚みで堆積している。「黒色土」は泥炭層と考えられているが、本調査地点や第12次調査地点ではその形成が発達していることから、〈11層〉形成段階には本地点周辺はながく湿地帯であったと推測される。弥生時代前期以降、地形の起伏は次第に小さくなり、中世以降、概ね平坦となる。平坦化した地形は近代へも引き継がれる。

### 3. 遺構と遺物

本調査区では、〈12層〉、〈10層〉、〈9層〉、〈4層〉、〈3層〉の上面で遺構を検出した（図40）。

#### a. 縄文時代の遺構

〈12層〉 上面でピット2基を検出した。また、焼土・炭が浅いくぼみに散布する状況が確認された。本調査区の北西部に位置する第12次調査地点では、調査区南東部に土坑やピットの集中域、調査区北半部に数か所の焼土・炭散布が確認されている。

本調査地点で検出した2基のピットは約8mの間隔で、それぞれ単独で存在している。焼土・炭散布は第12次調査のものよりも包含物の密度が低く、浅い窪みに二次的に堆積したものと考えられる。

ピット1（図41左）

AW13-38区に位置する。検出面の標高は2.35m、底面高は1.63mで、深さ0.72mをはかる。平面形は円形で、径約0.3m、下端は西に寄る。断面形は2段掘り状で、下部3/4は中心部から西に偏りながら、下方に細く延びている。埋土は上部が明灰色粘質土、下部が黒色を呈する粘性の土が主体で、最下部は明灰色粘土である。最下層の中央に細く暗褐色粘土層が延びている。ピットの中心に杭などがたてられた可能性も考えられるが、特異な断面形を呈すること、単独で存在することなど、評価は難しい。遺物は出土していない。検出面から、縄文時代の所産と考える。

ピット2（図41右）

AW13-27区に位置する。検出面の標高は2.25m、底面高は2.08mで、深さ0.17mである。平面形は不整形円形で、長軸0.34m、短軸0.32mをはかる。下端

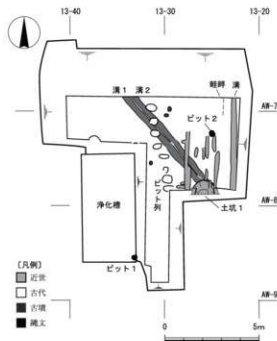


図40 検出遺構全体図（縮尺1/200）

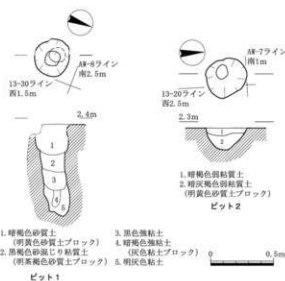


図41 ピット1・2（縮尺1/30）

は南西に偏る。断面形はボウル状を呈する。埋土は暗褐色を呈する弱粘質土で、2層には〈12層〉のブロックを包含する。遺物は出土していない。検出面から、縄文時代の所産と考える。

## b. 古墳時代の遺構

〈10層〉 上面で溝2条と溝の周囲に散在するピット4基を検出した。2条の溝は調査区東半から中央において、南東から北西方向にむかってほぼ直線的に掘削されている。切り合い関係を有しており、東側の溝1が西側の溝2に切られる。ピットは溝群の両側で4基検出した。

### 溝1・2 (図42-44)

AW13-27・36・37区で検出した。南東-北西方向に2条が並行して延び、東側の溝1が西側の溝2に切られる。検出面の標高は約2.59~2.67m、底面高は約2.49~2.57mで、深さは0.04~0.1mである。底面の標高から、北西から南東に向かって流下する。

埋土はいずれも2層に細分される。1層は灰褐色砂質土、2層は灰茶褐色砂質土で、1層には鉄分を多く含み、明灰白色粘質土ブロックを含む。2層には鉄分を多く含み、粗砂や〈11層〉のブロックを含む。

遺物は溝1・2の上半部において、明瞭に層属を分離できない埋土中から、古墳時代後期に属する須恵器杯蓋、杯身が出土している。出土遺物から古墳時代後期に位置づけられる。

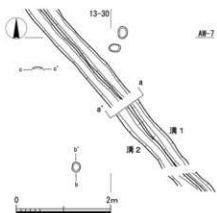


図42 古墳時代の遺構 (縮尺1/80)



図43 溝1・2断面 (縮尺1/30)



図44 古墳時代の遺構 (北東より)

## ピット (図45)

AW13-26・27・37区で4基を検出した。検出面は〈10層〉である。検出面の標高は約2.55~2.61m、底面高は約2.4~2.51mで、深さは約0.1~0.16mである。

平面形はいずれも楕円形、断面形はボウル状、U字状を呈する。規模は長軸長約0.2~0.24m、短軸長0.16~0.2mである。

埋土はいずれも2層に細分される。主体をなすのは、暗灰黄褐色砂質土で、〈11層〉のブロックを包含する。底面には灰橙褐色や灰白色の砂や砂質土が薄く、レンズ状に堆積するものが多い。4基のピットは、形状・規模・埋土の特徴が類似するものの、配置には規則性が認められないため、なんらかの構造物を想定することは難しい。

なお、隣接する第12次調査地点では、ピットが溝1・2に接続するとみられる溝を切っていることが確認されており、本調査区のピットも同様のものであるとすれば、溝に後出する遺構と推測しうる。

遺物は1基から土師器小片が出土したが、時期を特定できない。検出面から古墳時代後期に属すると考える。

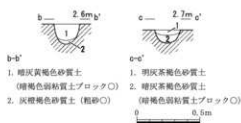


図45 ピット断面 (縮尺1/30)

## c. 古代の遺構

## ピット列 (図46)

AW13-27・36・37区、〈9層〉上面で検出した。南北方向に並ぶ8基のピットで構成される。列を構成するピットの平面形は円形、長楕円、隅丸長方形を呈する。規模は長軸長約0.32~0.6m、短軸長0.23~0.44mである。軸線は東西方向が6基、北東-南西方向が1基、南北方向が1基である。断面形はいずれも皿状を呈する。検出面の標高は2.72~2.75m、底面高は2.65~2.71mで、深さは0.03~0.08mである。

埋土はいずれも灰白色砂質土が主体で、細~粗砂粒を顕著に含む。ピット②は、ピット内に径約0.1~0.15mの小孔をもつが、ほぼ同色・同質の土で埋没する。

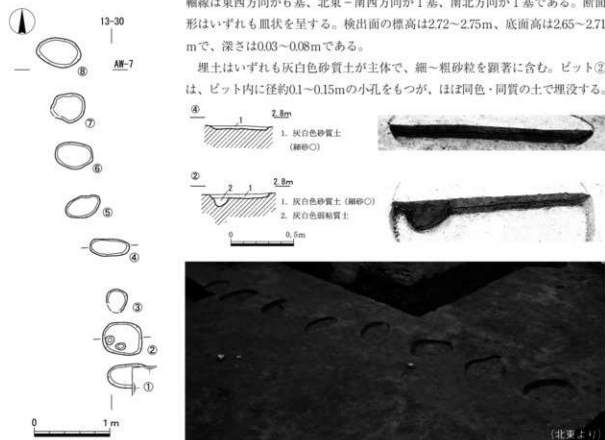


図46 ピット列 (縮尺1/30・1/50)

遺物は出土していない。検出面から古代に属すると考えられる。

ピットの規模、形状、埋土の類似から一連の遺構であると考えているが、北半の4基と南半の4基では列の軸線にわずかながらもずれが認められるため、別のピット列である可能性もある。ピット列の東側には南北方向に延びるたわみが確認されている。このラインは津島郷と弘西郷の郷境とされる、条里の南北方向の区画線の延長線上にあたる。このピット列が条里の地割に関連する遺構である可能性は大きい<sup>1)</sup>。

#### d. 近世の遺構

〈3層〉上面では調査区東半で南北方向の畦畔・溝および耕作痕、〈4層〉上面では調査区東半南側で土坑1基を検出した(図47)。

##### 畦畔(図48)

調査区北東角、AW13-27区において、〈3層〉に属し、南北方向を志向する畦畔が南北約1mの長さで残存していることを確認した。検出は〈2層〉中である。検出標高は3.2m、下端の幅は0.45mで、下端標高は3.07m、高さは0.13mである。

断面形は、東半部で上部が崩れているが、おおむね台形を呈するものと復元される。畦畔の東には併行して南北方向の溝が掘削される。また、上位に〈2層〉の畦畔が重複しており、位置を踏襲して畦畔が更新されていることがうかがえる。

##### 溝3(図49)

畦畔の東で軸を描いて南北方向に延びるもので、AW13-26・27区で検出した。検出できた長さは約5mである。南東部の掘り方土端は側溝で失われている。〈3層〉で検出した。検出面の標高は3.13m、底面高は2.91mで、深さは0.22mである。溝の幅は約0.25~0.35mである。断面形は二段掘りを呈するとみられる。埋土は暗灰色砂質土で、小礫を多く含む。

遺物は出土していない。検出面から近世に属すると考えられる。

##### 耕作痕

AW13-27区で、細く浅い溝が併行した状況で検出された。南北方向をとる8条を主体とし、2条はこれに直交して東西方向をとる。溝の幅は約0.2~0.4m、断面形は皿状で深さは約1~3cmである。埋土は暗灰色砂質土である。鋤溝等、耕作に伴う痕跡と考えられる。

遺物は出土していない。検出面から近世に属すると考えられる。

##### 土坑1(図50)

AW13-27区に位置する。土坑南半部は側溝および土層観察用土手に包含され、さらに調査区外へも延びている。〈4層〉で検出した。検出面の標高は2.9~2.93m、底面高は2.11mで、深さは約0.8mである。規模は上面で南北0.75m以上、東西1.37m、底面で南北0.25m以上、東西0.55mをはかる。平面形は、残存部の形状から、楕円形を呈すると考えられる。下端は北~東辺が直線的で、不整な方形を呈すると推測される。断面形はボウル状を呈する。

埋土は6層に分層される。上半の1~3層は砂質土、下半の4~6層は粘質土で、3層下面の層界面で埋土の土質が変わる。上半は土色・土質・包含

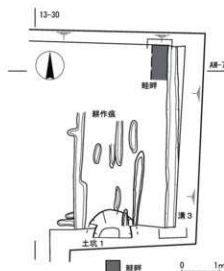


図47 近世の遺構(縮尺1/100)

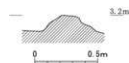


図48 畦畔断面(縮尺1/30)

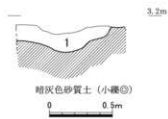


図49 溝3断面(縮尺1/30)

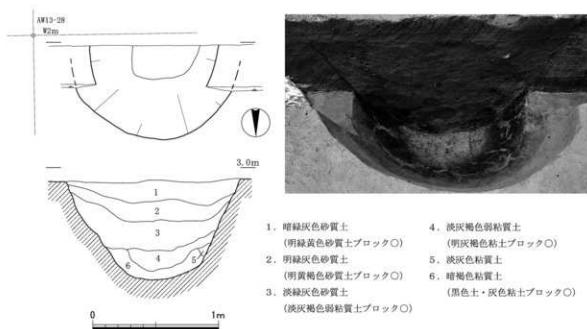


図50 土坑1 (縮尺1/30)

物などの要素が近似する一群で各層の形状もレンズ状をとるなど共通点が多く、下半はブロック状の土層である5層を除外すると、4・6層では粘質土中に粘土ブロックの顕著な包含が認められる点が一致する。3層下面で4・6層と不整合な状態となっており、この段階で再掘削等の行為がなされたと考えられる。

遺物は出土していない。検出面より近世に属すると考えられる。

#### e. 出土遺物 (図51)

本調査地点での遺物出土量は、コンテナ(28ℓ/箱)1箱であった。その内容は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、中世の土師質土器、陶器、近世陶磁器で、ほとんどが図化不能な小片である。層ごとの出土量では〈8層〉・〈9層〉からの出土が過半を占め、他は寡少である。ここでは溝1・2および〈7層〉、〈8層〉、〈9層〉から出土した、時期比定の参考となる遺物を示す。1は溝1・2から出土した須恵器杯蓋、2は〈9層〉から出土した須恵器杯身でいずれも古墳時代後期のものである。3・4は〈8層〉から出土した8世紀代に位置づけられる須恵器である。5・6は〈7層〉から出土した須恵器杯、土師器高台付杯で、いずれも10世紀代に位置づけられる。本調査区での出土量は寡少であったが、遺物の時期と層位との関係は、第12次調査における遺物と層位の関係とも矛盾しない傾向を示す。



図51 出土遺物 (縮尺1/4)

遺物番号	遺構・層	部 種	法量: cm・1/651下			特 徴	胎 土	色 調/内/外
			口径	底径	器高			
1	溝1・2	須恵器 杯蓋	-	-	-	外:ケズリ・ナデ, 端部:丸い	精良	明灰/灰
2	〈9層〉	須恵器 杯身	-	-	-	内外:ナデ, 端部:丸い	精良	淡青灰/明灰
3	〈8層〉	須恵器 蓋	-	-	-	外:ケズリ・ナデ, 内:ナデ	良	灰白/灰白
4	〈8層〉	須恵器 蓋?	-	-	-	内外:ナデ, 底:ナデ	良	乳白/乳白
5	〈7層〉	須恵器 杯	-	5.4	-	内外:ナデ, 底:糸切り	良	灰/明灰
6	〈7層〉	土師器 高台付杯	-	7.2	-	内外:ナデ	粗細○	淡黄/淡黄白

### 第3節 第35次調査成果のまとめ

隣接する第12次調査地点検出遺構<sup>2)</sup>との関連を時代ごとに記し、本調査地点における成果のまとめとする。

- 縄文時代の遺構(図52上)では、ピット2基を確認した。いずれも単独で存在する。一方、北東に位置する第12次調査地点では、土坑やピットが本調査区に近い南東部で群をなす状況が確認されており、大局的にはそうした部分の南東方向への延長ということで本調査区のピットも理解される。
- 弥生時代の畦畔は検出されなかった。第12次調査では前期の水田面を2面確認しているが、本調査区では畦畔は検出されなかった。12次調査南東部から本調査区の範囲では、地形が高いことにより、畦畔が構築されていた黒色土の上面が削平を受けて失われたと考えられる。
- 古墳時代後期の遺構(図52中)では、本調査区の溝1・2は、第12次調査の溝24、25・26に接続する可能性が高いが、両調査区間に空隙があることもあり、1対1の対応関係を定めることは難しい。いずれにしても底面高は第12次調査地点検出溝の方が低く、南東から北西方向に向かって流下している。
- 古代の遺構(図52下)は、本調査区では南北方向のピット列を検出したが、第12次調査では、AW2~4ラインに沿って、東西方向で幅約10m前後、深さ約1m前後の条里の坪境にあたる溝が掘削されている。本調査では、13-30ラインに沿って南北方向のピット列が検出されている。前述のとおり、このラインは、郷境となっている南北方向の条里の区画線を北に延長した位置にあっている。
- 近世の遺構は、12次調査ではAW2ラインに沿って東西溝が掘られ、その北に土坑群が並行して掘削される。本調査区では、南北方向の条里の区画線が通るとみられる13-20~30ラインで土坑1基が検出された。両地点とも、土坑は条里地割を踏襲した溝や大畦畔などの土地区画施設に沿って構築される。

(註)

- 石田寛1962『岡山市域の条里』『岡山市史(古代篇)』、池田晋2009『津島岡大道路における古代から近代の条里遺構』『津島岡大道路19』岡山大学構内道路発掘調査報告 第25冊
- 山本悦世・岩崎志保編2003『津島岡大道路11』岡山大学構内道路発掘調査報告 第16冊

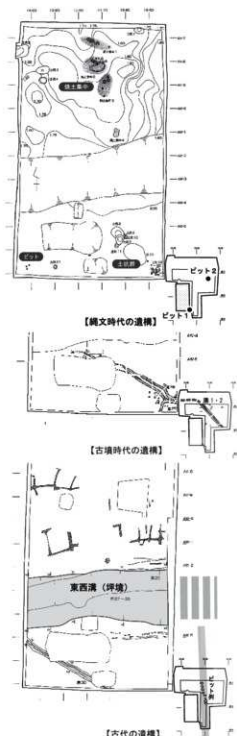


図52 第12次調査地点との関係  
(縮尺1/800)

## 報告書抄録

ふりがな	おかやまだいがくまいぞうぶんかざいちょうざげんきゆうせんたーきよう							
書名	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2020							
編著者名	野崎貴博							
編集機関	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター							
所在地	〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中3丁目1番1号 TEL 086-251-7290							
発行年月日	2021年10月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	(世界測地系)	(世界測地系)			
津島岡大遺跡	岡山県岡山市 北区津島中三 丁目1番1号	33201	県1474	34° 41' 22"	133° 55' 10"	20130708～ 0829	80m <sup>2</sup>	図書館 増築
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
津島岡大遺跡 第35次 調査地点	集落	縄文時代		ピット				
	田畑	古墳時代		溝1条		須恵器		
	田畑	古代		ピット列		土師器・須恵器		
	田畑	近世		土坑1基、耕作痕				

Copyright©Archaeological Research Center, Okayama University

Printed in Okayama, Japan

---

---

2021年10月29日 印刷

2021年10月29日 発行

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要  
2020

編集・発行 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
岡山市北区津島中三丁目1番1号  
(086) 251-7290

印刷 友野印刷株式会社

---

---





**BULLETIN of  
Archaeological Research Center  
Okayama University  
2020**

Archaeological Research Center, Okayama University  
3-1-1 Tsushima-Naka Kita-ku Okayama-city, 700-8530 Japan  
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/arc/archome.html>